

# 尾崎喜八

## 著作・作品一覧

### 《 目 次 》

凡 例	1 頁
1 著作一覧	
A 主要著作	2 頁
B 共著その他	5 頁
C 定期刊行物	9 頁
2 目次一覧	14 頁
3 作品名一覧	55 頁
(附)翻訳書	124 頁

# 凡 例

○本書の内容は次の通り

1 著作一覧	A 主要著作 : 尾崎名義の著書、もしくは本人及び関係者の意向が編集・出版に強く反映されていると思われる著作
	B 共著その他: 尾崎の作品が掲載された、他者による編集本・他の著作者の刊本(解説、月報などを含む)等
	C 定期刊行物: 尾崎の作品が掲載された雑誌・新聞・定期刊行物等
2 目次一覧	Aの全目次の一覧
3 作品名一覧	A・B・Cに掲載された作品の50音順の一覧。初出のもののみとし、初出情報を表記
(附) 翻訳書	単行本化された尾崎の翻訳書の原著者別一覧

○‘A 主要著作’のデータ

- ・ごく一部を除き、原本により確認している。

○‘B 共著その他’‘C 定期刊行物’等のデータ

- ・嘉納忠明氏の貴重な労作「新聞・雑誌掲載目録」（『尾崎喜八資料』1～7等に収録、以下「目録」）を基にさせていただいた。
- ・国立国会図書館のネット検索‘尾崎喜八’で得られたデータ、その他古書店目録等の各種情報源から得たデータを追加している。
- ・ごく一部を除き、原本と照合していない。なお「目録」にも原本未確認のものがある。
- ・なお、堀隆雄氏による「尾崎喜八著作総目録」（『尾崎喜八資料』13に紹介）があるが、未見。

○目次一覧

- ・Aの全目次を刊行順に一覧にした。
- ・再録もすべて含めた。尾崎は、再録にあたって改変などを細かく行っている場合があるためである。

○作品名一覧

- ・A・B・Cに掲載された作品名を突合せ、単行本・紙誌等の初出関係を一覧にした。
- ・単行本・紙誌とも初出のみを掲げた。ただし、初出かどうかをすべて確認しているものではないので‘最初に見られた資料’という程度に解されたい。
- ・再録は、原則として省いた。

○その他

- ・「目録」では、詩/評論/随想/評論・感想など詳細に分類されているが、本書では‘詩’‘散文’に二分し、‘詩’のみ表記した。
- ・再刊・既刊本からの再録の作品は小ポイントにした。
- ・改題されているものは ← で元題を示し、元題には → で改題先を示した。表記の違いなど、判然としているものは一方のみを記した。
- ・発刊年月は、西暦下二桁に（ ）書きで和暦を記し、単行本・雑誌は発刊月まで、新聞類は発行日まで記した。

(2020年12月 記)

# 1 著作一覧

## A 主要著作

- ・尾崎本人、もしくは関係者の意向が編集・出版に強く反映されていると思われる単行本を発刊順に一覧とした。  
『待望』『自由漁夫』は‘尾崎喜八個人雑誌’であるが、こちらに分類した。  
『素顔の鎌倉』『自然手帖』『わが庭の寓話』は単著ではないが、こちらに分類した。
- ・私家版は、原則として掲載していない。
- ・検索の便宜のために、一連番号と略称を設定した。
- ・再版・再刊などについては小ポイントで表記した。

No.	内容	書名	略称	発刊年月	出版社、等	備考
01	詩	詩集 空と樹木	01 樹木	22(T11).05	玄文社詩歌部	
02	詩	詩集 高層雲の下	02 高層雲	24(T13).06	新詩壇社	
03		待望	03 待望	27(S02).01	(尾崎喜八個人雑誌)	
04	詩	曠野の火	04 曠野	27(S02).09	素人社	
05		自由漁夫	05 漁夫	29(S04).07	(尾崎喜八個人雑誌)	
06	詩	詩集 旅と滞在		33(S08).06	朋文堂	
07	散	山の繪本	07 繪本	35(S10).07	朋文堂	
07-2	散	山の繪本		38(S13).05	朋文堂	普及版
08	詩	詩集 旅と滞在(増補普及版)	08 滞在	38(S13).05	朋文堂	06に増補したもの
09	散	雲と草原	09 草原	38(S13).07	朋文堂	
10	詩	詩集 行人の歌	10 行人	40(S15).12	竜星閣	
11	散	雲	11 雲	42(S17).05	アルス(アルス文化叢書 11)	
12	散	詩人の風土	12 風土	42(S17).06	三笠書房(現代叢書 28)	
07-3	散	山の繪本		42(S17).07	朋文堂	普及版の再版
13	詩	詩集 高原詩抄	13 高原	42(S17).09	青木書房	
14	詩	詩集 此の糧	14 糧	42(S17).10	二見書房	
15	詩	詩集 二十年の歌	15 二十年	43(S18).02	三笠書房	
09-2	散	雲と草原		43(S18).07	朋文堂	四版
16	詩	詩集 組長詩篇	16 組長	43(S18).04	大政翼賛会宣伝部	
16-2	詩	詩集 組長詩篇		43(S18).08	大政翼賛会刊行会	
17	詩	詩集 同胞と共にあり	17 同胞	44(S19).03	二見書房	
18	散	麥刈の月	18 麥刈	46(S21).04	生活社(日本叢書 50)	
19	詩	詩集 夏雲	19 夏雲	46(S21).10	青園荘(非売品)	

No.	内容	書名	略称	発刊年月	出版社、等	備考
20	詩	詩集 残花抄	20 残花	48(S23).01	玄文社	
21	散/詩	高原暦日	21 暦日	48(S23).03	あしかび書房	
22	散	美しき視野	22 視野	48(S23).06	友文社	
23	散	碧い遠方	23 遠方	51(S26).09	角川書店(角川文庫)	
07-4	散	山の繪本		51(S26).10	角川書店(角川文庫)	文庫化
09-3	散	雲と草原		53(S28).12	角川書店(角川文庫)	文庫化
24	詩	尾崎喜八詩集	24 創元詩集	52(S.27).05	創元社(創元文庫)	尾崎喜八・石黒栄子選
25	詩	尾崎喜八詩集	25 新潮詩集	53(S.28).07	新潮社(新潮文庫)	尾崎喜八選
26	詩	詩集 花咲ける孤獨	26 孤独	55(S30).02	三笠書房	
27	散	わが詩の流域	27 流域	55(S30).11	三笠書房(三笠新書)	旧著からの再録
28	散/詩	山の詩帖	28 詩帖	56(S31).11	朋文堂(コマクサ叢書 3)	旧著からの再録
07-5	散	山の繪本		57(S32).10	新潮社(新潮文庫)	文庫化
29	詩	詩集 歳月の歌	29 歳月	58(S33).11	朋文堂	
30	散	尾崎喜八詩文集 第七巻：夕映えに立ちて	30 詩文集 07	58(S33).12	創文社	
31	散	尾崎喜八詩文集 第五巻：雲と草原	31 詩文集 05	59(S34).01	創文社	旧著からの再録
32	詩	尾崎喜八詩文集 第一巻：空と樹木	32 詩文集 01	59(S34).03	創文社	旧著からの再録
33	詩	尾崎喜八詩文集 第二巻：旅と滞在	33 詩文集 02	59(S34).05	創文社	
34	散	尾崎喜八詩文集 第四巻：山の繪本	34 詩文集 04	59(S34).05	創文社	
35	散	尾崎喜八詩文集 第六巻：美しき視野	35 詩文集 06	59(S34).08	創文社	旧著からの再録
36	詩	尾崎喜八詩文集 第三巻：花咲ける孤独	36 詩文集 03	59(S34).10	創文社	
37	散	尾崎喜八詩文集 第八巻：いたるところの歌	37 詩文集 08	62(S37).07	創文社	
38	散	自然手帖	38 手帖	64(S39).03	大和書房(銀河選書 5)	共著～著者代表：尾崎喜八・串田孫一
39	散	さまざまの泉	39 泉	64(S39).08	白水社	
07-6	散	山の繪本		66(S41).03	あかね書房(日本山岳名著全集 7)	
40	詩	詩集 田舎のモーツァルト	40 田舎	66(S41).11	創文社	
41	散	わたしの衆讃歌	41 衆讃歌	67(S42).02	創文社	
38-2	散	自然手帖		68(S43).12	雪華社	改版
42	散	夕べの旋律	42 旋律	69(S44).06	創文社	
43	詩	自註 富士見高原詩集	43 富士見	69(S44).11	青娥書房	
44	詩	詩集 その空の下で	44 空の下	70(S45).12	創文社	
45	散	あの頃の私の山	45 私の山	71(S46).07	二見書房(山岳名著シリーズ)	旧著からの再録
46	散	素顔の鎌倉	46 鎌倉	71(S46).09	実業の日本社	共著～大佛次郎編
47	散	尾崎喜八詩文集 第九巻：晩き木の実	47 詩文集 09	72(S47).06	創文社	旧著からの再録
48	散	音楽への愛と感謝	48 音楽	73(S48).08	新潮社	
		一昭和 49(1974).02.04 永眠一				

No.	内容	書名	略称	発刊年月	出版社、等	備考
49	散/詩	尾崎喜八詩文集 第十卷：冬の雅歌	49 詩文集 10	75(S50).03	創文社	串田孫一・伊藤海彦編
50	散	わが庭の寓話	50 寓話	76(S51).08	四季書館	デュアメルの翻訳に尾崎の随想を付加
51	散	名もなき季節—富士見からの手紙	51 季節	76(S51).12	創文社	伊藤海彦編
52	散	日光と枯草	52 日光	77(S52).10	スキージャーナル(自然と人間シリーズ12)	串田孫一編
07-7	散	山の繪本		78(S53).09	大修館書店(新選覆刻日本の山岳名著)	復刻版
53	散	魂、そのめぐりあいの幸福	53 魂	79(S54).09	昭和出版	
54	散	わが音楽の風光	54 風光	81(S56).03	六興出版	伊藤海彦編
03-2		待望(個人雑誌)		81(S56).09	教育出版センター	復刻版
44-2	詩	自註 富士見高原詩集		84(S59).07	鳥影社	復刻版
49-2	散	音楽への愛と感謝		92(H04).01	音楽之友社	復刻版
07-8	散	山の繪本		93(H05).05	岩波文庫	文庫化
51-2	散	わが庭の寓話		98(H10).12	ちくま文庫	文庫化

## B 共著、その他

- ・尾崎の作品が収載された、他者による編集本・他の著作者の刊本等を発刊順に一覧とした。
- ・定期刊行物への寄稿以外のものも含む。解説・月報類もここに分類した。
- ・尾崎の作品の紹介・評釈等も含めた。
- ・翻訳関係、私家版は、原則として掲載していない。
- ・既刊本からの再録の作品は小ポイントにした。
- ・このほかに、尾崎喜八研究会による「尾崎喜八資料」にも作品が収載されているが、これらは「3 作品名一覧」に表記した。

書名	発刊年月	出版社、等	収載作品
小泉鉄編『白樺十周年紀年集』	20(T09)	白樺社	ある女の死
伊藤信吉監修『学校詩集 一九二九年版』	29(S04)	学校詩集発行所	仲間、言葉
『現代詩人全集』月報 4	29(S04).04	新潮社	高村光太郎恭敬
百田宗治編『現代詩講座 3・世界新興詩派研究』	29(S04).12	金星堂	ユナニミスムの詩人
百田宗治編『今日の詩』	32(S07).02	金星堂	詩に於ける現実 (アンケート)
『明治大正昭和詩人選 南有集』	32(S07).09	東北書院	新戦場
『法師温泉』	32(S07).10	旅人社	ランプに黒光る宿 (都新聞所収)
草野心平編『宮沢賢治追悼』	34(S09).01	次郎社	雲の中で刈った草
山本三生編纂代表『日本文学講座 09 新詩文学編』	34(S09).10	改造社	昭和現代詩の鑑賞 (抄)
木村荘太『林園賦—新農場生活記』	35(S10).04	建設社	農村の事
高橋・黒田・角田編『山岳講座 6』	36(S11).04	共立社	さすらひと知見の旅
『ヘルマン・ヘッセ全集』月報 6	40(S15).02	三笠書房	再生の頃
大政翼賛会文化部編『愛国詩集 大詔奉戴』	42(S17).10	翼賛図書刊行会	少年航空兵
大政翼賛会宣伝部編『私の隣組』	42(S17).10	翼賛図書刊行会	私の隣組
大政翼賛会文化部編『地理の書』	42(S17).10	翼賛図書刊行会	雪消頃
大政翼賛会文化厚生部編『内原の朝』	43(S18).	翼賛図書刊行会	内原の朝
大政翼賛会文化部編『軍神につづけ』	43(S18).02	大政翼賛会宣伝部	軍神につづけ
岩田九郎編『戦ふ文章 解釈と作法』	44(S19)	研究社	武蔵野の路
恩地孝四郎編『詞華集 人體頌歌』	47(S22).06	富岳本社	トルソ、首
『現代世界文学全集 月報 6』	53(S28).04	新潮社	渝らぬ感謝
NHK編『第二放送随筆 お休みの前に』	53(S28).11	日本出版共同	柿、笛
尾崎喜八編『千家元麿詩集』	53(S28).11	新潮文庫	『千家元麿詩集』解説
『全詩集大成現代日本詩人全集 7』	54(S29).03	創元社	自伝、(既刊詩集のほぼ全てを収載 (戦時中の一部を除く))
『全詩集大成現代日本詩人全集 7』月報 4	54(S29).03	創元社	第一詩集の頃
串田孫一『幸福をめぐる断想』	54(S29).10	三笠書房	『幸福をめぐる断想』解説

高村光太郎『アトリエにて』	56(S31).06	新潮社	最後の本を前にして
日本放送協会編『随筆春秋』	56(S31).08	東西文明社	冬の庭、冬物語的一幕
『高村光太郎全集』月報 4	57(S32).07	筑摩書房	思い出（その一）ラコッチイ・マアチ
『高村光太郎全集』月報 6	57(S32).09	筑摩書房	思い出（その二）上河内
『世界文学大系』月報 2	58(S33).04	筑摩書房	車内の偶会
『ヘルマン・ヘッセ全集 別巻・ヘッセ研究』	58(S33).04	三笠書房	ヘルマン・ヘッセと自然
『現代紀行文学全集 6 上高地』附録	58(S33).07	修道社	木暮さんという人
串田孫一『串田孫一随想集』月報 4	58(S33).08	筑摩書房	串田さんの山の文章
上林暁編『日本の風土記 武蔵野』	58(S33).12	宝文館	片隅の武蔵野
草野心平編『高村光太郎と智恵子』	59(S34).04	筑摩書房	中年のおもかげ
伊藤信吉編『近代文学鑑賞講座 16』	59(S34).06	角川書店	三つの詩とその思い出
高村光太郎訳『ロダンの言葉』	59(S34).08	平凡社	高村光太郎訳『ロダンの言葉』解説
『世界名詩集大成』月報 7	59(S34).08	平凡社	詩人と音楽
串田孫一編集代表『山のABC』	59(S34).12	創文社	アルプ・牧場・うつくしがはら
『ロマン・ロラン全集』月報 xiv	59(S34).12	みすず書房	ロマン・ロランと自然（一）
『ロマン・ロラン全集』月報 xv	59(S34).12	みすず書房	ロマン・ロランと自然（二）
瀧井孝作編『文学に見る日本の川ー多摩川ー』	60(S35).	日本週報社	多摩河原
『女性のための音楽教養講座 2』	60(S35).10	音楽之友社	エステルとアンリエット
『現代日本名詩集大成 第 5 巻』	61(S36).03	創元新社	花咲ける孤独
串田孫一編『峠』	61(S36).05	有紀書房	鳥居峠
『ベートーヴェン選集 第 11 巻』附録	62(S37).04	筑摩書房	生涯の太陽
『日本山岳名著全集』月報 I	62(S37).05	あかね書房	木暮先生
『日本山岳名著全集』月報 2	62(S37).06	あかね書房	「山の絵本」の思い出
田部/尾崎/深田監修『日本山岳名著全集第 7 巻』	62(S37).06	あかね書房	『山の絵本』(抄)
『ベートーヴェン選集 6』	62(S37).08	筑摩書房	ベートーヴェンと自然
串田孫一編集代表『山のABC 2』	62(S37).12	創文社	富士見・霧氷・ウェストン祭
『図説日本文化地理大系 9・中部 I』	63(S38).02	小学館	池ノ平雪渓・上高地シラカバ林・上高地
尾崎喜八編『世界の詩 3・高村光太郎詩集』	63(S38).07	弥生書房	『高村光太郎詩集』編纂者の後記
『現代文学大系』月報 31	65(S40).11	筑摩書房	そのおもかげ
『高村光太郎全詩集』附録	66(S41).01	新潮社	晩秋の午後の夢想
『ドイツの文学』月報 4	66(S41).02	三修社	カロッサの教訓
『日本詩人全集』月報 9	66(S41).11	新潮社	林町のアトリエ
鳥見迅彦 編『山の詩集』	67(S42).01	雪華社	ひとりの山、体験
串田孫一/鳥見迅彦編『山の詩集』（現代教養文庫 591）	67(S42).02	社会思想社	（旧著から詩 8 編を収載）
有坂愛彦ほか編『世界の音楽 1』月報 5	67(S42).03	小学館	私のバッハ

串田孫一編『私の中の一つの詩』	67(S42).06	文理書院トリーム出版	蟬を彫る－高村光太郎
北川太一編『高村光太郎全詩稿』内容見本	67(S42).10	二玄社	無上の喜び
『日本詩人全集 23』(西脇順三郎・尾崎喜八)	67(S42).11	新潮社	串田孫一：編・解説 (旧著から詩 127 編、散文 9 編を収載)
『世界詩人全集 14』(ヘッセ詩集) 附録 3	67(S42).12	新潮社	ヘッセの詩とその翻訳について
『生活の本 5 自然との対話』	68(S43).03	文芸春秋	井荻日記
『カラー旅 5 信州と飛騨』	68(S43).03	主婦と生活社	安曇野－松本で・山葵田・上高地の谷で・美が原
串田孫一編『尾崎喜八詩集』	68(S43).03	弥生書房(世界の詩 54)	串田孫一編・解説 (旧著から 91 編を再録)
鳥見迅彦 編『山の詩集』(エーデルワイス・シリーズ 2)	68(S43).04	角川書店	峠
『読解講座 現代詩の鑑賞 2 近代詩 2(大正)』	68(S43).08	明治書院	言葉、秋の流域
『生活の本 10 生活の中の美』	68(S43).08	文芸春秋	生活の中の音楽
『新潮世界文学』月報 9	68(S43).10	新潮社	私のヘルマン・ヘッセ (1)
『新潮世界文学』月報 10	68(S43).11	新潮社	私のヘルマン・ヘッセ (2)
『カラー旅 4・鎌倉と東京周辺』	68(S43).11	主婦と生活社	鎌倉随想
『日本の詩歌 17』(堀口大学・西條八十・村山槐多・尾崎喜八)	68(S43).12	中央公論社	山室静：編・鑑賞、河盛好蔵：解説 (旧著から詩 45 編を収載)
LP レコード「四季」ファザーノ指揮 ローマ合奏団	69(S44)	東芝, AA-8512	ヴィヴァルディ讃
EP レコード「人類ついに月に立つ」	69(S44)	日本ビクター, 非売品	一つの想像
尾崎喜八編『日本詩人全集 12・千家元麿』	69(S44).01	新潮社	『千家元麿』人と作品/解説
『10 冊の本 7 旅のこころ』	69(S44).03	主婦の友社	たてしなの歌
北川太一編『高村光太郎詩集』	69(S44).03	旺文社文庫	ぼろぼろな駝鳥について
『旅情 3 高原』	69(S44).03	主婦と生活社	野辺山の思い出
『旅情 1 山』	69(S44).03	主婦と生活社	おごそかな夜明けの山
『10 冊の本 8 美をたずねて』	69(S44).04	主婦の友	日の暮
ロラン、蜷川譲訳『ベートーヴェンの生涯』	69(S44).04	旺文社文庫	ベートーヴェンの生涯 ある文庫版のために
『日本現代文学全集 108 現代詩歌集』	69(S44).08	講談社	田舎のモーツァルト
『現代詩鑑賞講座 6 近代詩 V 人道主義の周辺』	69(S44).08	角川書店	若い白樺、言葉、存在
串田孫一編集代表『山のABC 3』	69(S44).12	創文社	頂上・雷雲・堰
小海永二編『世界の詩 別巻 詩を味わうために(海外篇)』	71(S46).07	弥生書房	カロッサ・ヘッセ・ジャム
田中・八木編『八木重吉未発表遺稿と回想』	71(S46).09	麦書房	詩集『貧しき信徒』評
『手塚富雄全訳詩集』月報 2	71(S46).11	角川書店	その人の俳
『受難楽の夕べ』	72(S47).03	ハインリッヒ・シュッツ合唱団	(プログラム)
『日本文学全集』月報 13	72(S47).05	集英社	先輩高村さん
串田孫一編『忘れえぬ山 2』	72(S47).05	筑摩書房	たてしなの歌、付記
『新編 人生の本 10 自然への希求』	72(S47).07	文芸春秋	たてしなの歌
坂本波之『表明』附録・回想波之	73(S48).09	現代書房新社	そのおもかげ
『ヘッセへの道－高橋健二古稀記念論文集』	73(S48).10	新潮社	ヘッセとの出会い

『日本近代文学大系 54 近代詩集Ⅱ』	73(S48).10	角川書店	安藤靖彦：注釈、壺井繁治：解説（旧著から詩 11 編を収載）
『新編日本山岳名著全集 10』	75(S50).07	三笠書房	山の絵本(抄)
『日本の詩歌 第17巻』	75(S50).11	中央公論社(中公文庫)	(文庫化)
『草稿詩集 花咲ける孤獨』	75(S50).12	四季書館	(原稿ファクシミリ)
『草稿詩集 花咲ける孤獨(普及版)』	76(S51).11	四季書館	
『日本の詩 17』(八木重吉・尾崎喜八・小熊秀雄)	79(S54).07	集英社	串田孫一：編・解説（旧著から詩 44 編を収載）
『日本現代文学全集 108 現代詩歌集』	80(S55).05	講談社(増補改訂版)	
『東方』(同人誌)、『待望』(個人雑誌)	81(S56).09	教育出版センター	(復刻版)
『学校詩集 一九二九年版』	81(S56).12	麥書房	(復刻版)
『明治大正昭和詩人選 南有集』	82(S57).08	永田書房	(復刻版)
『ウェストン祭 日本山岳会信濃支部三十五年抜刷』	83(S59).06	日本山岳会信濃支部	ウェストン祭朗読詩 S33, 36, 38, 39, 40, 41, 43, 44, 45, 46(原稿)
北杜夫編『日本の名随筆 10』	83(S59).06	作品社	一日の王
『ペーターヴェン』	87(S62).02	水族館	(講演草稿ファクシミリ)
串田孫一・田中清光編『山の詩集』	91(H03).07	筑摩書房	(旧著から詩 7 編を収載)
高橋達郎編『高原のエッセイ』	94(H06).07	ヒュッテ・ジャベル	安曇橋(詩：原稿ファクシミリ)(その他、旧著から 12 編の散文を収載)
『近代作家追悼文集成 33』	97(H09).01	ゆまに書房	わたくし宅に於ける夕暮先生

## C 定期刊行物

- ・尾崎の作品が掲載された雑誌・新聞・定期刊行物等を初出年代順に一覧にした。
- ・個別の掲載作品については、「3 作品名一覧」を参照されたい。
- ・翻訳関係は掲載していない。
- ・5編以上の掲載があるものについては、備考欄にその数を記した。

雑誌・新聞、等	掲載時期	備考
エゴ	T04,T05	
生命の川	T05,T06	
読売新聞	T07～S41	28 編
白樺	T07～T12	25 編
我等	T08	
地上	T09	
詩と版画	T09～T14	6 編
新詩人	T10	
時事新報	T10～T12	7 編
詩聖	T10～T12	36 編
日本詩人	T10～T15	73 編
嵐	T11	6 編
感触	T11	
新家庭	T11	
生長する星の群	T11	
途上に現はれるもの	T11	
帆船	T11	
文章倶楽部	T11	
日本勸業銀行月報	T11	
極光	T11,T12	
詩集	T11～S09	21 編
ローマ字	T11～T12	8 編
高踏詩派	T12	
詩と音楽	T12	アルス出版月報
太陽	T12	
又新公論	T12	
新詩潮	T12	

雑誌・新聞、等	掲載時期	備考
改造	T12	
雄弁	T12～S10	17 編
東京朝日新聞	T12～S15	10 編
都新聞	T12～S17	31 編
東京日日新聞	T12～S17	8 編
婦人之友	T12～S46	17 編
向日葵	T13	10 編
樹魂	T13	
新詩壇	T13	
少年倶楽部	T13～S05	20 編。昭和 3,4 年頃に少年詩の選評を行っていたらしい(未確認)。
婦人公論	T13～S17	9 編
大街道	T13～T14	6 編
純文学	T14	
婦人世界	T14	
抒情詩	T14～S02	10 編
現代	T14～S07	12 編
キング	T14～S16	25 編
少女倶楽部	T14～S16	5 編
明星	T14～T15	6 編
詩歌時代	T15	
生命	T15	
築地小劇場	T15	
不二	T15	
森林	T15	
太平洋詩人	T15,S02	
近代風景	T15～S03	5 編

雑誌・新聞、等	掲載時期	備考
幼年倶楽部	T15～S08	7編
バリケード	S02	
現代文芸	S02	
少年世界	S02	
椎の木	S02	
文芸公論	S02	
平原	S02	尾崎と片山敏彦の二人一誌。「詩集」に創刊広告あり(未確認)。
炬火	S02	
魁火	S02,S03	
詩文学	S02,S05	
若草	S02～S09	7編
東方	S03	18編
港街	S03	
民謡詩人	S03	
生活者	S03,S04	
詩神	S03～S06	8編
現代詩評	S04	
文学時代	S04	
令女界	S04,S05	
富士	S04～S19	15編
フィルハーモニー	S04～S43	11編
南方詩人	S05	
世界文学評論	S05,	
音楽世界	S05,S06	
婦人倶楽部	S05,S07	
詩洋	S05,S08,S18	
週刊朝日	S05,S17～S19	
報知新聞	S05～S17	8編
アルピニズム	S06	
愛誦	S06	
社会詩人	S06	
婦人画報	S06,S12,S14	
詩人時代	S06～S07	5編

雑誌・新聞、等	掲載時期	備考
霧の旅	S06～S19	12編
セルパン	S07	
山小屋	S07～S15	22編
蠟人形	S07～S23	8編
日本詩壇	S08	
報国	S08	
音楽評論	S08	
東京堂月報	S08,S14	
エコー	S09	
国民新聞	S09	
詩精神	S09	
大阪朝日新聞	S09,S10	
登山とスキー	S09～S14	7編
帝国大学新聞	S09～S15	10編
日本詩	S09～S19	9編
山	S09～S26	11編
文芸春秋	S09～S46	18編
書窓	S10	
登山とはいきんぐ	S10	
動物文学	S10	
野鳥	S10～S13	12編
旅	S10～S45	33編
アサヒグラフ	S11	
音楽研究	S11	
近代趣味	S11	
多磨	S11	
東陽	S11	
文学案内	S11	
日本山岳会・会報	S11,S33,S36	
アサヒカメラ	S11～S16	7編
暦程	S11～S48	22編。S49 No.187は尾崎喜八追悼号
世代	S12	
四季	S12,S14	
ケルン	S12,S33	

雑誌・新聞、等	収載時期	備考
家の光	S12～S34	5編
いのち	S13	
三十日	S13	
綴方学校	S13	
天気と気候	S13	
工業大学蔵前新聞	S13,S15	
アサヒスポーツ	S14	
コドモノクニ	S14	
科学ペン	S14	
銀鐘	S14	
書物展望	S14	
文体	S14	
北海道帝大新聞	S14	
知性	S14,S18	
山と高原	S14～S38	30編
小学五年生	S15	
小学六年生	S15	
政界往来	S15	
日本映画	S15,S16	
青年	S15,S17～S19	
学燈	S15,S29,S38,S41	
小学四年生	S16	
村	S16	
三田新聞	S16,S17	
日本文芸	S16,S17	
朝日新聞	S16～S46	13編
国語文化	S17	
雑誌日本	S17	
時局雑誌	S17	
大和	S17	国鉄奉公運動機関誌
東大陸	S17	
日本	S17	
日本評論	S17	
俳句研究	S17	

雑誌・新聞、等	収載時期	備考
文化日本	S17	
文学界	S17	
青少年之友	S17,S18	
日本学芸新聞	S17,S18	
文芸	S17,S18,S31	
サンデー毎日	S17,S24	
婦人朝日	S17,S32	
優駿	S17,S38	
少国民の友	S17～S19	5編
日本女性	S17～S19	8編
文庫	S17～S19	6編
読売報知新聞	S17～S20	19編
新女苑	S17～S31	9編
日本読書新聞	S17～S40	6編
東京新聞	S17～S43	84編。S37に「自然手帖」52回を連載。 S39『自然手帖』（大和書房）として刊行
オール読物	S18	
レコード文化	S18	
三田文学	S18	
週刊少国民	S18	
週刊婦人朝日	S18	
少国民文化	S18	
新若人	S18	
大洋	S18	
中央公論	S18	
同盟グラフ	S18	
文学報国	S18	
陸軍画報	S18	
海の村	S18	
新太陽	S18～S20	
主婦之友	S18,S19	
週刊毎日	S18,S19	
毎日新聞	S18,S37,S41	
かびれ	S18～S29	13編

雑誌・新聞、等	掲載時期	備考
詩研究	S19	
写真科学	S19	
写真週報	S19	
知性	S19	
良い子の友	S19,S20	
ちから	S19～S20	8編。「職場の文芸・詩一選評」を連載
文華	S21	
高原	S22	
詩人	S22	
青年演劇	S22,S23	
夕刊信州	S22～S24	5編
至上律	S23	
信州自治	S23	
南信婦人新聞(諏訪版)	S23	
信陽新聞	S23,S24	
日本山岳会信濃支部報	S23～S25,S29	
南信日日新聞	S23,S26,S27	
新詩人(戦後)	S23,S27	
つめくさ	S23～S27	9編
詩学	S23～S33	6編
月刊信毎	S24	
塔	S24	
山と溪谷	S24～S44	7編
信濃毎日新聞	S24～S45	7編
高原文学	S25	
旅と信濃	S25	
岳人	S25～S30	6編
白樺	S25頃?	富士見高療養所内句誌
新ハイキング	S26	
星雲	S26	
装苑	S26	
展望	S26	
新潮	S26,S28	
アルビレオ	S26～S37	10編

雑誌・新聞、等	掲載時期	備考
新しい学校	S27	
毎日新聞(長野)	S27	
俳句	S27～S28	5編
季刊詩誌ポエトローア	S28	
創元	S28	
日本経済新聞	S28,S38,S40	
山火	S29	
馬酔木	S29,S39	
いづみ	S29～S46	11編
近代詩猟	S30	
窓	S30	
樹氷	S31	帯広営林局報
SBCニュース	S31	
新聞月鑑	S31	
季節	S31～S33	
詩人連邦	S31,S34,S35	
同時代	S31,S34,S37	
こどもクラブ	S32	
産経時事新聞	S32	
週刊読書人	S33～S47	13編
アルプ	S33～S49	45回63編。S33の創刊号～晩年まで関わり、山口耀久『「アルプ」の時代』によると59編の寄稿があった。S49 No.196は尾崎喜八特集号。
早稲田文学	S34	
地上	S34	
カトレア	S34	コーセー化粧品PR誌
民芸手帖	S34	
日本美術	S35	
暮しの手帖	S35	
放送文化	S35	
日本の屋根	S35,S43	
小原流插花	S35～S47	33編。S35～「野外と屋内」17回、S45～「表紙によせて」12回を連載
NHK	S36	

雑誌・新聞、等	掲載時期	備考
みすず	S36,S37	
本の手帖	S36,S37,40,S43	
国立博物館ニュース	S37	
大法輪	S37	
放送文化	S37	
産経新聞	S37,S38	
無限	S37,S38	
創文	S37～S39	7編
関東信越国税旬報	S37～S42	「職員文芸・随筆選評」を連載。
NHK	S38	
新潟日報	S38	
潮	S38	
郵政	S38	
自由民主新聞	S38,S41,S42	
音楽之友	S38,S41	
レコード芸術	S39,S45,S47	
春秋	S41	
文学	S41	
世界像	S41	
小説新潮	S41,S42	
FMfan	S42	
ダイヤル	S42	
P・H・P	S43	
ハイカー	S43	
ピアノ通信	S43,S46	
芸術新潮	S43～S47	「音楽と求道」60回を連載。53編を『音楽への愛と感謝』（新潮社）として刊行
現代の眼	S44	
現代ギター	S45,S46	
アルヒーフ	S46	
音楽の窓	S46	
植物と文化	S46	
ガーデンライフ	S46～S48	23編。ヴィルドラック『わが庭の寓話』の翻訳に尾崎の小文を付して22回連載、四季書館から刊行。

雑誌・新聞、等	掲載時期	備考
音楽現代	S47	
教育と社会	S48	
レジャーアサヒ	S49	
北の話	S49	

## 2 目次一覧

- ・「A 主要著作」の全目次を一覧にした。
- ・各著書ごとに、作品（序、あとがきも含む）の一連番号を付した。
- ・編名・章名は《 》で表記した。連作名は〈 〉で表記し、作品名を2字下げにした。
- ・詩作品は、一連番号の次に‘詩’と表記した。
- ・同題がある場合は、作品名の後に冒頭の語句を（ ）書きした
- ・初出書は「A 主要著作」に記載の略称による。
- ・再刊・既刊本からの再録の作品は、省略せずに、小ポイントで表記した。

再録にあたって、表現のみならず固有名詞も変えるような修正・加筆・削除等が行われているためである。

極端な例では、単著『詩人の風土』の「小手指ノ原」は、詩文集5の「小手指ガ原」ではほとんど別作品のような改変が施されている。

また、『此の糧』は、詩文集に再録する際、元の35編から20編を選択しているほか、新たに2編を加えるような変更をしている。

No.	詩	書名・題名	初出書
<b>01 『空と樹木』</b>			
1922(T11).05 玄文社詩歌部			
01		序	
		《我がリズム》	
02	詩	海へ	
03	詩	健康の朝	
04	詩	カルナヴルロマン	
05	詩	カテゴリーメイド	
06	詩	野薊の娘	
07	詩	スコットランドの娘	
08	詩	田舎娘	
09	詩	机の上	
10	詩	暁を呼ぶ聲	
11	詩	夜更けの郊外にて	
12	詩	テニスの試合	
13	詩	夜の樹々と星と私と	
14	詩	悦び	
15	詩	散歩	
16	詩	嵐の翌朝	
17	詩	冬空を称ふ	

No.	詩	書名・題名	初出書
		《空と樹木》	
18	詩	雨後の往来	
19	詩	スイートピー	
20	詩	芝生	
21	詩	朝	
22	詩	ボンボック	
23	詩	田舎の夕暮	
24	詩	蟬（二つの高台に～）	
25	詩	胸の松明	
26	詩	夕がた	
27	詩	小景	
28	詩	風	
29	詩	月	
30	詩	窓から	
31	詩	雨	
32	詩	友だちが帰ったあと	
33	詩	雲と落日	
34	詩	夜更けの電車	
35	詩	四十雀	
36	詩	薺鶯	
37	詩	消防自動車	

No.	詩	書名・題名	初出書
38	詩	生活	
39	詩	新しい季節	
40	詩	帰り道	
41	詩	冬の田舎	
42	詩	樫に寄す	
43	詩	或る宵	
44	詩	井戸端	
45	詩	雪（雪の賓客が～）	
46	詩	台所	
47	詩	東京へ	
48	詩	雪どけの日から	
49	詩	小さい墓地	
50	詩	収穫	
51	詩	幸の日	
52	詩	雲雀	
53		高田博厚君に就いて	

## 02 『高層雲の下』

24(T13).06 新詩壇社

01		序言	
02	詩	新しい風	
03	詩	高層雲の下	
04	詩	野の搾乳場	
05	詩	河口の船着	
06	詩	最後の雪に	
07	詩	野の小川	
08	詩	私の聖日曜日	
09	詩	音楽	
10	詩	夕ばえに向って	
11	詩	明るい窓	
12	詩	記念祭	
13	詩	若い主婦	
14	詩	昆陽先生の墓にて	
15	詩	古いこしかた	

No.	詩	書名・題名	初出書
16	詩	草上の郵便	
17	詩	村の孟蘭盆	
18	詩	我家の台所	
19	詩	裏道	
20	詩	日没の時	
21	詩	静かな夏	
22	詩	土用の入	
23	詩	水際	
24	詩	悦ばしい信条	
25	詩	晩夏	
26	詩	秋風	
27	詩	女等	
28	詩	母	
29	詩	九月の櫛	
30	詩	海	
31	詩	秋の朝	
32	詩	古典の空	
33	詩	樹木賛仰	
34	詩	朝狩にて	
35	詩	花崗岩	
36	詩	健康（大空は～）	
37	詩	もず	
38	詩	蹄鐵打ち	
39	詩	落葉（くろぐると田舎を～）	
40	詩	冬の木立	
41	詩	眠られぬ夜のために	
42	詩	日の暮	
43	詩	蛇窪に別れる	
44	詩	自我の讚美	

## 03 『待望』

27(S2).01 編輯兼発行者 尾崎喜八

01		読者への言葉	
02	詩	武州烏山	

No.	詩	書名・題名	初出書
03	詩	ブランデンブルク司伴樂	
04	詩	夜	
05	詩	林をぬけて	
06	詩	追憶	
07		雑記	

#### 04 『曠野の火』

27(S02).09 素人社

01	詩	小作人の墓銘	
02	詩	曳船の舵手	
03	詩	老教授	
04	詩	ひとり者の最後の春	
05	詩	靄	
06	詩	大根	
07	詩	冬の林	
08	詩	私の古い長靴	
09	詩	春を待つ間	
10	詩	久瀧	
11	詩	天然の一日	
12	詩	麦	
13	詩	初夏の小屋	
14	詩	平戸島への消息	
15	詩	西瓜	
16	詩	老いたる櫛	
17	詩	小鳥	
18	詩	積乱雲	
19	詩	秋の歌	
20	詩	朝の半時間	
21	詩	隼	
22	詩	かがやく稲田	
23	詩	夜あけの嵐	
24	詩	兜虫	
25	詩	甲州街道の牛	
26	詩	秋の蠅→冬の蠅	

No.	詩	書名・題名	初出書
27	詩	朝の甲州街道	
28	詩	土と落葉と水溜まり	
29	詩	冬	
30	詩	私のかわゆい白頭巾	
31	詩	夕暮の歌	
32	詩	堇	
33	詩	精神的寂靜	
34	詩	クリスマス	
35	詩	青い鳥	
36	詩	故郷にて	

#### 05 『自由漁夫』

29(S04).07 編輯兼発行者 尾崎喜八

01		バザルジエツトを懐ふ	
02		バザルジエツトの講演の一節（翻訳）	
03		「ベエトオフエン」の序（ロマン・ロラン）（翻訳）	
04		發刊に際して	

#### 06 『旅と滞在』

33(S08).06 朋文堂

01	詩	友（わたしは君と～）	
02	詩	友（君の朝の～）	
03	詩	三国峠	
04	詩	一年後	
05	詩	神津牧場	
06	詩	前橋市遠望	
07	詩	猪茸	
08	詩	夕べの泉	
09	詩	若い白樺	
10	詩	アルペンフロラ	
11	詩	西北風	
12	詩	積雲の歌	
13	詩	夏野	
14	詩	秋（父よ～）	
15	詩	初冬に	

No.	詩	書名・題名	初出書
16	詩	覚めている貧	
17	詩	セガンティニー	
18	詩	雲	
19	詩	下山	
20	詩	高原→大いなる夏	
21	詩	八ヶ岳横岳	
22	詩	輪鋒菊	
23	詩	星空の下を→航海	
24	詩	朝の速記	
25	詩	山村にて	
26	詩	山麓の町	
27	詩	日川	
28	詩	甲斐の秋の夜	
29	詩	山中地溝帯で	
30	詩	金峰山の思い出	
31		あとがき	

## 07 『山の繪本』

35(S10).07 朋文堂

01		序にかへて	
		《繪のやうに》	
02		たてしなの歌	
03		念場ガ原・野邊山ノ原	
04		花崗岩の國のイマージュ	
05		神津牧場の組曲	
06		御所平と信州峠	
07		大藏高丸・大谷ガ丸	
08		蘆川の谷	
09		新年の御岳・大岳	
10		高原にて	
11		一日秋川にてわが見たるもの	
		《晝因と素描》	
12		山への斷片	
13		木暮先生	

No.	詩	書名・題名	初出書
14		子供と山と	
15		「山日記」から	
16		美しき五月の月に	
17		山と音楽	
18		高山植物雑感	
19		追分の草	
20		胴亂下げて	
21		ハイキング私見	
22		「山に憩う」友に	
23		秩父の王子	
24		松井幹雄君の思ひ出	
25		秩父の牽く力	
26		春の丘陵	
27		一日の王	
補1		38(S13).05 朋文堂普及版「普及版のために」	
補2		42(S17).07 朋文堂普及版の再版「再版に際して」	
補3		51(S26).10 角川書店(角川文庫)「文庫版のためのあとがき」	
補4		57(S32).10 新潮社(新潮文庫)「自序」	

## 08 『旅と滞在(増補普及版)』

38(S13).05 朋文堂

(06に増補されたもの)

31	詩	志賀高原	
32	詩	秩父の早春	
33	詩	飯綱の春→飯綱高原	
34	詩	和田峠東餅屋風景	
35	詩	天上沢	
36	詩	追分宿 →信州追分	
37	詩	雪消の頃	
38	詩	高原の晩夏に寄せる歌	
39		増補版のあとがき	

## 09 『雲と草原』

38(S13).07 朋文堂

01		自序	
----	--	----	--

No.	詩	書名・題名	初出書
		《青い遠方》	
02		美ヶ原	
03		秋山川上流の冬の旅	
04		戸隠と妙高	
05		須走	
06		灰のクリスマス	
07		神流川紀行	
		《休みの日》	
08		一日	
09		羽族の思い出	
10		鴉とつばな	
11		初心時代	
12		蝶の標本とヘルマン・ヘッセ	
13		雲を見る	
14		寫眞と歌と	
		《行人の歌》	
15		初めに驚きありき	
16		ノルウェイ・バンド	
17		こころ	
18		橡の實	
19		信濃乙女	
20		べにばないちご	
21		遠い國での話	
22		或る朝のおもい	
23		雲の中で刈った草	
24		春	
25		少女の日	
補1		43(S18).07 朋文堂四版「四版の序」	
補2		53(S28).12 角川書店(角川文庫)「文庫版のためのあとがき」	

## 10 『行人の歌』

40(S15).12 竜星閣

		《大正十四年》	
01	詩	曇り日の村	
02	詩	老いたる櫓	04 曠野

No.	詩	書名・題名	初出書
03	詩	朝寒	
04	詩	夜をこめて	
05	詩	早春	
06	詩	バッハの夕空	
07	詩	十一月(十一月が～)	
		《大正十五年～昭和元年》	
08	詩	希望	
09	詩	エネルギー	
10	詩	靈感	
11	詩	挽歌	
12	詩	或朝のおもひ	
13	詩	慰め	
14	詩	熱狂	
15	詩	草に	
16	詩	夜の道	
17	詩	東京の秋	
18	詩	追憶	
19	詩	私の詩	
		《昭和二年》	
20	詩	夜	
21	詩	エレオノーレ	
22	詩	母性	
23	詩	日本の眼	
24	詩	暗い源泉から生れて	
25	詩	朝の書齋へ	
26	詩	私は愛する	
27	詩	今日という日は	
28	詩	今朝もまた	
29	詩	寄託	
30	詩	銃獵家に與ふ	
31	詩	中野秀人の首	
32	詩	霜どけ道	
		《昭和三年》	
33	詩	精神	

No.	詩	書名・題名	初出書
34	詩	この眼は何を	
35	詩	喪の春	
36	詩	夕陽哀歌	
37	詩	朽ちる我家	
38	詩	郷愁 (子供が一筆に～)	
39	詩	昔と今	
40	詩	旅のめざめ	
41	詩	道づれ	
42	詩	都會にて	
43	詩	秋 (ふたたび秋が～)	
44	詩	限界	
		《昭和四年以後拾遺》	
45	詩	思い出の歌	
46	詩	旅	
47	詩	シュナイダー	
48	詩	シュプール	
49	詩	新年言志	
50	詩	早春の歌	
51	詩	樅の樹の歌	
52	詩	言葉 (私は言葉を～)	
53	詩	女の小夜楽	
54	詩	日の哀歌	
55	詩	野良の初冬	
56	詩	清福	
57		後記	

## 11 『雲』

42(S17).05 アルス(アルス文化叢書 11)

p5～66 は写真

p67～109 は文

## 12 『詩人の風土』

42(S17).06 三笠書房(現代叢書 28)

01		自序	
		《昔の土地》	

No.	詩	書名・題名	初出書
02		遙な空の下から	
03		樹下の小屋にて	
04		夏	
05		やはり野に置け	
06		新アスレチック	
07		其頃	
08		ブランデンブルク協奏曲 ←ブランデンブルク 司伴奏	03 待望
09		或友に	
		《我が流域》	
10		一日の王	07 絵本
11		ハイキング私見	07 絵本
12		秩父の牽く力	07 絵本
13		ノルウェイ・バンド	09 草原
14		こころ	09 草原
15		橡の實	09 草原
16		信濃乙女	09 草原
17		べにばないちご	09 草原
18		春	09 草原
19		岩雲雀	
20		泉	
21		信州峠	
22		三城牧場	
23		大菩薩嶺	
24		小手指ノ原	
25		春の歸途	
26		高原の朝	
27		通過列車	
28		夏が又來た	
29		かんたん	
30		旅への祈	
31		單獨登山	
32		山に向ふ心	
33		日本の山をどこ	
34		浮ぶおもかげ	
35		荒涼への思慕	
36		早春の雨の夜	

No.	詩	書名・題名	初出書
		《身邊の光耀》	
37		自然觀察の悦び	
38		停留所の自然界	
39		雲	
40		草取りの植物學	
41		天氣圖の放送	
42		森林について	
43		初夏の田園	
44		文化映畫雜感	

### 13 『高原詩抄』

42(S17).09 青木書房

01		序	
		《春》	
02	詩	早春の山にて	
03	詩	春淺き	
04	詩	かたくりの花	
05	詩	軍道	
06	詩	秩父の早春	08 滞在
07	詩	松本の春→松本の春の朝	
08	詩	飯綱高原	08 滞在
09	詩	山小屋の朝→伊那小屋の朝	
10	詩	若い白樺	08 滞在
11	詩	日川の谷←日川	08 滞在
12	詩	神津牧場	08 滞在
13	詩	和田峠東餅屋風景	08 滞在
14	詩	一年後	08 滞在
15	詩	山村の夕暮←山村にて	08 滞在
16	詩	雪消の頃	08 滞在
17	詩	セガンティーニ	08 滞在
18	詩	峠路	
		《夏》	
19	詩	高原 その一	
20	詩	高原 その二	
21	詩	高原 その三	
22	詩	高原 その四	

No.	詩	書名・題名	初出書
23	詩	高原 その五	
24	詩	友 (わたしは君と～)	08 滞在
25	詩	アルペンフロラ	08 滞在
26	詩	雲	08 滞在
27	詩	大いなる夏	08 滞在
28	詩	八ヶ岳横岳	08 滞在
29	詩	金峰山の思い出	08 滞在
30	詩	暗い源泉から生まれて	10 行人
31	詩	前橋市遠望	08 滞在
32	詩	三国峠	08 滞在
33	詩	旅	10 行人
34	詩	お花畠	
35	詩	天上沢	08 滞在
36	詩	檜沢の朝	
37	詩	帰来	
38	詩	窓前臨書	
		《秋》	
39	詩	高原の晩夏に寄せる歌	08 滞在
40	詩	牧場	
41	詩	秋 (ふたたび秋が～)	10 行人
42	詩	夕の泉	08 滞在
43	詩	下山	08 滞在
44	詩	山中地溝帯 (山中地溝帯で～)	08 滞在
45	詩	甲斐の秋の夜	08 滞在
46	詩	輪鋒菊	08 滞在
47	詩	猪茸	08 滞在
48	詩	野辺山ノ原	
49	詩	美ヶ原熔岩台地	
50	詩	秋の流域	
		《冬》	
51	詩	縦の樹の歌	10 行人
52	詩	御所平	
53	詩	山麓の町	08 滞在
54	詩	志賀高原	08 滞在
55	詩	信州追分	08 滞在
56	詩	シュプール	10 行人
57	詩	シュナイダー	10 行人
58	詩	凍死	
59	詩	夏山思慕	

No.	詩	書名・題名	初出書
60	詩	連峯雲	
61	詩	登山服	

## 14 『此の糧』

42(S17).10 二見書房

01	詩	此の糧	
02	詩	若い下婢	
03	詩	連峯雲	13 高原
04	詩	決意はすでに堅い	
05	詩	大詔奉載	
06	詩	新たなる暦	
07	詩	大詔奉載日の歌	
08	詩	少年航空兵	
09	詩	庭訓	
10	詩	シンガポール陥落	
11	詩	峠路	13 高原
12	詩	建設の歌	
13	詩	登山服	13 高原
14	詩	特別攻撃隊	
15	詩	三粒の卵	
16	詩	風の日	
17	詩	窓前臨書	13 高原
18	詩	新緑の表参道	
19	詩	工場の娘等	
20	詩	父の名	
21	詩	車中の隣人	
22	詩	窓	
23	詩	待たれる者	
24	詩	子供等に	
25	詩	若き応召者	
26	詩	家	
27	詩	つわものの母の夢の歌	
28	詩	朝涼の屋外常会	
29	詩	歌はぬビッケル	
30	詩	乙女等のつどひの歌	

No.	詩	書名・題名	初出書
31	詩	少国民の秋	
32	詩	健康 (健康は～)	
33	詩	其の地区	
34		巻末に	

## 15 『二十年の歌』

43(S18).02 三笠書房

01		自序	
		≪「空と樹木」から≫	
02	詩	テニスの試合	01 樹木
03	詩	雨後の往来	01 樹木
04	詩	田舎の夕暮	01 樹木
05	詩	雨	01 樹木
06	詩	友だちが帰った後	01 樹木
07	詩	生活	01 樹木
08	詩	新しい季節	01 樹木
09	詩	帰り道	01 樹木
10	詩	井戸端	01 樹木
11	詩	雪解けの日から (雪どけの日から～)	01 樹木
		≪「高層雲の下」から≫	
12	詩	高層雲の下	02 高層雲
13	詩	野の搾乳場	02 高層雲
14	詩	野の小川	02 高層雲
15	詩	音楽	02 高層雲
16	詩	夕ばえに向つて	02 高層雲
17	詩	ヴェルハーレンを憶ふ←記念祭	02 高層雲
18	詩	昆陽先生の碑前にて←昆陽先生の墓にて	02 高層雲
19	詩	我家の台所	02 高層雲
20	詩	裏道	02 高層雲
21	詩	静かな夏	02 高層雲
22	詩	水際	02 高層雲
23	詩	晩夏	02 高層雲
24	詩	秋風	02 高層雲
25	詩	女等	02 高層雲
26	詩	母	02 高層雲
27	詩	古典の空	02 高層雲
28	詩	花崗岩	02 高層雲
29	詩	もず	02 高層雲
30	詩	落葉 (くろぐろと田舎を～)	02 高層雲
31	詩	冬の木立	02 高層雲
32	詩	眠られぬ夜のために	02 高層雲
33	詩	日の暮れ	02 高層雲

No.	詩	書名・題名	初出書
34	詩	蛇窟に別れる 《「曠野の火」から》	02 高層雲
35	詩	小作人の墓碑銘←小作人の墓銘	04 曠野
36	詩	曳船の舵手	04 曠野
37	詩	老教授	04 曠野
38	詩	霧	04 曠野
39	詩	冬の林	04 曠野
40	詩	私の古い長靴	04 曠野
41	詩	春を待つ間	04 曠野
42	詩	初夏の小屋	04 曠野
43	詩	西瓜	04 曠野
44	詩	秋の歌	04 曠野
45	詩	甲州街道の牛	04 曠野
46	詩	冬の蠅	04 曠野
47	詩	朝の街道←朝の甲州街道	04 曠野
48	詩	土と落葉と水たまり	04 曠野
49	詩	私のかわゆい白頭巾	04 曠野
50	詩	夕暮の歌	04 曠野
51	詩	堇	04 曠野
52	詩	精神的寂静	04 曠野
53	詩	クリスマス	04 曠野
54	詩	故郷にて 《「旅と滞在」から》	04 曠野
55	詩	友（わたしは君と～）	08 滞在
56	詩	三国峠	08 滞在
57	詩	神津牧場	08 滞在
58	詩	前橋市遠望	08 滞在
59	詩	猪茸	08 滞在
60	詩	タベの泉	08 滞在
61	詩	若い白樺	08 滞在
62	詩	アルペンフロラ	08 滞在
63	詩	西北風	08 滞在
64	詩	積雲の歌	08 滞在
65	詩	夏野	08 滞在
66	詩	秋（父よ～）	08 滞在
67	詩	醒めている貧←覚めている貧	08 滞在
68	詩	初冬に	08 滞在
69	詩	セガンティーニ	08 滞在
70	詩	雲	08 滞在
71	詩	大いなる夏	08 滞在
72	詩	輪録菊	08 滞在
73	詩	航海←星空の下を	08 滞在
74	詩	日川	08 滞在

No.	詩	書名・題名	初出書
75	詩	甲斐の秋の夜	08 滞在
76	詩	金峰山の思い出	08 滞在
77	詩	秩父の早春	08 滞在
78	詩	和田峠東餅屋風景	08 滞在
79	詩	天上沢	08 滞在
80	詩	雪消の頃	08 滞在
81	詩	高原の晩夏に寄せる歌 《昨日と今日（拾遺）》	08 滞在
82	詩	訪問	
83	詩	伊那小屋の朝←山小屋の朝	13 高原
84	詩	美ヶ原熔岩台地	13 高原
85	詩	早春の山にて	13 高原
86	詩	軍道	13 高原
87	詩	高原の五つの練習曲（高原 その一～五）	13 高原
88	詩	夏山思慕	13 高原
89	詩	槍沢の朝	13 高原
90	詩	秋の流域	13 高原
91	詩	野辺山ノ原	13 高原
92	詩	春浅き	13 高原
93	詩	慰問書	
94	詩	内原の朝	
95	詩	若い下婢	14 糧
96	詩	決意はすでに堅い	14 糧
97	詩	新たな暦	14 糧
98	詩	此の糧	14 糧
99	詩	少年航空兵	14 糧
100	詩	峠路	13 高原
101	詩	シンガポール陥落	14 糧
102	詩	特別攻撃隊	14 糧

## 16『組長詩篇』

43(S18).04 大政翼賛会宣伝部

01	詩	慰問書	15 二十年
02	詩	内原の朝	15 二十年
03	詩	此の糧	14 糧
04	詩	若い下婢	14 糧
05	詩	新たな暦	14 糧
06	詩	登山服	13 高原
07	詩	三粒の卵	14 糧
08	詩	風の日	14 糧
09	詩	窓前臨書	13 高原
10	詩	父の名	14 糧

No.	詩	書名・題名	初出書
11	詩	若き応召者に	14 糧
12	詩	旅にて	
13	詩	豊のみのり	
14	詩	遠足	
15	詩	我[吾]等の答	
16	詩	隣組菜園	
17	詩	我が祈	
18	詩	誓の日	
19	詩	雪の峠路	
20	詩	わが心つねに闘いにあり	
21		巻末に	

## 17 『同胞と共にあり』

44(S19).03 二見書房

01		序	
02	詩	同胞と共にあり	
03	詩	石見の國の日本の母	
04	詩	遠足	16 組長
05	詩	大阪	
06	詩	忙中閑	
07	詩	志を言ふ	
08	詩	隣組菜園	16 組長
09	詩	我等の答	16 組長
10	詩	四面これ海	
11	詩	誓の日	16 組長
12	詩	我が祈	16 組長
13	詩	雪の峠路	16 組長
14	詩	あの日をおもふ	
15	詩	アリュージュ	
16	詩	わが心つねに闘いにあり	16 組長
17	詩	威儀の正月	
18	詩	明星と花	
19	詩	母と子	
20	詩	土に帰る	
21	詩	農村に期待す	
22	詩	船をつくれ	

No.	詩	書名・題名	初出書
23	詩	軍艦那智	
24	詩	バー・モウ長官一行を迎ふ	
25	詩	同族供木のすすめ	
26	詩	今年の春	
27	詩	働く女性	
28	詩	春の谷間	
29	詩	第二次特別攻撃隊	
30	詩	静かなる朝の歌	
31	詩	五浦にて	
32	詩	北門の春	
33	詩	山本司令長官戦死	
34	詩	少年戦車兵	
35	詩	妙齡に輝く	
36	詩	元帥追慕	
37	詩	病院船の山本提督	
38	詩	勤勞作業にて	
39	詩	大空に雄飛す	
40	詩	消息	
41	詩	忠魂に祈る	
42	詩	戦線為に明激なり	
43	詩	朝鮮同胞に寄す	
44	詩	新生イタリヤ	
45	詩	英靈を迎へまつる日に	
46	詩	追慕	
47	詩	靖國の神の歌	
48	詩	決戦下の女性	
49	詩	その母	
50	詩	敵前上陸成る	
51	詩	比律賓建國への祝詞	
52	詩	学徒出陣	
53	詩	大号令下るの日	
54	詩	道義八紘に浴し	
55	詩	工場の山男	
56	詩	感涙あるのみ	

No.	詩	書名・題名	初出書
57	詩	古賀提督	
58	詩	敢闘に報いん	
59	詩	雲と落葉	
60	詩	帝國海軍	
61	詩	第三年を迎ふ	

## 18『麦刈の月』

46(S21).04 生活社(日本叢書 50)

01		冬の途上	
02		つめくさ色の空	
03		水車小屋へ	
04		歌 →秋の歌	
05		麦刈の月	

## 19『夏雲』

46(S21).10 青園莊発行 非売品。

01	詩	セガンティニー	
02	詩	早春の山にて	
03	詩	雪消の頃	
04	詩	若い白樺	
05	詩	輪鋒菊	
06	詩	大いなる夏	
07	詩	槍沢の朝	
08	詩	高原 (一)	
09	詩	高原 (二)	
10	詩	甲斐の秋の夜	
11	詩	下山	
12	詩	帰来	

## 20『残花抄』

48(S23).01 玄文社

		《 I 》	
01	詩	山を描く木暮先生	
02	詩	槍沢の朝	13 高原
03	詩	帰来	13 高原
04	詩	大阪	17 同胞
05	詩	明星と花	17 同胞
06	詩	雲と落葉	17 同胞
07	詩	秋の流域	13 高原

No.	詩	書名・題名	初出書
08	詩	雪の峠路	16 組長
09	詩	弟橘媛	
10	詩	噴水	
11	詩	静かなる朝の歌	17 同胞
		《 II 》	
12	詩	バッハの夕空	10 行人
13	詩	エネルギー	10 行人
14	詩	慰め	10 行人
15	詩	草に	10 行人
16	詩	東京の秋	10 行人
17	詩	私の詩	10 行人
18	詩	夜	10 行人
19	詩	エレオノーレ	10 行人
20	詩	母性	10 行人
21	詩	朝の書齋へ	10 行人
22	詩	私は愛する	10 行人
23	詩	精神	10 行人
24	詩	この眼は何を	10 行人
25	詩	夕陽哀歌	10 行人
26	詩	昔と今	10 行人
27	詩	道づれ	10 行人
28	詩	秋 (ふたたび秋が～)	10 行人
29	詩	女の小夜楽	10 行人
30	詩	思ひ出の歌	10 行人
31	詩	日の哀歌	10 行人
32	詩	野良の初冬	10 行人
33	詩	清福	10 行人
34		跋	

## 21『高原暦日』

48(S23).03 あしかび書房

01		序	
		《 高原暦日 》	
02		到着	
03		恢復期	
04		野薔薇	
05		森のオルフォイス	
06		眞夏の散歩	
07		晩夏	

No.	詩	書名・題名	初出書
08		音楽會	
09		野鳥と風景	
10		冬空の下 《新詩篇》	
11	詩	新しい絃	
12	詩	存在	
13	詩	落葉 (ひろびろと～)	
14	詩	夕日の歌	
15	詩	国土 (→土地)	
16	詩	秋の日	
17	詩	朝のひかり	
18	詩	冬野	
19	詩	告白	
20	詩	詩心	
21	詩	本国	
22	詩	首 (造型篇の一)	
23	詩	トルソ	
24		《たてしなの歌》 1～10	07 絵本

## 22 『美しき視野』

48(S23).06 友文社

01		自序	
		《第一部》	
02		井萩日記	
03		冬の途上	18 麦刈
04		水車小屋へ	18 麦刈
05		麥刈の月	18 麦刈
		《二つの歌》	
06		秋の歌	18 麦刈
07		冬の歌	
08		蝶の渡海	
09		一日の春	
10		多摩河原	
11		大平原	
		《第二部》	

No.	詩	書名・題名	初出書
		《九月の断章》	
12		高原初秋	
13		風の音	
14		ホホジロの歌	
15		菌類一種	
16		エゾゼミ	
17		ちいさい物	
18		ウーロン茶	
19		雲に寄せることづて	
		《雲二題》	
20		或る夕べの雲	
21		或る朝の雲	
22		入笠山にて	
23		採集行	
24		別れの曲と到着の歌	
25		湖畔の町の半日	
26		ホトトギス	
27		童話	
28		秋の林にて	
		《背負子》	
29		マーテルリンクの朝	
30		春はふたたび	
31		ベアルンの歌	
32		背負子	
33		山村俯瞰	
34		友情	
35		森の子供たち	

## 23 『碧い遠方』

51(S26).09 角川書店(角川文庫)

		《高原暦日》	
01		到着	21 暦日
02		恢復期	21 暦日
03		野薔薇	21 暦日
04		森のオルフォイス	21 暦日

No.	詩	書名・題名	初出書
05		眞夏の散歩	21 暦日
06		晩夏	21 暦日
07		音楽會	21 暦日
08		野鳥と風景	21 暦日
09		冬空の下	21 暦日
		《碧い遠方》	
		《 I 》	
10		店頭の青げら	
11		泉	
12		初秋の数日	
13		石の花びら	
14		木苺の日	
15		紫つめくさ	
16		草に寝て	
17		一日の終わりに	
18		乾草刈の頃	
19		豆島にて	
20		落葉掻きの時	
21		蹄鐵工	
22		二月の春	
23		春の雲	
24		寂しさと櫻草と	
25		朴の杖	
26		小さい人	
27		盛夏白晝	
28		冠着	
		《 II 》	
29		初秋の湖	
30		老の山歌	
31		西穂高	
32		入笠山	
33		草山のはて	
34		入笠小屋	
35		或る遭遇	
36		秋の隣人	

No.	詩	書名・題名	初出書
37		初冬の客	
38		柿	
39		初心者	
40		輝石	
41		虹	
42		秋の丘で	
43		湖畔の星	
44		黄びたきの災難	
45		雛鳥記	
46		黄昏の飛行家	
47		ハドスン的な冬の日	
48		後記	

## 24『尾崎喜八詩集』(尾崎喜八・石黒栄子選)

52(S27).05 創元社(創元文庫)

No.	詩	書名・題名	初出書
		《空と樹木》	
01	詩	健康の朝	01 樹木
02	詩	スコットランドの娘	01 樹木
03	詩	テニスの試合	01 樹木
04	詩	雨後の往来	01 樹木
05	詩	田舎の夕暮	01 樹木
06	詩	友だちが帰ったあと	01 樹木
07	詩	四十雀	01 樹木
08	詩	生活	01 樹木
09	詩	帰り道	01 樹木
10	詩	櫻に寄す	01 樹木
11	詩	井戸端	01 樹木
12	詩	収穫	01 樹木
		《高層雲の下》	
13	詩	新しい風	02 高層雲
14	詩	野の搾乳場	02 高層雲
15	詩	最後の雪に	02 高層雲
16	詩	音楽	02 高層雲
17	詩	夕ばえに向つて	02 高層雲
18	詩	昆陽先生の墓にて	02 高層雲
19	詩	我家の台所	02 高層雲
20	詩	静かな夏	02 高層雲
21	詩	水際	02 高層雲
22	詩	晩夏	02 高層雲
23	詩	秋風	02 高層雲

No.	詩	書名・題名	初出書
24	詩	女等	02 高層雲
25	詩	九月の樞	02 高層雲
26	詩	海	02 高層雲
27	詩	古典の空	02 高層雲
28	詩	朝狩にて	02 高層雲
29	詩	花崗岩	02 高層雲
30	詩	もず	02 高層雲
31	詩	蹄鐵打ち	02 高層雲
32	詩	落葉（くろぐると田舎を～）	02 高層雲
33	詩	日の暮	02 高層雲
		《曠野の火》	
34	詩	小作人の墓銘	04 曠野
35	詩	クリスマス	04 曠野
36	詩	ひとり者の最後の春	04 曠野
37	詩	霧	04 曠野
38	詩	私の古い長靴	04 曠野
39	詩	初夏の小屋	04 曠野
40	詩	秋の歌	04 曠野
41	詩	朝の甲州街道	04 曠野
42	詩	甲州街道の牛	04 曠野
43	詩	私のかわゆい白頭巾	04 曠野
		《行人の歌》	
44	詩	早春	10 行人
45	詩	バッハの夕空	10 行人
46	詩	エネルギー	10 行人
47	詩	靈感	10 行人
48	詩	或朝のおもひ	10 行人
49	詩	熱狂	10 行人
50	詩	草に	10 行人
51	詩	夜	10 行人
52	詩	エレオノーレ	10 行人
53	詩	母性	10 行人
54	詩	日本の眼	10 行人
55	詩	暗い源泉から生れて	10 行人
56	詩	朝の書齋へ	10 行人
57	詩	この眼は何を	10 行人
58	詩	霜どけ道	10 行人
59	詩	精神	10 行人
60	詩	今朝もまた	10 行人
61	詩	中野秀人の首	10 行人
62	詩	秋（ふたたび秋が～）	10 行人
63	詩	夕陽哀歌	10 行人
64	詩	寄託	10 行人

No.	詩	書名・題名	初出書
65	詩	昔と今	10 行人
66	詩	言葉（私は言葉を～）	10 行人
67	詩	女の小夜楽	10 行人
68	詩	日の哀歌	10 行人
69	詩	清福	10 行人
70	詩	思い出の歌	10 行人
71	詩	私の詩	10 行人
		《旅と滞在》	
72	詩	友（わたしは君と～）	08 滞在
73	詩	神津牧場	08 滞在
74	詩	夕べの泉	08 滞在
75	詩	若い白樺	08 滞在
76	詩	積雲の歌	08 滞在
77	詩	夏野	08 滞在
78	詩	秋（父よ～）	08 滞在
79	詩	初冬に	08 滞在
80	詩	覚めている貧	08 滞在
81	詩	セガンティニーニ	08 滞在
82	詩	雲	08 滞在
83	詩	大いなる夏	08 滞在
84	詩	輪鋒菊	08 滞在
85	詩	星空の下を	08 滞在
86	詩	日川	08 滞在
87	詩	甲斐の秋の夜	08 滞在
		《高原詩抄》	
88	詩	早春の山にて	13 高原
89	詩	軍道	13 高原
90	詩	秩父の早春	08 滞在
91	詩	山村の夕暮←山村にて	08 滞在
92	詩	雪消の頃	08 滞在
93	詩	槍沢の朝	13 高原
94	詩	美ヶ原熔岩台地	13 高原
95	詩	御所平	13 高原
96	詩	縦の樹の歌	10 行人
97	詩	秋の流域	13 高原
98	詩	帰来	13 高原
99	詩	高原の晩夏に寄せる歌	08 滞在
		《残花抄》	
100	詩	山を描く木暮先生	20 残花
101	詩	雪の峠路	16 組長
102	詩	明星と花	17 同胞
103	詩	弟橘媛	20 残花
104	詩	噴水	20 残花

No.	詩	書名・題名	初出書
105	詩	静かなる朝の歌 《新詩抄》	17 同胞
106	詩	告白	21 暦日
107	詩	詩心	21 暦日
108	詩	本国	21 暦日
109	詩	冬野	21 暦日
110	詩	新しい絃	21 暦日
111	詩	存在	21 暦日
112	詩	落葉 (ひろびろと～)	21 暦日
113	詩	夕日の歌	21 暦日
114	詩	土地 (国土)	21 暦日
115	詩	秋の日	21 暦日
116	詩	朝のひかり	21 暦日
117	詩	首	21 暦日
118	詩	トルソ	21 暦日
119	詩	雨氷の朝	
120	詩	夏野の花	
121	詩	春の牧場	

25 『尾崎喜八詩集』 (尾崎喜八編)  
53(S28).07 新潮社(新潮文庫)

		自序	
		《空と樹木》	
1	詩	カテゴリーメイド	01 樹木
2	詩	冬空を称ふ	01 樹木
3	詩	風	01 樹木
4	詩	野薊の娘	01 樹木
5	詩	散歩	01 樹木
6	詩	雨	01 樹木
7	詩	或る宵	01 樹木
8	詩	台所	01 樹木
		《高層雲の下》	
9	詩	高層雲の下	02 高層雲
10	詩	野の小川	02 高層雲
11	詩	古いこしかた	02 高層雲
12	詩	裏道	02 高層雲
13	詩	静かな夏	02 高層雲
14	詩	冬の木立	02 高層雲
15	詩	河口の船着	02 高層雲
16	詩	日没の時	02 高層雲
17	詩	樹木讃仰	02 高層雲
18	詩	眠られぬ夜のために	02 高層雲

No.	詩	書名・題名	初出書
		《曠野の火》	
19	詩	大根	04 曠野
20	詩	天然の一日	04 曠野
21	詩	西瓜	04 曠野
22	詩	夕暮の歌	04 曠野
23	詩	精神的寂靜	04 曠野
24	詩	冬の林	04 曠野
25	詩	麦	04 曠野
26	詩	土と落葉と水溜り	04 曠野
27	詩	藁	04 曠野
		《行人の歌》	
28	詩	夜をこめて	10 行人
29	詩	挽歌	10 行人
30	詩	東京の秋	10 行人
31	詩	喪の春	10 行人
32	詩	都會にて	10 行人
33	詩	新年言志	10 行人
34	詩	十一月 (十一月が～)	10 行人
35	詩	慰め	10 行人
36	詩	追憶	10 行人
37	詩	朽ちる我家	10 行人
38	詩	限界	10 行人
39	詩	野良の初冬	10 行人
		《高原詩抄》	
40	詩	高原 その一	13 高原
41	詩	高原 その二	13 高原
42	詩	高原 その三	13 高原
43	詩	高原 その四	13 高原
44	詩	高原 その五	13 高原
45	詩	金峰山の思い出	08 滞在
46	詩	三国峠	08 滞在
47	詩	下山	08 滞在
48	詩	山小屋の朝	13 高原
49	詩	一年後	08 滞在
50	詩	アルペンフロラ	08 滞在
51	詩	お花島	13 高原
		《旅と滞在》	
52	詩	友 (君の朝の～)	08 滞在
53	詩	前橋市遠望	08 滞在
54	詩	八ヶ岳横岳	08 滞在
55	詩	朝の速記	08 滞在
56	詩	山村にて	08 滞在
		《戦時抄》	

No.	詩	書名・題名	初出書
57	詩	此の糧	14 糧
58	詩	つわものの母の歌←つわものの母の夢の歌	14 糧
59	詩	窓前臨書	13 高原
60	詩	庭訓	14 糧
61	詩	大阪	17 同胞
62	詩	菜園 (隣組菜園)	16 組長
		《新詩抄》	
63	詩	或る晴れた秋の朝の歌	
64	詩	秋の漁歌	
65	詩	薄雪の後	
66	詩	旗	
67	詩	復活祭 (木々を～)	
68	詩	杖突峠	
69	詩	山頂	
70	詩	地衣と星	
71	詩	晩秋	
72	詩	冬のはじめ	

## 26 『花咲ける孤独』

55(S30).02 三笠書房

01	詩	冬野	21 暦日
02	詩	告白	21 暦日
03	詩	詩心	21 暦日
04	詩	本国	21 暦日
05	詩	新しい絃	21 暦日
06	詩	存在	21 暦日
07	詩	落葉 (ひろびろと～)	21 暦日
08	詩	夕日の歌	21 暦日
09	詩	土地 (国土)	21 暦日
10	詩	秋の日	21 暦日
11	詩	首 (造形篇の一)	21 暦日
12	詩	トルソ (造形編の二)	21 暦日
13	詩	朝のひかり	21 暦日
14	詩	十一月 (北のはう～)	
15	詩	短日	
16	詩	雨氷の朝	24 創元詩集
17	詩	春の牧場	24 創元詩集
18	詩	夏の小鳥が……	
19	詩	本村	

No.	詩	書名・題名	初出書
20	詩	夏野の花	24 創元詩集
21	詩	或る晴れた秋の朝の歌	25 新潮詩集
22	詩	薄雪の後	25 新潮詩集
23	詩	旗	25 新潮詩集
24	詩	冬のはじめ	25 新潮詩集
25	詩	雪に立つ	
26	詩	足あと	
27	詩	雪の夕暮	
28	詩	春の彼岸	
29	詩	早春の道	
30	詩	復活祭 (木々を～)	25 新潮詩集
31	詩	杖突峠	25 新潮詩集
32	詩	夏雲	
33	詩	山頂	25 新潮詩集
34	詩	秋の漁歌	25 新潮詩集
35	詩	農場の夫人	
36	詩	冬のこころ	
37	詩	地衣と星	25 新潮詩集
38	詩	雪山の朝	
39	詩	安曇野	
40	詩	葡萄園にて	
41	詩	八月の花鳥	
42	詩	晩秋	25 新潮詩集
43	詩	炎天	
44	詩	盛夏の午後	
45	詩	詩人と農夫	
46	詩	路傍	
47	詩	幼女	
48	詩	老農	
49	詩	フモレスケ	
50	詩	或る譚業を終へて	
51	詩	展望	
52	詩	かけす	
53	詩	林間	
54	詩	雪 (急に冷えこんで～)	
55	詩	初蝶	

No.	詩	書名・題名	初出書
56	詩	葡萄の國	
57	詩	単独行	
58	詩	木苺の原	
59	詩	日没時の蝶	
60	詩	音楽的な夜	
61	詩	黒つぐみ	
62	詩	郷愁 (いつか秋めいて～)	
63	詩	人のいない牧場	
64	詩	巻積雲	
65	詩	詩術	
66	詩	故地の花	
67	詩	言葉 (彼のつかふ～)	
68	詩	林檎の里	
69	詩	夏の最後の薔薇	
70	詩	PaStoral ScolaStique	
71	詩	晩秋の庭で	
72	詩	反響	
73	詩	夕日の中の樹	
74		巻末に	

## 27 『わが詩の流域』

55(S30).11 三笠書房(三笠新書)

01		たてしなの歌	07 絵本
02		念場ガ原・野辺山ノ原	07 絵本
03		山への断片	07 絵本
04		一日の王	07 絵本
05		初めに驚きありき	09 草原
06		ノルウェイ・バンド	09 草原
07		こころ	09 草原
08		橡の実	09 草原
09		信濃乙女	09 草原
10		べにばないちご	09 草原
11		其の頃	12 風土
12		日本の山おとこ	12 風土
13		荒(涼)寥への思慕	12 風土
14		早春の雨の夜	12 風土
15		店頭の手げら	23 遠方
16		初秋の数日	23 遠方

No.	詩	書名・題名	初出書
17		木苺の日	23 遠方
18		紫つめくさ	23 遠方
19		寂しさと桜草と	23 遠方
20		老の山歌	23 遠方

## 28 『山の詩帖』

56(S31).11 朋文堂(コマクサ叢書 3)

No.	詩	書名・題名	初出書
		小序	
01		たてしなの歌	07 絵本
02		念場ガ原・野辺山ノ原	07 絵本
03		花崗岩の国のイマアジュ	07 絵本
04	詩	三国峠	08 滞在
05	詩	神津牧場	08 滞在
06	詩	甲斐の秋の夜	08 滞在
07	詩	高原の晩夏に寄せる歌	08 滞在
08	詩	金峰山の思い出	08 滞在
09	詩	輪鋒菊	08 滞在
10		御所平と信州峠	07 絵本
11		高原にて	07 絵本
12		一日の王	07 絵本
13		美ガ原	09 草原
14	詩	山小屋の朝	13 高原
15	詩	高原	13 高原
16	詩	お花畠	13 高原
17	詩	帰来	13 高原
18	詩	美ガ原熔岩台地	13 高原
19	詩	杖突峠	26 孤独
20	詩	山頂	26 孤独
21	詩	日川の谷	08 滞在
22		秋山川上流の冬の旅	09 草原
23		戸隠と妙高	09 草原
24		灰のクリスマス	09 草原
25		神流川紀行	09 草原

## 29 『歳月の歌』

58(S33).11 朋文堂

01	詩	秋の歌	04 曠野
02	詩	パッハの夕空	10 行人
03	詩	靈感	10 行人
04	詩	暗い源泉から生まれて	10 行人
05	詩	秋 (ふたたび秋が～)	10 行人
06	詩	昔と今	10 行人

No.	詩	書名・題名	初出書
07	詩	言葉 (私は言葉を～)	10 行人
08	詩	女の小夜楽	10 行人
09	詩	日の哀歌	10 行人
10	詩	思い出の歌	10 行人
11	詩	私の詩	10 行人
12	詩	樞の樹の歌	10 行人
13	詩	夕べの泉	08 滞在
14	詩	積雲の歌	08 滞在
15	詩	夏野	08 滞在
16	詩	秋 (父よ～)	08 滞在
17	詩	初冬に	08 滞在
18	詩	若い白樺	08 滞在
19	詩	セガンティニー	08 滞在
20	詩	下山	08 滞在
21	詩	大いなる夏	08 滞在
22	詩	輪鋒菊	08 滞在
23	詩	日川	08 滞在
24	詩	甲斐の秋の夜	08 滞在
25	詩	雪消の頃	08 滞在
26	詩	金峰山の思い出	08 滞在
27	詩	和田峠東餅屋風景	08 滞在
28	詩	高原(その一)	13 高原
29	詩	高原(その二)	13 高原
30	詩	高原(その三)	13 高原
31	詩	高原(その四)	13 高原
32	詩	高原の晩夏に寄せる歌	08 滞在
33	詩	槍沢の朝	13 高原
34	詩	松本の春の朝 (松本の春)	13 高原
35	詩	美ヶ原熔岩台地	13 高原
36	詩	御所平	13 高原
37	詩	秋の流域	13 高原
38	詩	帰来	13 高原
39	詩	野辺山ノ原	13 高原
40	詩	窓前臨書	13 高原
41	詩	登山服	13 高原
42	詩	静かなる朝の歌	17 同胞
43	詩	冬野	21 暦日
44	詩	詩心	21 暦日
45	詩	本国	21 暦日
46	詩	新しい絃	21 暦日
47	詩	存在	21 暦日
48	詩	落葉 (ひろびろと～)	21 暦日
49	詩	夕日の歌	21 暦日

No.	詩	書名・題名	初出書
50	詩	土地 (国土)	21 暦日
51	詩	秋の日	21 暦日
52	詩	朝のひかり	21 暦日
53	詩	十一月 (北のはう～)	26 孤独
54	詩	短日	26 孤独
55	詩	雨水の朝	24 創元詩集
56	詩	春の牧場	24 創元詩集
57	詩	夏野の花	24 創元詩集
58	詩	或る晴れた秋の朝の歌	25 新潮詩集
59	詩	冬のはじめ	25 新潮詩集
60	詩	足あと	26 孤独
61	詩	雪の夕暮	26 孤独
62	詩	早春の道	26 孤独
63	詩	復活祭 (木々を～)	25 新潮詩集
64	詩	杖突峠	25 新潮詩集
65	詩	夏雲	26 孤独
66	詩	山頂	25 新潮詩集
67	詩	秋の漁歌	25 新潮詩集
68	詩	冬のこころ	26 孤独
69	詩	農場の夫人	26 孤独
70	詩	雪山の朝	26 孤独
71	詩	地衣と星	25 新潮詩集
72	詩	安曇野	26 孤独
73	詩	葡萄園にて	26 孤独
74	詩	晩秋	25 新潮詩集
75	詩	路傍	26 孤独
76	詩	かけす	26 孤独
77	詩	林間	26 孤独
78	詩	木苺の原	26 孤独
79	詩	単独行	26 孤独
80	詩	林檎の里	26 孤独
81	詩	日没時の蝶	26 孤独
82	詩	音楽的な夜	26 孤独
83	詩	黒つぐみ	26 孤独
84	詩	郷愁 (いつか秋めいて～)	26 孤独
85	詩	人のいない牧歌	26 孤独
86	詩	遠い分身	
87	詩	雪の星月夜	
88	詩	山頂の心	
89	詩	岩雲雀	
90	詩	風景	
91	詩	台風季の或る日から	

No.	詩	書名・題名	初出書
92	詩	秋の林から	
93	詩	山荘の蝶	
94	詩	山荘をとぎす	
95	詩	目木	
96	詩	女と葡萄園	
97	詩	蛇	
98	詩	峠	
99	詩	桃林にて(I)	
100	詩	桃林にて(II)	
101	詩	桃林にて(III)	
102	詩	溪谷(I)	
103	詩	溪谷(II)	
104	詩	溪谷(III)	
105	詩	木曾の歌(奈良井)	
106	詩	木曾の歌(鳥居峠)	
107	詩	木曾の歌(開田高原)	
108	詩	木曾の歌(寢覚)	
109	詩	我等の民話	
110		あとがき	

### 30『尾崎喜八詩文集 07 夕映えに立ちて』

58(S33).12 創文社

01		詩人	
02		雙眼鏡	
03		クリスマスへの道	
04		笛	
05		或る回想	
06		祖父の日	
		<夏と冬の素描>	
07		胡桃の木の下で	
08		焚火	
09		氷の下の歌	
10		復活祭	
11		帰京	

No.	詩	書名・題名	初出書
		<静かな時間の三部作>	
12		秋とルオー	
13		夕日とデュパルク	
14		オルゴールとジューヴ	
		<季節の短章>	
15		八ガ岳を想う	
16		初冬の心	
17		鳥を見る二人の男	
18		しぐれ	
19		冬の庭	
20		自然の中の春の歌	
21		春の告知	
22		五月のたより	
23		晩夏	
24		私の庭	
25		末消ゆるころの波	
26		よみがえった句	
27		霧ガ峯紀行	
28		木曾の旅から	
29		秋の日記	
30		晩秋	
31		高原の冬の思い出	
32		折れた白樺	
33		上高地紀行	
		<同行三人>	
34		国立自然教育園	
35		武蔵野晩秋	
36		皇居に残る「江戸」	
		<放送歳時記>	
37		郭公	
38		焚火と霜	
39		春の田園詩	
		<リルケについて>	
40		訳詩の思い出	

No.	詩	書名・題名	初出書
41		その詩の一面	
42		ヘルマン・ヘッセと自然	
43		後記	

### 31 『尾崎喜八詩文集 5 雲と草原』

59(S34).01 創文社

No.	詩	書名・題名	初出書
		《雲と草原》	
01		美ガ原	09 草原
02		秋山川上流の冬の旅	09 草原
03		戸隠と妙高	09 草原
04		須走	09 草原
05		灰のクリスマス	09 草原
06		神流川紀行	09 草原
07		一日	09 草原
08		羽族の思い出	09 草原
09		鴉とつばな	09 草原
10		初心時代	09 草原
11		蝶の標本とヘルマン・ヘッセ	09 草原
12		雲を見る	09 草原
13		初めに驚きありき	09 草原
14		ノルウェイ・バンド	09 草原
15		こころ	09 草原
16		橡の実	09 草原
17		信濃乙女	09 草原
18		べにばないちご	09 草原
19		遠い国での話	09 草原
20		或る朝のおもい	09 草原
21		雲の中で刈った草	09 草原
22		春	09 草原
23		少女の日	09 草原
		《詩人の風土》	
24		泉	12 風土
25		かんたん	12 風土
26		信州峠	12 風土
27		荒寥への思慕	12 風土
28		早春の雨の夜	12 風土
29		春の帰途	12 風土
30		高原の朝	12 風土
31		夏が又来た	12 風土
32		単独登山	12 風土
33		旅への祈り	12 風土
34		大菩薩峠で	12 風土

No.	詩	書名・題名	初出書
35		三城牧場	12 風土
36		通過列車	12 風土
37		小手指ガ原	12 風土
		《麦刈の月》	
38		井荻日記	22 視野
39		冬の途上	18 麦刈
40		水車小屋へ	18 麦刈
41		麦刈の月	18 麦刈
		<二つの歌>	
42		秋の歌	18 麦刈
43		冬の歌	22 視野
44		蝶の渡海	22 視野
45		一日の春	22 視野
46		多摩河原	22 視野
47		大平原	22 視野
48		後記	

### 32 『尾崎喜八詩文集 1 空と樹木』

59(S34).3 創文社

No.	詩	書名・題名	初出書
		《空と樹木》	
01	詩	海へ	01 樹木
02	詩	健康の朝	01 樹木
03	詩	カルナブル・ロマン	01 樹木
04	詩	カテゴリー・メイド	01 樹木
05	詩	野薊の娘	01 樹木
06	詩	スコットランドの娘	01 樹木
07	詩	田舎娘	01 樹木
08	詩	暁を呼ぶ声	01 樹木
09	詩	テニスの試合	01 樹木
10	詩	夜の樹々と星と私と	01 樹木
11	詩	悦び	01 樹木
12	詩	散歩	01 樹木
13	詩	嵐の翌朝	01 樹木
14	詩	冬空を讃う	01 樹木
15	詩	雨後の往来	01 樹木
16	詩	スイート・ビー	01 樹木
17	詩	芝生	01 樹木
18	詩	朝	01 樹木
19	詩	ボン・ボック	01 樹木
20	詩	田舎の夕暮	01 樹木
21	詩	蟬 (二つの高台に～)	01 樹木
22	詩	胸の松明	01 樹木
23	詩	小景	01 樹木

No.	詩	書名・題名	初出書
24	詩	窓から	01 樹木
25	詩	雨	01 樹木
26	詩	友だちが帰ったあと	01 樹木
27	詩	雲と落日	01 樹木
28	詩	四十雀	01 樹木
29	詩	藪鶯	01 樹木
30	詩	生活	01 樹木
31	詩	新しい季節	01 樹木
32	詩	帰り道	01 樹木
33	詩	冬の田舎	01 樹木
34	詩	櫛に寄す	01 樹木
35	詩	或る宵	01 樹木
36	詩	井戸端	01 樹木
37	詩	雪	01 樹木
38	詩	台所	01 樹木
39	詩	東京へ	01 樹木
40	詩	雪どけの日から	01 樹木
41	詩	小さい墓地	01 樹木
42	詩	収穫	01 樹木
43	詩	幸いの日	01 樹木
44	詩	雲雀	01 樹木
		《高層雲の下》	
45	詩	新らしい風	02 高層雲
46	詩	高層雲の下	02 高層雲
47	詩	野の搾乳場	02 高層雲
48	詩	河口の船着	02 高層雲
49	詩	最後の雪に	02 高層雲
50	詩	野の小川	02 高層雲
51	詩	私の聖日曜日	02 高層雲
52	詩	音楽	02 高層雲
53	詩	夕ばえにむかって	02 高層雲
54	詩	明るい窓	02 高層雲
55	詩	ヴェルアーランを憶う	02 高層雲
56	詩	若い主婦	02 高層雲
57	詩	昆陽先生の墓にて	02 高層雲
58	詩	古いこしかた	02 高層雲
59	詩	草上の郵便	02 高層雲
60	詩	村の盃蘭盆	02 高層雲
61	詩	我が家の台所	02 高層雲
62	詩	裏道	02 高層雲
63	詩	日没の時	02 高層雲
64	詩	静かな夏	02 高層雲
65	詩	土用の入	02 高層雲

No.	詩	書名・題名	初出書
66	詩	水際	02 高層雲
67	詩	晩夏	02 高層雲
68	詩	秋風	02 高層雲
69	詩	女等	02 高層雲
70	詩	母	02 高層雲
71	詩	九月の櫛	02 高層雲
72	詩	海	02 高層雲
73	詩	秋の朝	02 高層雲
74	詩	古典の空	02 高層雲
75	詩	樹木讃歌	02 高層雲
76	詩	朝狩にて	02 高層雲
77	詩	花崗岩	02 高層雲
78	詩	健康	02 高層雲
79	詩	もず	02 高層雲
80	詩	蹄鉄打ち	02 高層雲
81	詩	落葉	02 高層雲
82	詩	冬の木立	02 高層雲
83	詩	眠られぬ夜のために	02 高層雲
84	詩	日の暮	02 高層雲
85	詩	蛇窪に別れる	02 高層雲
86	詩	自我の讃美	02 高層雲
		《曠野の火》	
87	詩	小作人の墓銘	04 曠野
88	詩	曳船の舵手	04 曠野
89	詩	老教授	04 曠野
90	詩	ひとり者の最後の春	04 曠野
91	詩	霧	04 曠野
92	詩	大根	04 曠野
93	詩	冬の林	04 曠野
94	詩	私の古い長靴	04 曠野
95	詩	春を待つ間	04 曠野
96	詩	久濶	04 曠野
97	詩	天然の一日	04 曠野
98	詩	麦	04 曠野
99	詩	初夏の小屋	04 曠野
100	詩	平戸島への消息	04 曠野
101	詩	西瓜	04 曠野
102	詩	老いたる櫛	04 曠野
103	詩	小鳥	04 曠野
104	詩	積乱雲	04 曠野
105	詩	秋の歌	04 曠野
106	詩	朝の半時間	04 曠野
107	詩	隼	04 曠野

No.	詩	書名・題名	初出書
108	詩	かがやく稲田	04 曠野
109	詩	夜あけの嵐	04 曠野
110	詩	兜虫	04 曠野
111	詩	甲州街道の牛	04 曠野
112	詩	冬の蠅	04 曠野
113	詩	朝の甲州街道	04 曠野
114	詩	土と落葉と水溜まり	04 曠野
115	詩	冬	04 曠野
116	詩	私のかわゆい白頭巾	04 曠野
117	詩	夕暮の歌	04 曠野
118	詩	墓	04 曠野
119	詩	精神的寂靜	04 曠野
120	詩	クリスマス	04 曠野
121	詩	青い鳥	04 曠野
122	詩	故郷にて	04 曠野
123		後記	

### 33 『尾崎喜八詩文集 2 旅と滞在』

59(S34).05 創文社

No.	詩	書名・題名	初出書
		《行人の歌》	
01	詩	曇りの日の村	10 行人
02	詩	朝寒	10 行人
03	詩	夜をこめて	10 行人
04	詩	早春	10 行人
05	詩	バッハの夜空	10 行人
06	詩	十一月	10 行人
07	詩	希望	10 行人
08	詩	エネルギー	10 行人
09	詩	靈感	10 行人
10	詩	挽歌	10 行人
11	詩	或朝のおもい	10 行人
12	詩	慰め	10 行人
13	詩	熱狂	10 行人
14	詩	草に	10 行人
15	詩	夜の道	10 行人
16	詩	東京の秋	10 行人
17	詩	追憶	10 行人
18	詩	私の詩	10 行人
19	詩	夜	10 行人
20	詩	エレオノーレ	10 行人
21	詩	母性	10 行人
22	詩	日本の眼	10 行人
23	詩	暗い源泉から生まれて	10 行人

No.	詩	書名・題名	初出書
24	詩	朝の書齋へ	10 行人
25	詩	私は愛する	10 行人
26	詩	今日という日は	10 行人
27	詩	今朝もまた	10 行人
28	詩	寄託	10 行人
29	詩	銃獵家に興う	10 行人
30	詩	中野秀人の首	10 行人
31	詩	霜どけ道	10 行人
32	詩	精神	10 行人
33	詩	この眼は何を	10 行人
34	詩	喪の春	10 行人
35	詩	夕陽哀歌	10 行人
36	詩	朽ちる我家	10 行人
37	詩	郷愁	10 行人
38	詩	昔と今	10 行人
39	詩	旅のめざめ	10 行人
40	詩	道づれ	10 行人
41	詩	都会にて	10 行人
42	詩	秋	10 行人
43	詩	限界	10 行人
44	詩	思い出の歌	10 行人
45	詩	旅	10 行人
46	詩	シュナイダー	10 行人
47	詩	シュプール	10 行人
48	詩	新年言志	10 行人
49	詩	早春の歌	10 行人
50	詩	樅の樹の歌	10 行人
51	詩	言葉	10 行人
52	詩	女の小夜楽	10 行人
53	詩	日の哀歌	10 行人
54	詩	野良の初冬	10 行人
55	詩	清福	10 行人
56	詩	訪問	15 二十年
57	詩	五歳の言葉	
58	詩	カマラード	
59	詩	新戦場	南有集
		《旅と滞在》	
60	詩	友(わたしは君と～)	08 滞在
61	詩	友(君の朝の～)	08 滞在
62	詩	三国峠	08 滞在
63	詩	一年後	08 滞在
64	詩	神津牧場	08 滞在

No.	詩	書名・題名	初出書
65	詩	前橋市遠望	08 滞在
66	詩	猪茸	08 滞在
67	詩	夕べの泉	08 滞在
68	詩	若い白樺	08 滞在
69	詩	アルペンフロラ	08 滞在
70	詩	西北風	08 滞在
71	詩	積雲の歌	08 滞在
72	詩	夏野	08 滞在
73	詩	秋	08 滞在
74	詩	初冬に	08 滞在
75	詩	覚めている貧	08 滞在
76	詩	セガンティニ	08 滞在
77	詩	雲	08 滞在
78	詩	下山	08 滞在
79	詩	大いなる夏	08 滞在
80	詩	八ヶ岳横岳	08 滞在
81	詩	輪鋒菊	08 滞在
82	詩	星空の下を	08 滞在
83	詩	朝の速記	08 滞在
84	詩	山村にて	08 滞在
85	詩	山麓の町	08 滞在
86	詩	日川	08 滞在
87	詩	甲斐の秋の夜	08 滞在
88	詩	山中地溝帯で	08 滞在
89	詩	金峯山の思い出	08 滞在
90	詩	志賀高原	08 滞在
91	詩	秩父の早春	08 滞在
92	詩	飯綱高原	08 滞在
93	詩	和田峠東餅屋風景	08 滞在
94	詩	天上沢	08 滞在
95	詩	信州追分	08 滞在
96	詩	雪消の頃	08 滞在
97	詩	高原の晩夏に寄せる歌	08 滞在
		《高原詩抄》	
98	詩	早春の山にて	13 高原
99	詩	春浅き	13 高原
100	詩	かたくりの花	13 高原
101	詩	軍道	13 高原
102	詩	松本の春の朝	13 高原
103	詩	山小屋の朝	13 高原
104	詩	高原 その一	13 高原
105	詩	高原 その二	13 高原
106	詩	高原 その三	13 高原

No.	詩	書名・題名	初出書
107	詩	高原 その四	13 高原
108	詩	高原 その五	13 高原
109	詩	お花鳥	13 高原
110	詩	槍沢の朝	13 高原
111	詩	帰来	13 高原
112	詩	牧場	13 高原
113	詩	野辺山ノ原	13 高原
114	詩	美ガ原溶岩台地	13 高原
115	詩	秋の流域	13 高原
116	詩	御所平	13 高原
117	詩	凍死	13 高原
118	詩	夏山思慕	13 高原
119	詩	山を描く木暮先生	13 高原
120	詩	噴水	13 高原
		《此の糧(抄)》	
121	詩	此の糧	14 糧
122	詩	若い下婢	14 糧
123	詩	連峯雲	14 糧
124	詩	大詔奉載歌	14 糧
125	詩	少年航空兵	14 糧
126	詩	庭訓	14 糧
127	詩	峠路	14 糧
128	詩	登山服	14 糧
129	詩	特別攻撃隊	14 糧
130	詩	三粒の卵	14 糧
131	詩	窓前臨書	14 糧
132	詩	新緑の表参道	14 糧
133	詩	工場の娘等	14 糧
134	詩	父の名	14 糧
135	詩	若き応召者	14 糧
136	詩	つはものの母の夢の歌	14 糧
137	詩	つわものの父の歌	
138	詩	その手	
139	詩	歌はぬビッケル	14 糧
140	詩	少国民の秋	14 糧
		《同胞と共にあり(抄)》	
141	詩	同胞と共にあり	17 同胞
142	詩	石見の国の日本の母	17 同胞
143	詩	大阪	17 同胞
144	詩	忙中閑	17 同胞
145	詩	志を言う	17 同胞
146	詩	隣組菜園	17 同胞
147	詩	雪の峠路	17 同胞

No.	詩	書名・題名	初出書
148	詩	アリュージョン	17 同胞
149	詩	明星と花	17 同胞
150	詩	軍艦那智	17 同胞
151	詩	春の谷間	17 同胞
152	詩	第二次特別攻撃隊	17 同胞
153	詩	静かなる朝の歌	17 同胞
154	詩	北門の春	17 同胞
155	詩	勤労作業にて	17 同胞
156	詩	消息	17 同胞
157	詩	学徒出陣	17 同胞
158	詩	工場の山男	17 同胞
159	詩	弟橘媛	17 同胞
160	詩	白鳥の陵にて	
161		後記	

### 34『尾崎喜八詩文集 4 山の絵本』

59(S34).05 創文社

		《絵のように》	
01		たてしなの歌	07 絵本
02		念場ガ原・野辺山ノ原	07 絵本
03		花崗岩の国のイマージュ	07 絵本
04		神津牧場の組曲	07 絵本
05		御所平と信州峠	07 絵本
06		大蔵高丸・大谷ガ丸	07 絵本
07		蘆川の谷	07 絵本
08		新年の御岳・大岳	07 絵本
09		高原にて	07 絵本
10		一日秋川にてわが見たるもの	07 絵本
		《画因と素描》	
11		山への断片	07 絵本
12		木暮先生	07 絵本
13		子供と山と	07 絵本
14		「山日記」から	07 絵本
15		美しき五月の月に	07 絵本
16		山と音楽	07 絵本
17		高山植物雑感	07 絵本
18		追分の草	07 絵本
19		胴乱下げて	07 絵本
20		ハイキング私見	07 絵本
21		「山に憩う」友に	07 絵本
22		秩父の王子	07 絵本
23		松井幹雄君の思い出	07 絵本

No.	詩	書名・題名	初出書
24		秩父の牽く力	07 絵本
25		春の丘陵	07 絵本
26		一日の王	07 絵本
		《附録 山と芸術》	
27		山と芸術	
28		或る単独登山者の告白	
29		後記	

### 35『尾崎喜八詩文集 6 美しき視野』

59(S34).08 創文社

		《高原暦日》	
01		到着	21 暦日
02		恢復期	21 暦日
03		野薔薇	21 暦日
04		森のオルフォイス	21 暦日
05		真夏の散歩	21 暦日
06		晩夏	21 暦日
07		音楽会	21 暦日
08		野鳥と風景	21 暦日
09		冬空の下	21 暦日
		《美しき視野》	
		＜九月の断章＞	
10		高原初秋	22 視野
11		風の音	22 視野
12		ホオジロの歌	22 視野
13		菌類一種	22 視野
14		エゾゼミ	22 視野
15		ちいさい物	22 視野
16		ウーロン茶	22 視野
17		雲に寄せることづて	22 視野
		＜雲二題＞	
18		或る夕べの雲	22 視野
19		或る朝の雲	22 視野
20		入笠山にて	22 視野
21		採集行	22 視野
22		別れの曲と到着の歌	22 視野
23		湖畔の町の半日	22 視野
24		ホトトギス	22 視野
25		童話	22 視野
26		秋の林にて	22 視野
		＜背負子＞	
27		マーテルリンクの朝	22 視野

No.	詩	書名・題名	初出書
28		春はふたたび	22 視野
29		ペアルンの歌	22 視野
30		背負子	22 視野
31		山村俯瞰	22 視野
32		友情	22 視野
33		森の子供たち	22 視野
		《碧い遠方》	
34		店頭の青げら	23 遠方
35		泉	23 遠方
36		初秋の数日	23 遠方
37		石の花びら	23 遠方
38		木苺の日	23 遠方
39		紫つめくさ	23 遠方
40		草に寝て	23 遠方
41		一日の終わりに	23 遠方
42		乾草刈の頃	23 遠方
43		豆島にて	23 遠方
44		落葉掻きの時	23 遠方
45		踏鉄工	23 遠方
46		二月の春	23 遠方
47		春の雲	23 遠方
48		寂しさと桜草と	23 遠方
49		朴の杖	23 遠方
50		小さい旅人	23 遠方
51		盛夏白昼	23 遠方
52		冠着	23 遠方
53		初秋の湖	23 遠方
54		老の山歌	23 遠方
55		西徳高	23 遠方
56		入笠山	23 遠方
57		草山のはて	23 遠方
58		入笠小屋	23 遠方
59		或る遭遇	23 遠方
60		秋の隣人	23 遠方
61		初冬の客	23 遠方
62		柿	23 遠方
63		初心者	23 遠方
64		輝石	23 遠方
65		虹	23 遠方
66		秋の丘で	23 遠方
67		湖畔の星	23 遠方
68		黄びたきの災難	23 遠方
69		雛鳥記	23 遠方

No.	詩	書名・題名	初出書
70		黄昏の飛行家	23 遠方
71		ハドスン的な冬の日	23 遠方
72		後記	

### 36 『尾崎喜八詩文集 3 花咲ける孤獨』

59 (S34).10 創文社

No.	詩	書名・題名	初出書
		《花咲ける孤獨》	
01	詩	告白	26 孤獨
02	詩	冬野	26 孤獨
03	詩	詩心	26 孤獨
04	詩	本国	26 孤獨
05	詩	新らしい絃	26 孤獨
06	詩	存在	26 孤獨
07	詩	落葉	26 孤獨
08	詩	夕日の歌	26 孤獨
09	詩	土地	26 孤獨
10	詩	秋の日	26 孤獨
11	詩	首 (造型篇の一)	26 孤獨
12	詩	トルソ (造型篇の二)	26 孤獨
13	詩	短日	26 孤獨
14	詩	朝のひかり	26 孤獨
15	詩	十一月	26 孤獨
16	詩	雨氷の朝	26 孤獨
17	詩	春の牧場	26 孤獨
18	詩	夏の小鳥が……	26 孤獨
19	詩	薄雪の後	26 孤獨
20	詩	旗	26 孤獨
21	詩	冬のはじめ	26 孤獨
22	詩	本村	26 孤獨
23	詩	夏野の花	26 孤獨
24	詩	或る晴れた秋の朝の歌	26 孤獨
25	詩	雪に立つ	26 孤獨
26	詩	足あと	26 孤獨
27	詩	雪の夕暮	26 孤獨
28	詩	春の彼岸	26 孤獨
29	詩	早春の道	26 孤獨
30	詩	復活祭	26 孤獨
31	詩	杖突峠	26 孤獨
32	詩	夏雲	26 孤獨
33	詩	山頂	26 孤獨
34	詩	秋の漁歌	26 孤獨
35	詩	農場の夫人	26 孤獨
36	詩	冬のころ	26 孤獨

No.	詩	書名・題名	初出書
37	詩	地衣と星	26 孤独
38	詩	雪山の朝	26 孤独
39	詩	安曇野	26 孤独
40	詩	葡萄園にて	26 孤独
41	詩	八月の花曇	26 孤独
42	詩	晩秋	26 孤独
43	詩	炎天	26 孤独
44	詩	盛夏の午後	26 孤独
45	詩	路傍	26 孤独
46	詩	幼女	26 孤独
47	詩	老農	26 孤独
48	詩	フモレスケ	26 孤独
49	詩	或る訳業を終えて	26 孤独
50	詩	展望	26 孤独
51	詩	かけす	26 孤独
52	詩	詩人と農夫	26 孤独
53	詩	林間	26 孤独
54	詩	初蝶	26 孤独
55	詩	葡萄の国	26 孤独
56	詩	単独行	26 孤独
57	詩	木苺の原	26 孤独
58	詩	日没時の蝶	26 孤独
59	詩	音楽的な夜	26 孤独
60	詩	黒つぐみ	26 孤独
61	詩	郷愁	26 孤独
62	詩	雪	26 孤独
63	詩	人のいない牧歌	26 孤独
64	詩	巻積雲	26 孤独
65	詩	故地の花	26 孤独
66	詩	言葉	26 孤独
67	詩	林檎の里	26 孤独
68	詩	夏の最後の薔薇	26 孤独
69	詩	PaStral ScolaStique	26 孤独
70	詩	晩秋の庭で	26 孤独
71	詩	反響	26 孤独
72	詩	夕日の中の樹	26 孤独
73	詩	詩術	26 孤独
		《歳月の歌》	
74	詩	蛇	29 歳月
75	詩	遠い分身	29 歳月
76	詩	雪の星月夜	29 歳月
77	詩	山頂の心	29 歳月
78	詩	岩雲雀	29 歳月

No.	詩	書名・題名	初出書
79	詩	風景	29 歳月
80	詩	台風季の或る日から	29 歳月
81	詩	秋の林から	29 歳月
82	詩	山頂の蝶	29 歳月
83	詩	山荘をとざす	29 歳月
84	詩	目木	29 歳月
85	詩	女と葡萄園	29 歳月
86	詩	峠	29 歳月
87	詩	桃林にて (I)	29 歳月
88	詩	桃林にて (II)	29 歳月
89	詩	桃林にて (III)	29 歳月
90	詩	溪谷 (I)	29 歳月
91	詩	溪谷 (II)	29 歳月
92	詩	溪谷 (III)	29 歳月
93	詩	木曾の歌 (奈良井)	29 歳月
94	詩	木曾の歌 (鳥居峠)	29 歳月
95	詩	木曾の歌 (開田高原)	29 歳月
96	詩	木曾の歌 (寝覚)	29 歳月
97	詩	我等の民話	29 歳月
		《その後の詩帖から》	
98	詩	久方の山	
99	詩	立春	
100	詩	眼前の蜜蜂に	
101	詩	花壇にて	
102	詩	二十五年	
103	詩	充実した秋	
104	詩	十一月	
105	詩	生けるがごとき君への歌	
106	詩	四月の詩	
107	詩	元旦の笛	
108	詩	春の前夜	
109	詩	眠られぬ夜に	
110	詩	春愁	
111	詩	受難の金曜日	
112	詩	関心	
113	詩	車窓	
114	詩	玉のような時間	
115	詩	転調	

No.	詩	書名・題名	初出書
116	詩	朝のひとつき	
117	詩	雲の走る夜	
118	詩	夏への準備	
119		後記	
120		略年譜	

### 37 『尾崎喜八詩文集 8 いたるところの歌』

62(S37).07 創文社

01	詩	序詩	
		《野外と屋内》	
02		家と環境	
03		晩春の或る午後	
04		孫	
05		小さい旅	
06		詩の鑑賞	
07		夏から秋への一日	
08		故園の歌	
09		木曾の旅	
10		旅の小鳥と庭のツグミ	
11		冬晴れ	
12		早春	
13		日記から (一)	
14		マドレーヌ・ロランのこと	
15		私の愛鳥週間	
16		日記から (二)	
17		旅のたより	
		《 》	
18		牧場の変奏曲	
19		鳥居峠	
20		梓山紀行	
21		山口耀久	
22		山の詩と山の詩人	
23		山小屋への想い	
		《 》	

No.	詩	書名・題名	初出書
24		詩と音楽	
25		生きているレコード	
26		エステルとアンリエット	
		《 》	
27		ロマン・ロランと自然	
		《 》	
28		秋を生きて	
29		過ぎゆく時間の中で	
30		旅で知る妻	
31		小さい傑作への讃歌	
		《 》	
32		友への手紙	
33		砂丘にて	
34		春浅き海と山	
35		自然と共にある故に	
		《 》	
36		『わが愛する山々』	
37		『人類の星の時間』	
38		タゴールについて求められて	
39		処女詩集の思い出	
40		或る小さい体験	
41	詩	結びの詩	
42		後記	

### 38 『自然手帖』 (共著～串田孫一ほか)

64(S39).03 大和書房(銀河選書 5)

01		芝生の中の宝石	
02		イソギクの小曲	
03		水辺の一場景	
04		枯葉の歌	
05		真冬のヒバリ	
06		ふるさとの水の上に	
07		波のように	
08		皿の上の早春	

No.	詩	書名・題名	初出書
09		受胎告知	
10		町をゆく牧歌	
11		ヴェロニカ・ペルシカ	
12		まがきのほとり	
13		王朝風な時間	
14		別れの笛	
15		山荘の森の灯	
16		美の哀愁	
17		世代の移り	
18		初夏を彩る	
19		初夏の歌	
20		或るメーデー歌	
21		警告	
22		自然詩人の花	
23		セレナード	
24		高原の炎	
25		庭の裁断師	
26		水上の夏の歌	
27		まろく、重たく	
28		溪流の美魚	
29		シャロンの野花	
30		霧のコルリ	
31		夏の焦燥	
32		路傍のムクゲ	
33		空の黒片	
34		水を運ぶ母	
35		晩夏の詩の花	
36		初秋の輪唱	
37		たそがれの夢の花	
38		貝しらべ	
39		誠実な訪問者	
40		秋光燦々	
41		寒気に追われて	
42		充実と落下	

No.	詩	書名・題名	初出書
43		合戦尾根にて	
44		信濃路の秋	
45		百合の木の歌	
46		美しい吸血鬼	
47		カラマツ荘厳	
48		賢者の石	
49		野性を恋う	
50		微生物に思う	
51		冬にも緑	
52		年輪の含蓄	
53		あとがき	

### 39 『さまざまの泉』

64(S39).08 白水社

No.	詩	書名・題名	初出書
		《生活の中の音楽》	
01		バッハへの思い	
02		ベートーヴェンと自然	
03		冬の日記から	
04		私と笛	
05		ドビュッシーのバガテル	
		《一年の輝き》	
06		1 芝生の中の宝石	38 手帖
07		2 イソギクの小曲	38 手帖
08		3 水辺の一場景	38 手帖
09		4 枯葉の歌	38 手帖
10		5 真冬のヒバリ	38 手帖
11		6 ふるさとの水の上に	38 手帖
12		7 波のように	38 手帖
13		8 皿の上の早春	38 手帖
14		9 受胎告知	38 手帖
15		10 町をゆく牧歌	38 手帖
16		11 ヴェロニカ・ペルシカ	38 手帖
17		12 まがきのほとり	38 手帖
18		13 王朝風な時間	38 手帖
19		14 別れの笛	38 手帖
20		15 山荘の森の灯	38 手帖
21		16 美の哀愁	38 手帖
22		17 世代の移り	38 手帖

No.	詩	書名・題名	初出書
23		18 初夏を彩る	38 手帖
24		19 初夏の歌	38 手帖
25		20 或るメーデー歌	38 手帖
26		21 警告	38 手帖
27		22 自然詩人の花	38 手帖
28		23 セレナード	38 手帖
29		24 高原の炎	38 手帖
30		25 庭の裁断師	38 手帖
31		26 水上の夏の歌	38 手帖
32		27 まろく、重たく	38 手帖
33		28 溪流の美魚	38 手帖
34		29 シャロンの野花	38 手帖
35		30 霧のコルリ	38 手帖
36		31 夏の焦燥	38 手帖
37		32 路傍のムクゲ	38 手帖
38		33 空の黒片	38 手帖
39		34 水を運ぶ母	38 手帖
40		35 晩夏の詩の花	38 手帖
41		36 初秋の輪唱	38 手帖
42		37 たそがれの夢の花	38 手帖
43		38 貝しらべ	38 手帖
44		39 誠実な訪問者	38 手帖
45		40 秋光燦々	38 手帖
46		41 寒気に追われて	38 手帖
47		42 充実と落下	38 手帖
48		43 合戦尾根にて	38 手帖
49		44 信濃路の秋	38 手帖
50		45 百合の木の歌	38 手帖
51		46 美しい吸血鬼	38 手帖
52		47 カラマツ荘厳	38 手帖
53		48 賢者の石	38 手帖
54		49 野性を恋う	38 手帖
55		50 微生物に思う	38 手帖
56		51 冬にも緑	38 手帖
57		52 年輪の含蓄	38 手帖
		《書窓雑録》	
58		カロッサへの感謝	
59		詩と言葉	
60		蔵書と読書	
61		秋の日記から	
62		野外手帖から	

No.	詩	書名・題名	初出書
63		途上のまなざし	
64		花崗岩の破片	
65		自然を愛するということ	
		《「自然と共に」》	
66		1 五月の峠	
67		2 富士見紀行	
68		3 奥日光の一日	
69		4 西伊豆の海と丘	
70		5 武蔵野の早春賦	
71		6 那須高原と久慈溪谷	
72		7 春を待つ山	
73		後記	

#### 40 『田舎のモーツァルト』

66(S41).11 創文社

01	詩	冬の雅歌	
02	詩	不在	
03	詩	妻に	
04	詩	ハインリッヒ・シュッツ	
05	詩	秋（風が一日じゅう〜）	
06	詩	霧と風の高原で	
07	詩	岩を研ぐ	
08	詩	春の葡萄山	
09	詩	モーツァルトの午後	
10	詩	出合い	
11	詩	歳月	
12	詩	田舎のモーツァルト	
13	詩	ひとりの山	
14	詩	七月の地誌	
15	詩	回顧	
16	詩	車窓のフーガ	
17	詩	高所の春	
18	詩	あかがり	
19	詩	復活祭の高原	

No.	詩	書名・題名	初出書
20	詩	山中取材	
21	詩	野の仏	
22	詩	蟬(蟬) (生いしげる木立に～)	
23	詩	或る石に刻むとて	
24	詩	湖畔の朝	
25	詩	和田峠	
26	詩	馬籠峠	
27	詩	上越線にて	
28	詩	鴨	
29	詩	受胎告知	
30	詩	春興	
31	詩	桃咲く春	
32	詩	高地牧場	
33	詩	故園の歌	
34	詩	十年後	
35	詩	朝の門前で	
36	詩	草津白根	
37	詩	予感	
38	詩	飼育場風景	
39		後記	

#### 41 『私の衆賛歌』

67(S42).02 創文社

No.	詩	書名・題名	初出書
		《音楽》	
01		バッハをめぐって(一)	
02		バッハをめぐって(二)	
03		冬の或る日	
04		『ベートーヴェンの生涯』	
05		今と昔	
06		ブクスフーデ	
07		森の歌	
08		合唱と私	
		《自然》	
09		甲斐路の春	

No.	詩	書名・題名	初出書
10		浅間山麓の一日	
11		美ヶ原の秋	
12		武蔵野の鳥	
13		知多半島の一角	
14		思い出の山の花たち	
15		山にゆかりの先輩	
16		道二題	
17		凶鑑について	
		《先人と友人》	
18		デュアメルのかたみ	
19		デュアメル追悼	
20		カロッサの教訓	
21		若き日の友の姿	
22		交友抄	
23		わが師わが友	
24		祝詞に代えて	
		《清閑記》	
25		一詩人の告白	
26		道にて	
27		詩人の朝	
28		近況	
29		たしなみの美	
30		わが愛誦の詩(一)	
31		わが愛誦の詩(二)	
32		ふるさとの一角	
33		山小屋からの電話	
34		その頃の孫	
35		雑草	
36		『思索する心』	
37		新しい印章	
38		たまたまの余暇	
39		私の一冊の本	
40		旅の宿	
		《高村光太郎》	

No.	詩	書名・題名	初出書
41		大いなる損失	
42		あの手のイメージ	
43		ふたたびの春	
44		高村さんとの旅	
45		初めて見たアトリエ	
46		晩秋の午後の夢想	
47		片思いの頃	
48		智恵子さんの思い出 (一)	
49		智恵子さんの思い出 (二)	
50		後記	

## 42 『夕べの旋律』

69(S44).06 創文社

		《鎌倉住まい》	
01		春信	
02		再生の歌	
03		内と外 (1)	
04		内と外 (2)	
05		秋	
06		早春	
07		鎌倉随想	
		《音楽》	
08		バッハへ傾く心	
09		古い手箱と「別れの曲」	
10		オーヴェルニュの歌	
11		笛とレコード	
12		モーツァルト	
13		スカララッティ	
14		一枚のレコード	
15		『ヨハネ受難曲』について	
16		ブルーノ・ワルター	
17		パイヤールの印象	
18		「目ざめよと呼ばわる声す」	
		《三詩人》	

No.	詩	書名・題名	初出書
19		「高村光太郎全詩稿」のために	
20		「蟬を彫る」	
21		星座早見	
22		「道程」との出会い	
23		「ぼろぼろな駝鳥」	
24		千家元鷹の人と作品	
25		千家元鷹の詩と解説	
26		賢治を憶う	
		《思い出の山》	
27		上高地行	
28		山と音楽	
29		思い出の山と人	
30		夜明けの山の写真に添えて	
31		一人の山	
		《書評》	
32		串田孫一さんの『ゆめのえほん』	
33		『東京回顧』	
34		石川翠詩集	
35		三人の永遠の音楽家	
		《余録》	
36		ロマン・ロランの声	
37		電話寸感	
38		信州の酒に寄せて	
39		初めて『郷愁』を読んだころ	
40		自然の音	
41		「井荻日記」について	
42		私のヘルマン・ヘッセ (1)	
43		私のヘルマン・ヘッセ (2)	
44		白山小桜の歌	
45		『ベートーヴェンの生涯』 (或る文庫版のために)	
46		「此の家の以前の子供」	
47		デュアメルの訳書に添えて	
48		一詩人のブルデル見学	
49		後書	

No.	詩	書名・題名	初出書
<b>43『自註 富士見高原詩集』</b>			
69(S44).11 青娥書房			
詩はすべて再録だが、尾崎の自註が付されている。			
		前書き	
01	詩	告白	21 暦日
02	詩	本国	21 暦日
03	詩	新しい絃	21 暦日
04	詩	存在	21 暦日
05	詩	落葉 (ひろびろと～)	21 暦日
06	詩	夕日の歌	21 暦日
07	詩	土地 (国土)	21 暦日
08	詩	秋の日	21 暦日
09	詩	短日	26 孤独
10	詩	朝のひかり	21 暦日
11	詩	十一月 (北のはう～)	26 孤独
12	詩	雨氷の朝	25 新潮詩集
13	詩	春の牧場	24 創元詩集
14	詩	夏の小鳥が……	26 孤独
15	詩	薄雪の後	25 新潮詩集
16	詩	旗	25 新潮詩集
17	詩	冬のはじめ	25 新潮詩集
18	詩	本村	26 孤独
19	詩	夏野の花	25 新潮詩集
20	詩	或る晴れた秋の朝の歌	25 新潮詩集
21	詩	雪に立つ	26 孤独
22	詩	足あと	26 孤独
23	詩	雪の夕暮	26 孤独
24	詩	春の彼岸	26 孤独
25	詩	早春の道	26 孤独
26	詩	復活祭 (木々を～)	25 新潮詩集
27	詩	杖突峠	25 新潮詩集
28	詩	夏雲	26 孤独
29	詩	山頂	25 新潮詩集

No.	詩	書名・題名	初出書
30	詩	秋の漁歌	25 新潮詩集
31	詩	農場の夫人	26 孤独
32	詩	冬のこころ	26 孤独
33	詩	地衣と星	25 新潮詩集
34	詩	雪山の朝	26 孤独
35	詩	安曇野	26 孤独
36	詩	葡萄園にて	26 孤独
37	詩	八月の花鳥	26 孤独
38	詩	晩秋	25 新潮詩集
39	詩	炎天	26 孤独
40	詩	盛夏の午後	26 孤独
41	詩	路傍	26 孤独
42	詩	幼女	26 孤独
43	詩	老農	26 孤独
44	詩	フモレスケ	26 孤独
45	詩	或る譯業を終へて	26 孤独
46	詩	展望	26 孤独
47	詩	かけす	26 孤独
48	詩	詩人と農夫	26 孤独
49	詩	林間	26 孤独
50	詩	木苺の原	26 孤独
51	詩	日没時の蝶	26 孤独
52	詩	音楽的な夜	26 孤独
53	詩	黒つぐみ	26 孤独
54	詩	郷愁 (いつか秋めいて～)	26 孤独
55	詩	雪 (急に冷えこんで～)	26 孤独
56	詩	人のいない牧場	26 孤独
57	詩	巻積雲	26 孤独
58	詩	故地の花	26 孤独
59	詩	蛇	29 歳月
60	詩	秋の林から	29 歳月
61	詩	山荘の蝶	29 歳月
62	詩	山荘をとぎす	29 歳月
63	詩	目木	29 歳月

No.	詩	書名・題名	初出書
64	詩	峠	29 歳月
65	詩	溪谷(I)	29 歳月
66	詩	溪谷(II)	29 歳月
67	詩	溪谷(III)	29 歳月
68	詩	充実した秋	36 詩文集 03
69	詩	十一月 (濃い褐色に～)	36 詩文集 03
70	詩	受難の金曜日	36 詩文集 03

#### 44 『その空の下で』

70(S45).12 創文社

01	詩	されど同じ安息日の夕暮に	
02	詩	アイヒェンドルフ再読	
03	詩	よみがえる春の歌	
04	詩	音楽会で	
05	詩	シューマンと草取り	
06	詩	一つのイメージ	
07	詩	ほほえましいたより	
08	詩	復活祭 (天は笑い～)	
09	詩	晩年のバルリオーズ	
10	詩	上高地にて (薄いエンゼル文庫～)	
11	詩	森林限界	
12	詩	詩人と笛 その一、その二	
13	詩	夏行	
14	詩	回復期の朝	
15	詩	鎌倉初秋	
16	詩	明月谷	
17	詩	岩雲雀の歌	
18	詩	古い山の地図を前にして	
19	詩	雲表の十月	
20	詩	霧が 峯の春	
21	詩	カエデの勉強	
22	詩	続けかしの歌	
23	詩	鈴	
24	詩	ヴィヴァルディ	

No.	詩	書名・題名	初出書
25	詩	「諸国の人々」	
26	詩	勉強篇	
27	詩	バッハの「復活オラトリオ」から	
28	詩	二つの現実	
29	詩	讃称	
30	詩	エリュアール	
31	詩	浄土平	
32	詩	その空の下で	
33	詩	春愁 (高村智恵子)	
34	詩	命あって	
35	詩	黄道光	
36	詩	トンボの谷	
37	詩	詩「無常」の作者に	
38	詩	過去と現在	
39	詩	安らぎと広がりの中で	
40	詩	沈みゆく星に寄せて	
41		後記	

#### 45 『あの頃の私の山』

71(S46).07 二見書房(山岳名著シリーズ)

01	詩	美ガ原熔岩台地	13 高原
02		たてしなの歌	07 絵本
03		念場ガ原・野辺山ノ原	07 絵本
04		神津牧場の組曲	07 絵本
05		御所平と信州峠	07 絵本
06		山への断片	07 絵本
07		美しき五月の月に	07 絵本
08	詩	帰来	13 高原
09		秩父の牽く力	07 絵本
10		一日の王	07 絵本
11		美ガ原	09 草原
12		秋山川上流の冬の旅	09 草原
13	詩	山頂	26 孤独
14		戸隠と妙高	09 草原
15		神流川紀行	09 草原
16		初めに驚きありき	09 草原
17		ノルウェイ・バンド	09 草原
18		こころ	09 草原

No.	詩	書名・題名	初出書
19	詩	春の牧場	26 孤独
20		橡の実	09 草原
21		信濃乙女	09 草原
22		べにばないちご	09 草原
23		泉 (ゆたかに涼しく～)	12 風土
24		信州峠	12 風土
25	詩	杖突峠	26 孤独
26		荒寥への思慕	12 風土
27		通過列車	12 風土
28		石の花びら	23 遠方
29		老の山歌	23 遠方
30	詩	山頂の心	29 歳月
31		霧ガ峯紀行	30 詩文集 07
32		高原の冬の思い出	30 詩文集 07
33		牧場の変奏曲	37 詩文集 08

#### 46『素顔の鎌倉』(大佛次郎編・共著)

71(S46).09 実業の日本社

01		その土地への愛の序曲	
		<折り折りの記>	
02		初秋	
03		友人	
04		病院にて	
05		心平さんの鎌倉来訪	
06		海岸で	
07		道	
08		憩いの店	

#### 47『尾崎喜八詩文集 9 晩き木の実』

72(S47).06 創文社

		《一年の輝き》	
01		1 芝生の中の宝石	38 手帖
02		2 イソギクの小曲	38 手帖
03		3 水辺の一風景	38 手帖
04		4 枯葉の歌	38 手帖
05		5 真冬のヒバリ	38 手帖
06		6 ふるさとの水の上に	38 手帖
07		7 波のように	38 手帖
08		8 皿の上の早春	38 手帖
09		9 受胎告知	38 手帖

No.	詩	書名・題名	初出書
10		10 町をゆく牧歌	38 手帖
11		11 ヴェロニカ・ペルシカ	38 手帖
12		12 まがきのほitori	38 手帖
13		13 王朝風な時間	38 手帖
14		14 別れの笛	38 手帖
15		15 山荘の森の灯	38 手帖
16		16 美の哀愁	38 手帖
17		17 世代の移り	38 手帖
18		18 初夏を彩る	38 手帖
19		19 初夏の歌	38 手帖
20		20 或るメーデー歌	38 手帖
21		21 警告	38 手帖
22		22 自然詩人の花	38 手帖
23		23 セレナード	38 手帖
24		24 高原の炎	38 手帖
25		25 庭の裁断師	38 手帖
26		26 水上の夏の歌	38 手帖
27		27 まろく、重たく	38 手帖
28		28 溪流の美魚	38 手帖
29		29 シャロンの野花	38 手帖
30		30 霧のコルリ	38 手帖
31		31 夏の焦燥	38 手帖
32		32 路傍のムクゲ	38 手帖
33		33 空の黒片	38 手帖
34		34 水を運ぶ母	38 手帖
35		35 晩夏の詩の花	38 手帖
36		36 初秋の輪唱	38 手帖
37		37 たそがれの夢の花	38 手帖
38		38 貝しらべ	38 手帖
39		39 誠実な訪問者	38 手帖
40		40 秋光燦々	38 手帖
41		41 寒気に追われて	38 手帖
42		42 充実と落下	38 手帖
43		43 合戦尾根にて	38 手帖
44		44 信濃路の秋	38 手帖
45		45 百合の木の歌	38 手帖
46		46 美しい吸血鬼	38 手帖
47		47 カラマツ荘厳	38 手帖
48		48 賢者の石	38 手帖
49		49 野性を恋う	38 手帖
50		50 微生物に思う	38 手帖
51		51 冬にも緑	38 手帖
52		52 年輪の含蓄	38 手帖

No.	詩	書名・題名	初出書
		《生活の中の音楽》	
53		バッハへの思い	39 泉
54		ベートーヴェンと自然	39 泉
55		冬の日記から	39 泉
56		私と笛	39 泉
57		ドビュッシーのバガテル	39 泉
		《書窓雑録》	
58		カロッサへの感謝	39 泉
59		詩と言葉	39 泉
60		蔵書と読書	39 泉
61		秋の日記から	39 泉
62		野外手帖から	39 泉
63		デュアメルのかたみ	41 衆讃歌
64		デュアメルの追悼	41 衆讃歌
65		カロッサの教訓	41 衆讃歌
66		若き日の友の姿	41 衆讃歌
67		交友抄	41 衆讃歌
		《自然と共に》	
		自然と共に	
68		1 五月の峠	39 泉
69		2 富士見紀行	39 泉
70		3 奥日光の一日	39 泉
71		4 西伊豆の海と丘	39 泉
72		5 武蔵野の早春賦	39 泉
73		6 那須高原と久慈溪谷	39 泉
74		7 春を待つ山	39 泉
75		甲斐路の春	41 衆讃歌
76		浅間山麓の一日	41 衆讃歌
77		美ヶ原の秋	41 衆讃歌
78		武蔵野の鳥	41 衆讃歌
79		知多半島の一角	41 衆讃歌
		《高村光太郎》	
80		大いなる損失	41 衆讃歌
81		あの手イメージ	41 衆讃歌
82		ふたたびの春	41 衆讃歌
83		高村さんとの旅	41 衆讃歌
84		初めて見たアトリエ	41 衆讃歌
85		晩秋の午後の夢想	41 衆讃歌
86		片思いの頃	41 衆讃歌
87		智恵子さんの思い出 (一)	41 衆讃歌
88		智恵子さんの思い出 (二)	41 衆讃歌
		《鎌倉にて》	
89		その土地への愛の序曲	46 鎌倉

No.	詩	書名・題名	初出書
		<折り折りの記>	
90		初秋	46 鎌倉
91		友人	46 鎌倉
92		病院にて	46 鎌倉
93		心平さんの鎌倉来訪	46 鎌倉
94		海岸で	46 鎌倉
95		道	46 鎌倉
96		憩いの店	46 鎌倉

## 48 『音楽への愛と感謝』

73(S48).08 新潮社

		《Ⅰ 生い立ちと音楽》	
01		「詩と農夫」への願い	
02		私のタンドレス・プルミエール	
03		二つの星	
04		音楽に寄す	
05		「白樺」とバルリオーズ	
06		愛人の死	
07		高田博厚との出会い	
08		新しき土地にて	
09		大震災の中での和解	
10		畑中の小さい巣	
		《Ⅱ 魂の音楽 ―バッハ、シュッツのことなど―》	
11		小さな美しい集まり	
12		復活祭の日に	
13		二つの『マタイ受難曲』	
14		私の音楽と妻の音楽	
15		ヘンデルの『メサイヤ』	
16		人間の絆	
17		安らかなる眠りのために……	
18		トリオ・ソナタのタベ	
19		受難曲のタベ	
20		ヘルマン・ヘッセと共に……	
21		わが慰めの音楽	
22		フルニエの演奏	
		《Ⅲ 自然と音楽》	

No.	詩	書名・題名	初出書
23		富士見高原に想う……	
24		高原の子供の歌	
25		信濃の人たちと共に	
26		神々しい楽園の歌	
27		雲とともによみがえるもの……	
28		わが『イタリアのハロルド』	
29		山岳的シューベルト	
30		シベリウス『交響曲第六番・七番』	
31		同族の魂	
32		聖母マリアの歎きの歌	
33		妻に……	
		《IV 精神の音楽 ーモーツァルト、ベートーベンのことなどー》	
34		一日の果ての宵の明星	
35		一月の三つの誕生日	
36		善き音ずれ	
37		高き潮のごとく	
38		二人の女友達とモーツァルト	
39		ヴィルドラックの死	
40		ついに聴いたフィガロ	
41		古沢淑子さんのスタディオで	
42		晩年のベルリオーズ	
43		フーゴー・ヴォルフの歌	
44		歌による心の旅路	
45		クルプとゲルハルト	
46		ベートーベンを歌う	
47		『莊嚴ミサ』をさく	
48		ベートーヴェンの誕生日に	
49		善に通ずる美	
50		ベートーヴェンの小さい花園	
51		対照的な二つの生命！	
52		愛のない情事	
53		おんみ優しき芸術よ	
54		あとがき	

No.	詩	書名・題名	初出書
<b>49 『尾崎喜八詩文集 10 冬の雅歌』</b>			
75(S50).03 創文社 串田孫一・伊藤海彦編			
		《田舎のモーツァルト》	
01	詩	冬の雅歌	40 田舎
02	詩	不在	40 田舎
03	詩	妻に	40 田舎
04	詩	ハインリッヒ・シュッツ	40 田舎
05	詩	秋	40 田舎
06	詩	霧と風の高原で	40 田舎
07	詩	岩を研ぐ	40 田舎
08	詩	春の葡萄山	40 田舎
09	詩	モーツァルトの午後	40 田舎
10	詩	出合い	40 田舎
11	詩	歳月	40 田舎
12	詩	田舎のモーツァルト	40 田舎
13	詩	ひとりの山	40 田舎
14	詩	七月の地誌	40 田舎
15	詩	回顧	40 田舎
16	詩	車窓のフーガ	40 田舎
17	詩	高処の春	40 田舎
18	詩	あかがり	40 田舎
19	詩	復活祭の高原	40 田舎
20	詩	山中取材	40 田舎
21	詩	野の仏	40 田舎
22	詩	蟬	40 田舎
23	詩	或る石に刻むとて	40 田舎
24	詩	湖畔の朝	40 田舎
25	詩	鴨	40 田舎
26	詩	和田峠	40 田舎
27	詩	馬籠峠	40 田舎
28	詩	上越線にて	40 田舎
29	詩	受胎告知	40 田舎
30	詩	春興	40 田舎
31	詩	桃咲く春	40 田舎
32	詩	高地牧場	40 田舎
33	詩	故園の歌	40 田舎
34	詩	十年後	40 田舎
35	詩	朝の門前で	40 田舎
36	詩	草津白根	40 田舎
37	詩	予感	40 田舎
38	詩	飼育場風景	40 田舎
39	詩	後記	40 田舎

No.	詩	書名・題名	初出書
		《その空の下で》	
40	詩	されど同じ安息日の夕暮れに	44 空の下
41	詩	音楽会で	44 空の下
42	詩	シューマンと草取り	44 空の下
43	詩	一つのイメージ	44 空の下
44	詩	ほほえましいたより	44 空の下
45	詩	復活祭	44 空の下
46	詩	晩年のベルリオーズ	44 空の下
47	詩	森林限界	44 空の下
48	詩	詩人と笛	44 空の下
49	詩	夏行	44 空の下
50	詩	鎌倉初秋	44 空の下
51	詩	古い山の地図を前にして	44 空の下
52	詩	続けかしの歌	44 空の下
53	詩	二つの現実	44 空の下
54	詩	エリュアール	44 空の下
55	詩	その空の下で	44 空の下
56	詩	黄道光	44 空の下
57	詩	沈みゆく星に寄せて	44 空の下
		《山は離れど》	
58		山は離れど	
59		おおるり・こるり	
60		小梨の花咲く上高地	
61		秋の山にて	
62		憧れのオーヴェルニュ	
63		ヤドカリ	
64		昔の仲間	
65		夏の花	
66		『緑の斜面』に寄せて	
67		きれぎれの思い出	
68		写真機と奥武蔵	
69		三ツ葉ツツジ	
70		自然・音楽・祈り	
71		中世の秋とルネサンスの春	
72		わが生の伴侶一歌	
73		その時々のパッサ	
74		パッサのオルガン音楽	
75		パッサ音楽への感謝	

No.	詩	書名・題名	初出書
76		私とベートーヴェン	
77		クーブランとラモー	
78		私のベルリオーズ	
79		カロッサ	
80		ヘッセ	
81		ジャム	
82		思い出	
83		私の語学独学自習	
84		野のキリスト者	
85		朝の山と夕べの渚	
		《拾遺詩篇》	
86	詩	寒夜に思う	
87	詩	番所の原	
88	詩	山の湖	
89	詩	雉	
90	詩	秋（きのこ採りの～）	
91	詩	無名の冬	
92	詩	ひそかな春	
93	詩	大日小屋（金峰山）	
94	詩	行者小屋（八ガ岳）	
95	詩	七丈ノ小屋（東駒ガ岳）	
96	詩	将棋頭ノ小屋（木曾駒ガ岳）	
97	詩	今日	
98	詩	紐	
99	詩	演奏会から帰って	
100	詩	音楽に寄せて	
101	詩	詩を書く	
102	詩	オルガンのしらべ	
103	詩	浜辺	
104	詩	朝のコーヒーを前に	

### 50 『わが庭の寓話』

76(S51).08 四季書館

尾崎が訳したデュアメルの手紙に、随想を付したもの。

No.	詩	書名・題名	初出書
		翻訳書については「(附)翻訳書」を参照。	
01		この仕事について	
02		無心の庭	
03		ポアズの見ざめ	
04		放棄された蟻塚	
05		腹黒	
06		ジャム	
07		墓所の選定	
08		旅行の必要	
09		性格の強さ	
10		完全のための弁護	
11		私は見た,彼ら二本の実桜が	
12		二ニューヨークの群衆	
13		古い木の柱の歎き	
14		港での難破	
15		霞む眼をした馬	
16		節制の法則	
17		果実の神	
18		砂糖大根の反逆	
19		英国式教育の危険	
20		ひるがお(一名昼間の麗人)	
21		うぬぼれた植樹者	
22		償いがたい損失	
23		殺す	
24		矯正し得ぬことども	
25		ディック,或いは義務の観念	
26		憂唇な仕事	
27		鼠狩	
28		更に大いなる力の場合	
29		哲学者の夢	
30		実例の力	
31		主人の耳	
32		蜜蜂と蜘蛛	
33		群衆中の苦惱	

No.	詩	書名・題名	初出書
34		一匹の猫からの教訓	
35		若い病人	
36		郷愁の書取り	
37		我ら,別の文明が	
38		季節	
39		招待状	
40		エレオノール,又は誠実な魂	
41		均衡の法則	
42		怠け者の生徒のための口頭弁論	
43		愛の眼	
44		逆境の利益	
45		感傷的な散歩,又は緑の贈り物	
46		節操なき者	
47		能力についての短い問答	
48		流寓の苦しみ	
49		使者	
50		しあわせな道路	
51		路上の話題	
52		徳の曲折	
53		繁栄の法則	
54		天使の喇叭	
55		八月四日の夜	
56		成功の苦味	
57		祈っている牝山羊	
58		現世的な富の軽蔑	
59		三つの格言	
60		世界の音楽	
61		打ち捨てられた墓	
62		丘と川	
63		無作法者	
64		詩人と獅子	
65		利口な花売り娘	
66		権力の哲学	
67		アリースと老人たち	

No.	詩	書名・題名	初出書
68		慎重な寄食者	
69		ささやかな報償	
70		寓話の愛好者	
71		庭の戒め	
72		又の世のための草案	
73		夕べの風のためのコンチェルト	

## 51 『名もなき季節 富士見からの手紙』

76(S51).12 創文社 伊藤海彦編による書簡集

01		伊藤海彦 宛(昭23.9.28)	
02		伊藤海彦 宛(昭23.10.21)	
03		伊藤海彦 宛(昭24.1.26)	
04		伊藤海彦 宛(昭24.1.31)	
05		伊藤海彦 宛(昭24.3.30)	
06		伊藤海彦 宛(昭24.4.8)	
07		石黒栄子 宛(昭24.4.17)	
08		串田孫一 宛(昭24.5.2)	
09		石黒光三・栄子 宛(昭24.10.31)	
10		串田孫一 宛(昭25.1.12)	
11		石黒光三・栄子 宛(昭25.7.7)	
12		串田孫一 宛(昭26.4.9)	
13		石黒栄子 宛(昭26.5.1)	
14		串田孫一 宛(昭26.5.17)	
15		串田孫一 宛(昭26.6.21)	
16		串田孫一 宛(昭26.6.30)	
17		石黒栄子 宛(昭26.7.7)	
18		串田孫一 宛(昭26.11.5)	
19		串田孫一 宛(昭26.12.6)	
20		串田孫一 宛(昭27.1.29)	
21		串田孫一 宛(昭27.10.3)	

## 52 『日光と枯草』

77(S52).10 スキージャーナル(自然と人間シリーズ12)

串田孫一編

No.	詩	書名・題名	初出書
		《日光と枯草》	
01		書棚の一角	
02		車窓からの眺め	
03		山すべて善し	
04		忘れじの富士見高原	
05		思慕の旅	
06		行く先々の富士の山	
07		私の心の山	
08		妙高山	
09		心打つひびき	
10		思い出の道	
11		里にたなびく煙	
12		写真に寄せて	
13		ウェストン祭と女子学生	
14		初夏の乗鞍岳	
15		過ぎし日の山の旅	
16		自然と旅	
17		自然と心	
18		第二の故郷	
19		妻への話	
20		鎌倉への愛と要望	
21		生への飾り	
22		その人の佛	
23		初冬の別れ	
24		ヘルマン・ヘッセと『ヴァンデルング』	
25		山の一つ一つに	
26		山と心	
27		空と樹木	
28		草花と静かな日々	
29		山と自然と子の心	
		《花崗岩の破片》	
30		途上のまなざし	39 泉
31		花崗岩の破片	39 泉
32		自然を愛するということ	39 泉
		《冬の或る日》	

No.	詩	書名・題名	初出書
33		冬の或る日	41 衆賛歌
34		森の歌	41 衆賛歌
35		思い出の山の花たち	41 衆賛歌
36		山にゆかりの先輩	41 衆賛歌
37		道二題	41 衆賛歌
38		祝詞に代えて	41 衆賛歌
39		一詩人の告白	41 衆賛歌
40		道にて	41 衆賛歌
41		詩人の朝	41 衆賛歌
42		たしなみの美	41 衆賛歌
43		わが愛誦の詩	41 衆賛歌
44		ふるさとの一角	41 衆賛歌
45		その頃の孫	41 衆賛歌
46		雑 草	41 衆賛歌
47		新しい印章	41 衆賛歌
48		たまたまの余暇	41 衆賛歌
49		私の一冊の本	41 衆賛歌
50		旅の宿	41 衆賛歌
		《再生の歌》	
51		春 信	42 旋律
52		再生の歌	42 旋律
53		内と外	42 旋律
54		秋	42 旋律
55		早 春	42 旋律
56		星座早見	42 旋律
57		上高地行	42 旋律
58		山と音楽	42 旋律
59		ひとりの山	42 旋律
60		信州の酒に寄せて	42 旋律
61		自然の音	42 旋律
62		デュアメルの訳書に添えて	42 旋律

### 53 「魂、そのめぐり会いの幸福」

79(S54).09 昭和出版

01	詩	朝のひかり	21 暦日
02		遙かな空の下から	
03		樹下の小屋にて	12 風土
04	詩	山頂	25 新潮詩集
05		たてしなの歌	07 絵本
06		御所平と信州峠	07 絵本
07		一日の王	07 絵本
08	詩	冬野	21 暦日
09		荒寥への思慕	12 風土

No.	詩	書名・題名	初出書
10		初心時代	09 草原
11		早春の雨の夜	12 風土
12		旅への祈り	12 風土
13		老の山歌	23 遠方
14	詩	春の牧場	24 創元詩集
15		ちいさい物	22 視野
16		ホオジロの歌	22 視野
17		高原初秋	22 視野
18		風の音	22 視野
19		豆島にて	23 遠方
20		秋の林にて	22 視野
21		二月の春	23 遠方
22		春はふたたび	22 視野
23		朴の杖	23 遠方
24		木苺の日	23 遠方
25	詩	雪の夕暮	25 新潮詩集
26		霧が峯紀行	30 詩文 07
27		高原の冬の思い出	30 詩文 07
28		山小屋への想い	37 詩文 08
29		鳥居峠	37 詩文 08
30		旅で知る妻	37 詩文 08
31	詩	噴水	20 残花
32		山と音楽	07 絵本
33		ペアルンの歌	22 視野
34		一日の終りに	23 遠方
35		詩と音楽	37 詩文 08
36		エステルとアンリエット	37 詩文 08
37		生きているレコード	37 詩文 08
38		冬の日記から	39 泉
39		私と笛	39 泉
40	詩	眠られぬ夜に	36 詩文集 03
41		ジャック・ティボーの『ヴァイオリンは語る』	
42		魂、そのめぐり会いの幸福	
43		バロック音楽と私	
44	詩	されど同じ安息日の夕暮れに	44 空の下
45		モーツァルト	42 旋律
46		「ヨハネ受難曲」について	42 旋律
47		ブルーノ・ワルター	42 旋律
48		「目ざめよと呼ばわる声す」	42 旋律
49		野のキリスト者	
50		私のベルリオーズ	
01		ドビュッシーのバガテル	39 泉

No.	詩	書名・題名	初出書
02		ベートーヴェンと自然	39 泉
03		古楽礼讃	
04		バッハへの思い	39 泉

## 54 『わが音楽の風光』

81(S56).03 六興出版 伊藤海彦編

01		詩と音楽	37 詩文 08
02		山と音楽	07 絵本
03		古い手箱と『別れの曲』	42 旋律
04		オーヴェルニュの歌	42 旋律
05		今と昔	41 衆讃歌
06		ブクステフーデ	41 衆讃歌
07		スカルラッティ	42 旋律
08		森の歌	41 衆讃歌
09		合唱と私	41 衆讃歌
10		バイヤールの印象	42 旋律
11		バイヤールと今日	
12		笛	30 詩文 07
13		笛とレコード	42 旋律
14		一枚のレコード	42 旋律
15		ロマン・ロランの声	42 旋律
16		白山小桜の歌	42 旋律
17		冬の或る日	41 衆讃歌
18		『ベートーヴェンの生涯』	41 衆讃歌
19		エステルとアンリエット	37 詩文 08
20		生きているレコード	37 詩文 08
21		人間の情の映り ←人間の絆	48 音楽
22		ピアノ三重奏の夕べ	
23		シュッツに打ちこむ人たち	
		*	
		<詩 六篇>	
24	詩	冬の雅歌	40 田舎
25	詩	シューマンと草取り	44 空の下
26	詩	朝のひとつとき	36 詩文集 03
27	詩	田舎のモーツアルト	40 田舎
28	詩	ハインリッヒ・シュッツ	40 田舎
29	詩	朝の門前で	40 田舎
		<「一年の輝き」より一五篇>	
30		芝生の中の宝石	38 手帖
31		イソギクの小曲	38 手帖
32		波のように	38 手帖

No.	詩	書名・題名	初出書
33		皿の上の早春	38 手帖
34		王朝風な時間	38 手帖
35		別れの笛	38 手帖
36		美の哀愁	38 手帖
37		初夏の歌	38 手帖
38		自然詩人の花	38 手帖
39		セレナード	38 手帖
40		高原の炎	38 手帖
41		シャロンの野花	38 手帖
42		誠実な訪問者	38 手帖
43		美しい吸血鬼	38 手帖
44		冬にも緑	38 手帖
		*	
45		バッハをめぐって(一)	41 衆讃歌
46		バッハをめぐって(二)	41 衆讃歌
47		バッハへ傾く心	42 旋律
48		バッハへの思い	39 泉

### 3 作品名一覧

#### ○初出作品の一覧

- ・「1 著作一覧」に収録された作品名を突合せ、単行本・紙誌等の初出関係を一覧にした（A52を除く）。今のところ、文献上で確認できる尾崎喜八の全作品と考えられる。
- ・単行本・紙誌とも初出のみを掲げる。ただし、初出かどうかをすべて確認しているものではないので‘最初に見られた資料’という程度に解されたい。
- ・再録は、原則として省いた。
- ・翻訳関係は掲載していない。

#### ○分類

- ・詩作品とそれ以外に分け、詩作品には冒頭に‘詩’と記した。

#### ○50音

- ・作品名の冒頭二音で整理し、一覧にした。
- ・ヴィは‘うい’、ウェ・ヰル・エ・ヴェは‘うえ’と表記した。

#### ○題名

- ・同題の場合は、冒頭の語句を（ ）書きで示した。
- ・改題されているものは ← で元題を示し、元題には → で改題先を示した。単なる表記の違いなど、判然としているものは一方のみを記した。
- ・突合により、同じ作品と思われるものもあるが、未確認のものはそのまま併記した。場合により →？ 等を表示した。
- ・初出の際、数篇がまとめられて編名があるものは < > で記し、原則として題名の後に記載した。また、編名も < > 書きの一項目とした。
- ・数年にわたる連載は、一年ごとに表記した。
- ・小説、戯曲など特徴のあるものは、題名の次に（ ）で表記した。

#### ○‘初出書、等’‘集’

- ・「A 主要著作」の初出状況で、略称を記した。
- ・「尾崎喜八資料」に収録されているものは、この欄に○数字で収録号数を示した。
- ・‘集’は、その作品が収録されている詩文集の巻数である。

#### ○‘初出’‘初出誌・紙、刊本、月日、等’

- ・‘初出’は、次項目の初出年の西暦（和暦）を記した。\* の表示があるものは、作品の末尾に年月日の記載があるような場合等の表記である。
- ・‘初出誌・紙、刊本、月日、等’は、初出の「C 定期刊行物」の雑誌・新聞・定期刊行物、「B 共著その他」の名称を記した。
- ・初出誌・紙について、複数表記のものがある。「目録」のデータに複数表記があるもの、国会図書館等の異なるデータによるものだが、そのまま併記した。
- ・嘉納氏の「目録」では、時事通信社や共同通信社の原稿も記録されているが‘地方新聞社へ配信されるため、収録紙はつかみがたい’とされる。

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	あい	アイヘンドルフ再読<春の詩篇①> →アイヒェンドルフ再読	44 空の下		66(S41)	「山と溪谷」S41/05、 「歷程」S43/04<尾崎喜八小詩集②>
詩	あい	哀歌			37(S12)	「都新聞」S12/10/24
	あい	愛と創作	⑩		16(T05)	「エゴ」T05/01
	あい	愛のない情事	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」S47/06[音楽と求道 54]
	あお	「青猫」の批評的研究			23(T12)	「日本詩人」T12/03
	あお	<碧い遠方から>二月の春・寂しさと桜草と・木いちごの時			51(S26)	「かびれ」S26/01
詩	あお	青い鳥	04 曠野	01		
	あお	青木湖畔<写真に寄せて>	52 日光		70(S45)	「小原流挿花」S45/12[表紙によせて]
詩	あか	あかがり	40 田舎	10	59(S34)	「アルプ」S34/03
詩	あか	暁を呼ぶ聲	01 樹木	01		
詩	あか	赤城展望<旅二篇編>			29(S04)	「詩集」S04/07
	あか	赤啄木鳥の紐			36(S11)	「帝国大学新聞」S11/01/05
詩	あか	明るい窓<悦びの時編>	02 高層雲	01	23(T12)	「詩聖」T12/06
	あか	鞞(あかがり)踏むな			31(S06)	「キング」S06/03
詩	あき	<秋野歌二篇>国土、秋の日	21 暦日		47(S22)	「蠟人形」S22/01
	あき	秋	42 旋律			
詩	あき	秋(きのご採りの～)	49 詩文集 10	10	59(S34)	「同時代」S34/12
詩	あき	秋(ふたたび秋が～)	10 行人	02	28(S03)	「詩集」S03/12
詩	あき	秋(父よ～)	08 滞在	02		
詩	あき	秋(風が一日じゅう～)	40 田舎	10		
詩	あき	秋<詩二題①>			65(S40)	「アルプ」S40/01
	あき	秋とルオー	30 詩文集 07	07		
詩	あき	秋の遠足			42(S17)	「文芸春秋」S17/11
	あき	秋の歌			63(S38)	「朝日新聞」S38/10/02 夕
	あき	秋の歌(いつか私のうしろに～)[22 視野で<二つの歌>] ←歌	22 視野	05		
詩	あき	秋の歌(九月、～)	04 曠野	01		
	あき	秋の丘で	23 遠方	06	50*	
詩	あき	秋の漁歌	25 新潮詩集	03		
	あき	秋の湖(新島章男君に)			49(S24)	「山と高原」S24/10
	あき	秋の山にて	49 詩文集 10	10	69(S44)	「山と溪谷」S44/09
	あき	秋の山地と懐しい人々	②		34(S09)	「雄弁」S9/12
	あき	秋の詩趣	⑦		36(S11)	「アサヒカメラ」S11/09 臨時増刊
詩	あき	秋の狩猟			23(T12)	「詩聖」T12/09

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	あき	秋の招待			24(T13)	「東京朝日新聞」 T13/11/03
	あき	秋の大菩薩峠			30(S05)	「都新聞」 S05/09/19~21
詩	あき	秋の朝	02 高層雲	01	31(S06)	「愛誦」 S06/12
詩	あき	秋の日			60(S35)	「山と高原」 S35/09
詩	あき	秋の日<秋野歌二篇②> (そしてつひに~)	21 暦日		47(S22)	「蠟人形」 S22/01
	あき	秋の日記		07	48(S23)	「夕刊信州」 S23/10/13
	あき	秋の日記-9/9,9/10,9/19,9/22,9/23,11/5,11/6,11/8,11/13,11/15,	30 詩文集 07			
	あき	秋の日記から (1963年10月)	39 泉	09		
	あき	秋の日記から-9/9,9/10,9/19,9/22			56(S31)	「季節 詩の手帖」 S31/12
詩	あき	秋の流域	13 高原	02		
詩	あき	秋の林から<山荘詩篇②>	16 歳月の歌	03	57(S32)	「山と高原」 S32/11
	あき	秋の林にて	22 視野	06		
	あき	秋の隣人 ←秋深き	23 遠方	06	47(S22)	「旅」 S22/11
詩	あき	秋の蠅 ←冬の蠅				
	あき	秋を生きて	37 詩文集 08	08		
	あき	秋山川上流の冬の旅	09 草原	05		
	あき	秋山川上流への小さい旅				高橋・黒田・角田編『山岳講座 6』 (共立社)S11/04<さすらひと知見の旅>
	あき	秋深き →秋の隣人			47(S22)	「旅」 S22/11
詩	あき	秋風	02 高層雲	01	23(T12)	「東京日日新聞」 T12/08/15
詩	あく	明るる東亜			44(S19)	「写真週報」 S19/11/29
	あこ	憧れのオーヴェルニュ	49 詩文集 10	10		
	あさ	浅間山麓の一日	41 衆讃歌	09	66(S41)	「学燈」 S41/07
詩	あさ	朝	01 樹木		23(T12)	「高踏詩派」 T12/04、 「婦人之友」 T12/09<悦ばしき夏編①>
詩	あさ	朝のひかり	21 暦日	03	48(S23)	「つめくさ」 S23/03
詩	あさ	朝のひとつとき<六月の詩から②>	36 詩文集 03	03	59(S34)	「アルプ」 S34/08
詩	あさ	朝のコーヒーを前に<生活三態③>	49 詩文集 10	10	73(S48)	「歷程大冊」 S48/06
詩	あさ	朝の歌			43(S18)	「文芸」 S18/05
詩	あさ	朝の花屋			25(T14)	「詩と版画」 T14/09
詩	あさ	朝の我家<春の詩四つ編>			24(T13)	「婦人公論」 T13/05
詩	あさ	朝の街道 ←朝の甲州街道				
詩	あさ	朝の光			51(S26)	「歷程」 S26/01
詩	あさ	朝の甲州街道	04 曠野	01	25(T14)	「明星」 T14/02

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	あさ	朝の山（川北霞峰筆）			29(S04)	「富士」 S04/06
	あさ	朝の山と夕べの渚	49 詩文集 10	10		
詩	あさ	朝の散歩			22(T11)	「嵐」 T11/07
詩	あさ	朝の書齋へ	10 行人	02		
詩	あさ	朝の速記	08 滞在		28(S03)	「東方」 S03/09、「詩神」 S03/10<海で編>
詩	あさ	朝の半時間	04 曠野	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/10
詩	あさ	朝の門前で	40 田舎	10		
詩	あさ	朝寒	10 行人	02	24(T13)	「大街道」 T13/12
詩	あさ	朝狩にて	02 高層雲	01		
詩	あさ	朝涼の屋外常会	14 糧		42(S17)	「文芸春秋」 S17/08
詩	あさ	朝猟に			22(T11)	「日本詩人」 T11/09
詩	あし	足あと	26 孤独	03	51(S26)	「つめくさ」 S26/04
	あし	蘆川の谷	07 絵本	04	33*	
	あす	安曇野—松本で・山葵田・上高地の谷で・美が原			68(S43)	『カラー旅5・信州と飛騨』（主婦と生活社）S43/03
	あず	「梓山紀行」から			62(S37)	「アルプ」 S37/01
	あず	梓山のイワタケ			61(S36)	「読売新聞」 S36/11/24 夕
	あず	梓山紀行	37 詩文集 08	08		
詩	あず	梓川の歌（遺稿）—鵬雲崎・飯盒飯			74(S49)	「北の話」 S49/04
詩	あず	安曇橋（原稿ファクシミリ）				高橋達郎編『高原のエッセイ』（ヒュッテ・ジャベル）H06/07
詩	あず	安曇野	26 孤独	03		
詩	あた	安達太良山の空の下で一妻に代りて			69(S44)	「いづみ」 S44/09
	あた	新しい印章<清閑記>	41 衆讃歌		66(S41)	「アルプ」 S41/08
詩	あた	新しい季節	01 樹木	01		
詩	あた	新しい絃	21 暦日	03	47(S22)	「歷程」 S22/07[復刊第一号]
	あた	新しい詩集二つ			22(T11)	「日本詩人」 T11/08
詩	あた	新しい風	02 高層雲	01		
	あた	新しき土地にて	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」 S43/10[音楽と求道 10]
詩	あた	新らしき年に捧ぐ			62(S37)	「東京新聞」 S37/01/01
	あだ	足立源一郎「スケッチ帖・日本の山旅」（書評）			70(S45)	「週刊読書人」 S45/08/10
詩	あち	あちらのお友だち（附写真）			30(S05)	「富士」 S05/04
	あの	あの手のイメージ	41 衆讃歌	09	57/03*	
詩	あの	あの日 →あの日をおもふ？			42(S17)	「文芸春秋」 S17/12
詩	あの	あの日をおもふ ←あの日？	17 同胞			

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	あ	あのみしき若き心に			59(S34)	「地上」S34/12
詩	あめ	雨	01 樹木	01		
	あ	荒川岳と雷鳥<写真に寄せて>	52 日光		71(S46)	「小原流挿花」S46/04[表紙によせて03]
詩	あ	荒鷺の母			43(S18)	「週刊毎日」S18/09/19
詩	あ	新たなる暦(決戦詞華集)	14 糧		42(S17)	「サンデー毎日」S17/01/04,11 合
詩	あ	新たな春に			72(S47)	「アルプ」S47/04
	あ	新たに選者として			31(S06)	「若草」S06/01
	あ	嵐の後の牧人の歌 →大震災の中での和解?	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」S43/11[音楽と求道11]
詩	あ	嵐の翌朝	01 樹木	01		
	あ	「アリアドネの糸」一片山敏彦の日記(書評)			63(S38)	「読売新聞」S38/11/14 夕
詩	あ	アリュージョン	17 同胞	02	42(S17)	「文学界」S17/12
詩	あ	<或る朝のおもひ編>シャルル・ヴィルドラックに、東京の秋			27(S02)	「抒情詩」S02/06
	あ	あるメーデー歌	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」S37/05/17 夕[自然手帖20]
詩	あ	ある音楽会で →音楽会で	44 空の下		66(S41)	「アルプ」S41/06、 「歷程」S43/04<尾崎喜八小詩集④>
	あ	ある思ひ出			26(T15)	「少年倶楽部」T15/06
	あ	ある詩人の死—初冬の日記から			62(S37)	「産経新聞」S37/12/07 夕
	あ	ある女の死(一幕) (戯曲)			19(T08)	「白樺」T08/04
	あ	ある単独登山者の告白	34 詩文集 04	04	36/03*	
	あ	ある夜(小説)	⑩		19(T08)	「我等」T08/04
	あ	アルバムのおもひ			59(S34)	「カトリア」S34/07(コーセー化粧品)№11
	あ	アルプ・牧場・うつくしがはら			59(S34)	串田孫一編集代表『山のABC』(創文社)S34・12
詩	あ	アルペンフロラ	08 滞在	02		
詩	あ	或るたよりから →ほほえましいたより	44 空の下	10	68(S43)	「歷程」S43/04<尾崎喜八小詩集⑤>
詩	あ	或るイメージ			66(S41)	「アルプ」S41/07
	あ	或る会合	③		26(T15)	「都新聞」T15/10/26・27
	あ	或る回想	30 詩文集 07	07		
詩	あ	或る山頂にて			63(S38)	「山と高原」S38/01
詩	あ	或る死んだ仏蘭西の画家に			26(T15)	「森林」T15/10
詩	あ	或る銃猟家の獲物を見て			27(S02)	「太平洋詩人」S02/02
詩	あ	或る春の日に			63(S38)	「山と高原」S38/04
詩	あ	或る宵	01 樹木	01	22(T11)	「詩聖」T11/02
	あ	或る小さい体験	37 詩文集 08	08	62(S37)	「アルプ」S37/07
詩	あ	或る新しいレコードに寄せて			69(S44)	「歷程」S44/03

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	ある	或る晴れた秋の朝の歌	25 新潮詩集	03	51(S26)	「歷程」 S26/03
詩	ある	或る石に刻むとて	40 田舎	10		
	ある	或る遭遇	23 遠方	06	50*	
	ある	或る単独登山者の告白			36(S11)	「山」 S11/03
	ある	或る朝のおもい	09 草原	05		
	ある	或る仏蘭西の詩人等 (世界詩壇の現状)			28(S03)	「詩神」 S03/03
詩	ある	或る譯業を終へて	26 孤独	03		
詩	ある	或詩人が云った			23(T12)	「日本勸業銀行月報」 T12/04
詩	ある	或朝のおもひく友情の詩二篇編>	10 行人	02	26(T15)	「生命」 T15/07
	ある	或朝の雲<雲二題>	22 視野	06		
詩	ある	或日の話			48(S23)	「新詩人」(戦後)S23/09
詩	ある	或友に ←武州烏山 (散文詩)	12 風土		27(S02)	「待望」 S02/01
	ある	或夕の雲<雲二題>	22 視野	06		
詩	ある	歩く者の歌			30(S05)	「現代」 S05/06
詩	いえ	家	14 糧		42(S17)	「三田新聞」 S17/08/19
	いえ	家と環境・晩春の或る午後	37 詩文集 08	08	60(S35)	「小原流挿花」 S35/06[野外と屋内 01]
詩	いえ	家の晝			48(S23)	村田治郎編『世界の家・日本の家』(毎日新聞社)S23/12
	いお	「井荻日記」について	42 旋律			
	いお	井荻日記	22 視野	05		
	いき	生きているレコード	37 詩文集 08	08		
詩	いぎ	威儀の正月	17 同胞			
	いく	生田春月			30(S05)	「詩文学」 S05/03
詩	いけ	生けるがごとき君への歌	36 詩文集 03	03		
	いけ	生けるしるし			42(S17)	「読売報知新聞」 S17/11/18
詩	いけ	生ける君への四つの歌 (その I) -マルティネに			56(S31)	「季節 詩の手帖」 S31/10
	いけ	池ノ平雪溪・上高地シラカバ林・上高地			63(S38)	『図説日本文化地理大系 9・中部 I』(小学館)S38/02
	いこ	<折々の記>憩いの店	46 鎌倉	09		
詩	いさ	勇ましい小学校 (童話詩)			26(T15)	「幼年倶楽部」 T15/02
詩	いし	委嘱一武蔵野に与ふ一			28(S03)	「詩神」 S03/01 (現代日本詩人号)
詩	いし	慰藉<友情の詩二篇編>			26(T15)	「生命」 T15/07
	いし	石の花びら	23 遠方	06	73(S48)	「教育と社会」 S48/11
	いし	石川翠詩集	42 旋律			
	いず	泉 (ゆたかに涼しく～)	12 風土	05		
	いず	泉 (今朝まだ雪の～)	23 遠方	06	49(S24)	「塔」 S24/04

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	いそ	イソギクの小曲	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/01/11 夕[自然手帖 02]
詩	いた	いたるところに<「日々の歌」から③>			62(S37)	「アルプ」 S37/02
	いだ	偉大なる師への私の感謝	③		36(S11)	「音楽研究」 S11/10 (ロマン・ロラン記念号)
詩	いち	<一月編>落葉、風、眠られぬ夜のために、La nuit d'etoile			24(T13)	「日本詩人」 T13/02
	いち	一月の三つの誕生日	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/03[音楽と求道 39]
	いち	一詩人のプールデル見学	42 旋律			
	いち	一詩人の告白	41 衆讃歌		64/08*	
	いち	一日	09 草原	05		
	いち	一日の王 ←一日の王組曲	07 絵本	04	34(S09)	「帝国大学新聞」 S09/05/14
	いち	一日の王組曲 →一日の王			34(S09)	「帝国大学新聞」 S09/05/14
	いち	一日の果ての宵の明星	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/07[音楽と求道 31]
	いち	一日の終りに	23 遠方	06	48*	
	いち	一日の春	22 視野	05		
	いち	一日秋川にてわが見たるもの	07 絵本	04	33(S08)	「霧の旅」 S08/05
詩	いち	一年後<詩三篇編>	08 滞在	02	31(S06)	「霧の旅」 S06/09(№37)
	いち	一枚のレコード	42 旋律			
詩	いつ	一周年所懐			42(S17)	「俳句研究」 S17/12
詩	いつ	一本の針 (童話詩)			30(S05)	「幼年倶楽部」 S05/05
詩	いづ	五浦にて	17 同胞	02		
詩	いづ	飯綱の春 →飯綱高原	08 滞在	02	37(S12)	「帝国大学新聞」 S12/03/20
詩	いづ	飯綱高原 ←飯綱の春	13 高原			
詩	いと	伊藤海彦君に<立春>	36 詩文集 03	03	55(S30)	「アルビレオ」 S30/07
詩	いど	井戸端	01 樹木		22(T11)	「詩聖」 T11/02
詩	いな	伊那小屋の朝 ←山小屋の朝	15 二十年			
詩	いな	伊那谷の春			50(S25)	「旅」 S25/04
詩	いな	田舎のモーツァルト	40 田舎	10	63(S38)	「文芸春秋」 S38/10
詩	いな	田舎の夕暮<カテゴリー メイド編>	01 樹木	01	21(T10)	「新詩人」 T10/08
詩	いな	田舎娘	01 樹木	01	22(T11)	「生長する星の群」 T11/03
詩	いぬ	いぬのふぐり<春の試みから編>			29(S04)	「詩集」 S04/05
詩	いの	命あって ←山が待っている	44 空の下			
詩	いの	命を捨てて			44(S19)	「文芸春秋」 S19/06
	いま	今と昔	41 衆讃歌		64(S39)	「フィルハーモニー」 S39/03
詩	いめ	イメージ	⑥		58(S33)	「文芸春秋」 S33/09
詩	いも	慰問晝	15 二十年		40(S15)	「キング」 S15/11

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	いわ	岩を研ぐ	40 田舎	10	63(S38)	「山と高原」 S38/03、「歷程」 S40/06<春二篇①>
	いわ	岩雲雀	12 風土		39(S14)	「銀鐘」 S14/08
詩	いわ	岩雲雀			58(S33)	「アルプ」 S33/05
詩	いわ	岩雲雀 (今日のながい〜)	16 歳月の歌		55(S30)	「いづみ」 S30/07
詩	いわ	岩雲雀の歌	44 空の下		68(S43)	「アルプ」 S43/08
詩	いわ	石見の國の日本の母	17 同胞	02		
	いん	印象			36(S11)	「野鳥」 S11/08
	いん	印象と雑記—「我等の詩」の矢島歆一氏			22(T11)	「日本詩人」 T11/11
	いん	印象と雑記—北原君への返事			22(T11)	「日本詩人」 T11/12
	うい	ヴィルドラックの死	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/10[音楽と求道 46]
詩	うい	ヴィヴァルディ讃 →ヴィヴァルディ	44 空の下		69(S44)	『四季』ファザーノ指揮 ローマ合奏団 (東芝 AA-8512 LP レコード)
	うえ	ゼルハアラン—高村光太郎君に此の小論文を捧げる			26(T15)	「明星」 T15/03
	うえ	ウェストン祭と女子学生	52 日光		71/02*	
	うえ	ウェストン祭と小鳥			65(S40)	「いづみ」 S40/07
	うえ	ウェストン祭の感激			63(S38)	「読売新聞」 S38/06/07 夕
詩	うえ	ウェストン師の百年祭に—1961・6・4 朝神河内にて作る			61(S36)	「日本山岳会・会報」 S36/06
詩	うえ	ウェストン祭 [ウェストン祭朗読詩 S45]			70(S45)	『ウェストン祭』(日本山岳会信濃支部)S59
詩	うえ	ウェストン祭に [ウェストン祭朗読詩 S39]			64(S39)	『ウェストン祭』(日本山岳会信濃支部)S59
詩	うえ	ウェストン師の百年祭に [ウェストン祭朗読詩 S36]			61(S36)	『ウェストン祭』(日本山岳会信濃支部)S59
詩	うえ	エルハアラン祭			22(T11)	「日本詩人」 T11/08
詩	うえ	エルハアラン読書<悦びの時編>			23(T12)	「詩聖」 T12/06
詩	うえ	ヴェルハーレンを憶ふ ←記念祭	15 二十年	01		
	うえ	ヴェルハアランの「田舎の対話」			24(T13)	「向日葵」 T13/07
	うえ	ヴェロニカ・ペルシカ	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/03/15 夕[自然手帖 11]
	うえ	上田哲農「日駱の山ひなたの山」(書評)			58(S33)	「週刊読書人」 S33/09/08
	うか	浮ぶおもかげ	12 風土		40/06*	
詩	うご	雨後の往来	01 樹木			
詩	うご	雨後の田園			22(T11)	「詩聖」 T11/03
詩	うす	薄雪の後	25 新潮詩集			
	うぞ	羽族の思い出	09 草原	05		
	うた	歌 →秋の歌 (いつか私のうしろに〜)	18 麦刈	06		
	うた	歌による心の旅路	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/03[音楽と求道 27]
詩	うた	歌はぬピッケル	14 糧	02	42(S17)	「日本学芸新聞」 S17/08/01

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	うち	内と外	42 旋律			
詩	うち	内原の朝	15 二十年		41(S16)	「村」 S16/05
詩	うつ	美しいこの世			28(S03)	「少女倶楽部」 S03/03
	うつ	美しい吸血鬼	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/11/15 夕[自然手帖 46]
	うつ	美しき五月の月に	07 絵本	04		
	うつ	美ガ原	09 草原	05		
	うつ	美ヶ原NHKテレビ塔			61(S36)	「NHK」 S36/01/
詩	うつ	美ヶ原熔岩台地	13 高原	02	34(S09)	「日本詩」 S09/10、「書窓」 S10/09 (自選詩歌筆蹟)
	うつ	美ヶ原の秋	41 衆讃歌	09	65/09*	
	うぬ	うぬぼれた植樹者・償いがたい損失・殺す	50 寓話		71(S46)	「ガーデンライフ」 S46/11<わが庭の寓話 07]
詩	うひ	雨氷の朝	24 創元詩集	03	51(S26)	「岳人」 S26/01
詩	うま	馬をおもふ			43(S18)	「週刊婦人朝日」 S18/04/07
詩	うみ	海	02 高層雲	01	22(T11)	「白樺」 T11/12
詩	うみ	海へ	01 樹木	01	22(T11)	「詩聖」 T11/04
詩	うみ	海国に生きる			42(S17)	「日本女性」 S17/08
	うめ	梅			39(S14)	「科学ペン」 S14/02
詩	うら	裏道<親密な詩四つ(現代詩壇鳥瞰)編>	02 高層雲	01	23(T12)	「改造」 T12/08
	うん	運命を決したもの	⑭		52(S27)	「東京新聞」 S27/11/04
詩	うん	雲表の十月	44 空の下		68(S43)	「旅」 S43/10
	うん	連命の人々(一幕) (戯曲)			15(T04)	「エゴ」 T04/10
	えい	「永訣の朝」	⑦		70(S45)	NHK 教育テレビ現代国語 S45/08/3 放送
詩	えい	英霊に祈る			43(S18)	「三田文学」 S18/10 (愛国詩特輯)
詩	えい	英霊を迎へまつる日に	17 同胞			
	えす	エステルとアンリエット	37 詩文集 08	08	60(S35)	『女性のための音楽教養講座 2』(音楽之友社)S35/10
	えな	柄長の一家			36(S11)	「野鳥」 S11/06
詩	えね	エネルギー	10 行人	02	26(T15)	「明星」 T15/05・06 合
詩	えり	エリュアール	44 空の下	10	69(S44)	「歷程」 S44/03
	えれ	エレオノール,又は誠実な魂・均衡の法則・怠け者の生徒のための口頭弁論・愛の眼	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/05<わが庭の寓話 13]
詩	えれ	エレオノーレ	10 行人	02		
詩	えれ	エレミヤの覚醒			47(S22)	「歷程」 S22/07[復刊第一号]
詩	えん	演奏会から帰って	49 詩文集 10	10		
詩	えん	炎天	26 孤独	03		
詩	えん	炎熱の野から			22(T11)	「白樺」 T11/07
詩	えん	遠足	16 組長			

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	おー	オーヴェルニュの歌	42 旋律			
詩	おい	おいもの日			30(S05)	「少年倶楽部」 S05/09
	おい	追分の草	07 絵本	04	33(S08)	「都新聞」 S08/08/27～29
詩	おい	追分哀歌	②		37(S14)	「四季」 S14/09
詩	おい	追分宿 →信州追分	08 滞在	02		
詩	おい	老いたる櫓	04 曠野	01		
	おい	老の山歌	23 遠方	06	49*	
詩	おい	老の山旅	⑤		56(S31)	「樹氷」 S31/03(帯広営林局報)
	おう	王朝風な時間	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/03/29 夕[自然手帖 13]
詩	おう	桜桃			26(T15)	「雄弁」 T15/05
	おう	扇山の春			36(S11)	「近代趣味」 S11/06
	おお	おおるり・こるり	49 詩文集 10	10	69(S44)	「旅」 S44/06
	おお	巨いなる者の手 (小説)			15(T04)	「エゴ」 T04/11
詩	おお	大いなる夏 ←高原			54(S29)	川崎隆章,近藤等 編『山岳講座 2』(白水社)S29/
	おお	大いなる損失 (高村光太郎氏をいたむ)	41 衆讃歌	09	56(S31)	「新聞月鑑」 S31/05
詩	おお	大空に雄飛す	17 同胞			
詩	おお	大阪	17 同胞	02		
	おお	大蔵高丸・大谷ガ丸	07 絵本	04	35(S10)	「山小屋」 S10/05
	おか	オカール「モーツァルト」・フーグ「ベートーヴェン」・マルセル「バッハ」(書評)			69(S44)	「週刊読書人」 S44/03/10
詩	おか	丘の家<悦ばしき夏編④>			23(T12)	「婦人之友」 T12/09
詩	おか	丘の上にて			23(T12)	「詩聖」 T12/03
詩	おが	小川の水浴			24(T13)	「向日葵」 T13/08
詩	おく	<奥上州詩抄編>旅の友、前橋市遠望			31(S06)	「霧の旅」 S06/05(№36)
	おく	奥上州の旅から			29(S04)	「都新聞」 S04/06/20～22
	おく	奥日光の一日	39 泉	09	62*	
	おく	遅れた春の日々から—3/12,13,15,17,20	⑤		39(S14)	「山小屋」 S14/05
	おご	おごそかな夜明けの山			69(S44)	『旅情 1 山』(主婦と生活社)S44/03
詩	おさ	幼い眼<早春の歌編>			28(S03)	「生活者」 S03/02
	おさ	幼きもの			27(S02)	「都新聞」 S02/05/01～05
	おざ	尾崎喜八に聞く 座談会・詩はどう作るか—串田孫一・藤島宇内・伊藤海彦			52(S27)	「新女苑」 S27/08
	おち	落ちたる蕾 (小説)			18(T07)	「白樺」 T07/09
詩	おち	落葉 (ひろびろと～)	21 暦日	03		
詩	おち	落葉<一月編> (くろぐろと田舎を～)	02 高層雲	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/02
	おち	落葉搔きの時	23 遠方	06	48*	

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	おち	落葉龍（句）			47(S22)	「かびれ」 S22/01
	おぢ	「をぢさんの詩」研究	⑩		44(S19)	「詩研究」 S19/09
詩	おっ	夫の歌へる			31(S06)	「キング」 S06/06
詩	おと	乙女等のつどひの歌	14 糧			
詩	おと	弟橘媛	20 殘花	02	43(S18)	「新女苑」 S18/06
詩	おは	お花島	13 高原	02		
	おも	思い出	49 詩文集 10	10	61(S36)	「本の手帖」 S36/10
	おも	思い出（その一）ラコッチイ・マアチ			57(S32)	『高村光太郎全集』月報 4(筑摩書房)S32/07
	おも	思い出（その二）上河内			57(S32)	『高村光太郎全集』月報 6(筑摩書房)S32/09
	おも	思い出から			60(S35)	「山と高原」 S35/09
詩	おも	思い出の歌	10 行人			
	おも	思い出の山と人	42 旋律			
	おも	思い出の山の花たち—セツブンソウ・イワウチワ・イワカガミ・ホテイラン	41 衆讃歌		65(S40)	「アルプ」 S40/03
	おも	思い出の人々			66(S41)	「アルプ」 S41/06
	おも	思い出の道	52 日光		70/10*	
	おも	思ひ出（大藤治郎の追憶）			27(S02)	「文芸公論」 S02/02
	おも	思ふこと			25(T14)	「抒情詩」 T14/05
詩	おも	思ふこと（敬虔と誇りととの～）	⑦		22(T11)	「帆船」 T11/07
詩	おも	想ふこと<生活二編②>			24(T13)	「日本詩人」 T13/03
	おや	親不知海			71(S46)	「小原流挿花」 S46/11[表紙によせて 10]
詩	おる	オルガンのしらべ<生活三態①>	49 詩文集 10	10	73(S48)	「歷程大冊」 S48/06
	おる	オルゴール	⑥		69(S44)	「現代の眼」 S44/09
	おる	オルゴールとジューズ	30 詩文集 07	07		
	おれ	折々の記 <憩いの店、ほか全 7 編>	46 鎌倉	09		
	おれ	折れた白樺	30 詩文集 07	07	58(S33)	「アルプ」 S33/09
詩	おわ	お別れの詩				「季刊詩誌ポエトピア」 2 輯 S28
	おん	おんみ優しき芸術よ	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」 S47/12[音楽と求道 60]
	おん	音楽（一）	⑥		62(S37)	「創文」 S37/12
詩	おん	音楽<人は生きる編>	02 高層雲	01	23(T12)	「日本詩人」 T12/11
	おん	音楽と文化			32(S07)	「セルバン」 S07/10
	おん	音楽に寄す	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」 S43/05[音楽と求道 05]
詩	おん	音楽に寄せて<詩二篇①>	49 詩文集 10	10	73(S48)	「アルプ」 S48/01
	おん	音楽の魅力を語る（鼎談—串田孫一・井上太郎）			72(S47)	「音楽現代」 S47/01
	おん	音楽を聴く詩人の断片	①		29(S04)	「フィルハーモニー」 S04/06

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	おん	音楽会	21 暦日	06		
詩	おん	音楽会で ←ある音楽会で				
	おん	音楽会の印象			48(S23)	「信陽新聞」 S23/05/17
	おん	音楽会への希望（‘時評’編）			28(S03)	「都新聞」 S03/09/16
詩	おん	音楽的な夜	26 孤独	03		
詩	おん	女と葡萄園<『西風の歌』から①>	16 歳月の歌	03	55(S30)	「詩学」 S30/11
詩	おん	女のトルソ	④		17(T06)	「生命の川」 T06/06
詩	おん	女の小夜楽	10 行人	02	34(S09)	「詩集」 S09/07
詩	おん	女等	02 高層雲	01		
詩	かい	『甲斐の歌』から			53(S28)	「山と溪谷」 S28/06
詩	かい	回顧 ←序詩	37 詩文集 08	10		
詩	かい	回復期			67(S42)	「小説新潮」 S42/10
	かい	回復期	21 暦日	06		
詩	かい	回復期の朝	44 空の下			
	かい	海岸で<折々の記>	46 鎌倉	09		
詩	かい	開墾地にて			28(S03)	「キング」 S03/07
	かい	貝しらべ	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/09/20 夕[自然手帖 38]
詩	かい	甲斐の秋の夜	08 滞在	02		
	かい	甲斐路の春	41 衆讃歌	09	65/04*	
詩	かい	続「木曾の歌」から 開田高原<木曾の歌③>	16 歳月の歌	03	58(S33)	「アルプ」 S33/08
詩	かえ	カエデの勉強	44 空の下			
詩	かえ	帰り道	01 樹木	01	22(T11)	「詩聖」 T11/02
詩	かえ	邂逅			23(T12)	「読売新聞」 T12/12/01
	かお	薫隊の心魂に学ぶ			44(S19)	「週刊毎日」 S19/12/17
詩	かか	烏瓜の花<悦ばしき夏編②>			23(T12)	「婦人之友」 T12/09
詩	かが	かがやく稲田	04 曠野	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/10
詩	かが	輝く時			22(T11)	「詩聖」 T11/09
詩	かが	輝やく昼過<生活のよろこび②>			24(T13)	「婦人之友」 T13/06
	かき	柿	23 遠方	06	49*	NHK 編『第二放送随筆』（日本出版共同） S28/11
詩	かく	斯くしてまた			69(S44)	「歷程」 S44/03
詩	かけ	かけす	26 孤独	03		
詩	かこ	河口の船着	02 高層雲	01	23(T12)	「白樺」 T12/04
詩	かこ	花崗岩	02 高層雲		22(T11)	「途上に現はれるもの」 T11/08
	かこ	花崗岩の国のイマージュ	07 絵本	04	34*	

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	かこ	花崗岩の破片	39 泉		62(S37)	「アルプ」 S37/08
詩	かこ	過去と現在			44 空の下	
詩	かし	樫の木			22(T11)	「白樺」 T11/10
詩	かす	粕谷の茶店			24(T13)	「向日葵」 T13/07
詩	かぜ	風<一月編>	01 樹木		24(T13)	「日本詩人」 T13/02
	かぜ	風の音	53 魂		46*	
詩	かぜ	風の日	14 糧		42(S17)	「国語文化」 S17/06
詩	かた	かたくりの花	13 高原	02		
	かた	片隅の武蔵野 ← (「狭山丘陵 (←武蔵野晩秋)」「国立自然教育園」)	30 詩文集 07	07	58(S33)	上林暁(編)『日本の風土記 武蔵野』宝文館
	かた	片思いの頃	41 衆讃歌	09	66/09*	
詩	かだ	花壇にて	36 詩文集 03	03	22(T11)	「嵐」 T11/06
詩	かち	家畜小屋の前で<暦日抄>			48(S23)	「至上律」 S23/08
	かつ	郭公	30 詩文集 07	07		
	かつ	合戦尾根にて	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/10/25 夕[自然手帖 43]
	かつ	活動写真に就て (アンケート)			23(T12)	「又新公論」 T12/05
詩	かて	カテゴリーメイド<カテゴリー メイド編>	01 樹木	01	21(T10)	「新詩人」 T10/08
詩	かば	権に寄す			22(T11)	「嵐」 T11/03
詩	かび	かびれ俳句			47(S22)	「かびれ」 S22/01、S22/04
詩	かぶ	ガブリエル・フォーレ			39(S14)	「四季」 S14/02 (春季号)
詩	かぶ	兜虫	04 曠野	01	24(T13)	「東京朝日新聞」 T13/09/05
詩	かま	カマラード	33 詩文集 02	02		
	かま	鎌倉への愛と要望	52 日光		70/10*	
	かま	鎌倉春信			67(S42)	(時事通信社) S42/03
詩	かま	鎌倉初秋	44 空の下			
	かま	鎌倉随想―北鎌倉あたり・谷戸への愛着・滑川で・寺と海と・小さな生命たち	42 旋律		68(S43)	『カラー旅4・鎌倉と東京周辺』(主婦と生活社)S43/11
	かみ	上高地	⑬		62(S37)	「旅」 S37/08
	かみ	上高地での体験―テレビ・ロケとウェストン祭			64(S39)	「朝日新聞」 S39/07/06
詩	かみ	上高地での朝の感慨 [ウェストン祭朗読詩 S38]			63(S38)	『ウェストン祭』(日本山岳会信濃支部)S59
詩	かみ	上高地にて			68(S43)	「文芸春秋」 S43/08
	かみ	上高地にて			71(S46)	「小原流挿花」 S46/07[表紙によせて 06]
詩	かみ	上高地にて (梓川の〜) [ウェストン祭朗読詩 S33]			58(S33)	「日本山岳会・会報」 S33/08 『ウェストン祭』(日本山岳会信濃支部)S59
詩	かみ	上高地にて (薄いエンゼル文庫〜)	44 空の下			
	かみ	上高地の歌			58(S33)	「東京新聞」 S33/06/22 夕

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	かみ	上高地紀行	30 詩文集 07	07		
	かみ	上高地行	42 旋律		58(S33)	「読売新聞」 S33/07/01 夕
詩	かみ	神々に誓ふ			44(S19)	「読売報知新聞」 S19/04/23
	かむ	冠着	23 遠方	06	49(S24)	「夕刊信州」 S24/09/11,12
詩	かも	鴨<詩二題②>	40 田舎	10	65(S40)	「アルプ」 S40/01
	から	カラマツ荘殿	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/11/22 夕[自然手帖 47]
	から	鴉とつばな	09 草原	05	37(S12)	「野鳥」 S12/04
詩	かる	カルナヴルロマン	01 樹木	01		
詩	かれ	華麗な片隅<六月の詩から①>			59(S34)	「アルプ」 S34/08
	かれ	枯れ葉の歌	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/01/25 夕[自然手帖 04]
	かる	カロッサ	49 詩文集 10	10		
	かる	カロッサ・ヘッセ・ジャム			71(S46)	小海永二編『世界の詩別巻』(弥生書房)S46/07
	かる	カロッサの教訓	41 衆讃歌	09	66(S41)	『ドイツの文学』月報 4(三修社)S41/02
	かる	カロッサの詩集			63(S38)	「週刊読書人」 S38/02/04
	かる	カロッサへの感謝	39 泉	09	63*	
	かる	カロッサ詩集に寄せて			42(S17)	「文庫」 S17/09
	かわ	ジョルジュ・ソニエ 河合亨・近藤等訳「光みなぎるところ」(書評)			59(S34)	「山と高原」 S34/08
詩	かわ	川狩			40(S15)	「小学(国民)五年生」 S15/06
	かわ	渝らぬ感謝	③		53(S28)	『現代世界文学全集』月報 6 S28/04 新潮社
	かん	「感じ」の表現者	⑭		23(T12)	「日本詩人」 T12/06
	かん	かんたん	12 風土	05	38(S13)	「工業大学蔵前新聞」 S13/08
	かん	寒気に追われ	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/10/11 夕[自然手帖 41]
詩	かん	寒夜に思う	49 詩文集 10	10		
詩	かん	感涙あるのみ	17 同胞			
詩	かん	敢闘			42(S17)	「優駿」 S17/05
詩	かん	敢闘に報いん	17 同胞		43(S18)	「読売報知新聞」 S18/11/19
	かん	環境論と履歴説(野外手帖から)	39 泉		63*	
詩	かん	関心	36 詩文集 03	03		
	かん	神流川紀行	09 草原	05		
	がか	画家ミレーの少年時代			24(T13)	「少年倶楽部」 T13/08
詩	がく	学徒出陣 →学徒出陣の日?	17 同胞	02		
詩	がく	学徒出陣の日 ←学徒出陣?			43(S18)	「週刊朝日」 S18/11/21
	がっ	合唱と私	41 衆讃歌		66/02*	
詩	がん	眼前の蜜蜂に<立春>	36 詩文集 03	03	55(S30)	「アルビレオ」 S30/07

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	がん	元旦に			60(S35)	「詩人連邦」 S35/02
詩	がん	元旦の散歩			67(S42)	「いづみ」 S42/01
詩	がん	元旦の笛	36 詩文集 03	03	59(S34)	「東京新聞」 S34/01/02 夕
詩	がん	元日の朝			68(S43)	「P・H・P」 S43/01
詩	きい	キースとポース (童話詩)			29(S04)	「幼年倶楽部」 S04/01
	きい	木いちごの時<碧い遠方から>			51(S26)	「かびれ」 S26/01
詩	きい	木苺の原	26 孤独	03	54(S29)	「文芸春秋」 S29/07 別冊
	きい	木苺の時 →木苺の日?			48(S23)	「蠟人形」 S23/10
	きい	木苺の日 ←木苺の時?	23 遠方	06	48*	
	きか	貴下の推奨する秋のハイキングコース (アンケート)			38(S13)	「アサヒカメラ」 S13/09
詩	きが	祈願			29(S04)	「令女界」 S04/03
詩	きが	亀鑑眼前にあり			44(S19)	「富士」 S19/02
	きき	帰京	30 詩文集 07	07		
詩	きじ	雉	49 詩文集 10	10		
	きせ	輝石	23 遠方	06	48*	
	きそ	木曾の旅から	30 詩文集 07	07		
	きそ	木曾の奥座敷			54(S29)	「旅」 S29/08
	きそ	木曾の旅	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」 S36/01[野外と屋内 08]
	きそ	木曾路<写真に寄せて>	52 日光		71(S46)	「小原流挿花」 S46/10[表紙によせて 09]
	きそ	木曾路を歩く			60(S35)	「東京新聞」 S35/12/02,03 夕
	きた	「北の鳥・南の鳥」 (下村兼史) を読んで			36(S11)	「野鳥」 S11/09
詩	きた	寄託	10 行人	02		
詩	きた	帰宅			23(T12)	「白樺」 T12/04
	きた	北鎌倉ノートーモーツァルト・音について			68(S43)	「アルプ」 S43/01
詩	きた	北門の春	17 同胞			
	きた	来るべき詩の為に			29(S04)	「都新聞」 S04/01/28~31
	きつ	狐			59(S34)	「アルプ」 S34/01、「民芸手帖№14」 S34/07
詩	きね	記念祭 →ヴェルハーレンを憶ふ	02 高層雲			
詩	きば	黄ばんだものが			51(S26)	「つめくさ」 S26/10
	きび	黄びたきの災難	23 遠方	06	48*	
詩	きぼ	希望	10 行人	02	26(T15)	「生命」 T15/05
詩	きぼ	希望は僕等の生命			29(S04)	「少年倶楽部」 S04/11
詩	きみ	君達に			42(S17)	「青少年之友
詩	きみ	君達は帰ってくるー猪狩夫妻に			31(S06)	「詩集」 S06/02

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	きゅ	久潤	04 曠野	01		
詩	きゅ	休息			22(T11)	「白樺」 T11/10
詩	きゅ	休息			24(T13)	「日本詩人」 T13/11
詩	きゅ	凶敵殲滅の歌			44(S19)	「読売報知新聞」 S19/10/16
詩	きよ	<去年の春に書いた詩二題>復活祭、晩年のベルリオーズ	44 空の下		67(S42)	「アルプ」 S42/04
	きよ	虚子俳句鑑賞	⑮		52(S27)	「俳句」 S27/07
	きよ	矯正し得ぬことども・ディック,或いは義務の観念・憂唇な仕事	50 寓話		71(S46)	「ガーデンライフ」 S46/12<わが庭の寓話 08]
詩	きよ	郷愁 (いつか秋めいて～)	26 孤独	03		
詩	きよ	郷愁 (子供が一筆に～)	10 行人	02		
	きよ	郷愁の書取り・我ら,別の文明が・季節・招待状	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/04<わが庭の寓話 12]
詩	きよ	兄弟			23(T12)	「太陽」 T12/08
	きよ	兄弟の愛			27(S02)	「少年倶楽部」 S02/06、 『少年倶楽部』 短篇選 H25 (講談社文芸文庫)
詩	きよ	今日	49 詩文集 10	10		
詩	きよ	今日という日は	10 行人	02		
	きよ	きよらかな比例	⑯		43(S18)	「知性」 S18/1
詩	きよ	聖らかな木立			21(T10)	「時事新報」 T10/12/24
詩	きら	きらびやかな老いの朝			68(S43)	「アルプ」 S43/02
詩	きら	帰来	13 高原	02		
詩	きり	霧が峯の春	44 空の下			
詩	きり	霧と風の高原で	40 田舎	10		
	きり	霧のコルリ	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/07/26 夕[自然手帖 30]
	きり	霧ガ峯紀行	30 詩文集 07	07	55(S30)	「岳人」 S30/11
	きれ	きれぎれの思い出 (河田楨追悼)	49 詩文集 10	10	71(S46)	「アルプ」 S46/12
詩	きろ	帰路<朝鮮詩三つ編>			20(T09)	「白樺」 T09/04
詩	きん	勤勞奉仕にて →勤勞作業にて?			43(S18)	「詩洋」 S18/11、「かびれ」 S19/03
詩	きん	勤勞作業にて ←勤勞奉仕にて?	17 同胞	02		
	きん	近況	41 衆讃歌		65/04*	
詩	きん	金の姫 (童話詩)			31(S06)	「幼年倶楽部」 S06/03
詩	きん	金峰山の思い出	08 滞在	02		
詩	ぎし	義妹に			28(S03)	「東方」 S03/05
	ぎゃ	逆境の利益・感傷的な散歩,又は緑の贈り物・節操なき者	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/06<わが庭の寓話 14]
詩	ぎよ	行者小屋(八が岳) <遠い日の山小屋②>	49 詩文集 10	10	71(S46)	「アルプ」 S46/11
	くー	クープランとラモー	49 詩文集 10	10	71(S46)	「音楽の窓」 S46/09

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	くあ	Quantum mutut ab illo!			29(S04)	「詩神」 S04/05
	くう	空想家 (小説)			18(T07)	「白樺」 T07/01
詩	くが	九月のクルミの木の下の			66(S41)	「アルプ」 S41/09
詩	くが	九月の檜	02 高層雲	01		
	くが	九月の断章	22 視野	06		
詩	くく	苦学の少年			27(S02)	「キング」 S02/07
詩	くさ	草に	10 行人	02	26(T15)	「日本詩人」 T15/10
	くさ	草に寝て	23 遠方	06	49(S24)	「山と高原」 S24/09
詩	くさ	草の上の歌			63(S38)	「山と高原」 S38/05
	くさ	草花との静かな日々	52 日光		72/03*	
	くさ	草山のはて	23 遠方	06	48*	
	くさ	草取りの植物学	12 風土		38(S13)	「野鳥」 S13/09
詩	くさ	草津白根	40 田舎	10		
	くし	くしだまごいち「ゆめのえほん」(書評)			67(S42)	「週刊読書人」 S42/01/30
	くし	句誌「白樺」の選及び講話	④		50(S25)	「白樺」 S25 頃?(富士見高療養所内句誌)
	くし	串田さんの山の文章	⑨		58(S33)	串田孫一『串田孫一随想集』月報 4S33/08 筑摩書房
	くし	串田孫一「幸福をめぐる断想」解説	⑨		54(S29)	串田孫一『幸福をめぐる断想』S29/10 三笠書房
	くし	串田孫一「思索する心」(書評)			66(S41)	「読売新聞」 S41/06/02 夕
	くし	串田孫一さんの「ゆめのえほん」	42 旋律			
詩	くだ	くだもの			23(T12)	「新詩潮」 T12/06
詩	くち	朽ちる我家	10 行人	02	28(S03)	「東方」 S03/07
詩	くに	国こぞる			44(S19)	「青年」 S19/01
詩	くに	国境にて<暦日抄>			48(S23)	「至上律」 S23/08
詩	くび	首[造型篇の一] <彫刻二題>	21 暦日	03	47(S22)	「青年演劇」 S22/12
詩	くも	Kumori= bi			22(T11)	「ローマ字」 T11/10
	くも	「雲に托するメッセージ」の断片			36(S11)	「多磨」 S11/05
	くも	『雲と草原』四版の序			43(S18)	『雲と草原』朋文堂四版 S18/07
	くも	『雲と草原』文庫版のためのあとがき			53(S28)	『雲と草原』角川書店(角川文庫)S28/12
	くも	雲	12 風土		41(S16)	「三田新聞」 S16/08/15
詩	くも	雲(雲がはるかに～)	08 滞在	02	34(S09)	「音楽評論」
詩	くも	雲(昭7/6/4)(詩二篇-武田久吉氏に)			33(S08)	「霧の旅」 S08/05[№41]
	くも	雲とともによみがえるもの	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/06[音楽と求道 18]
	くも	雲と草原が話しかける美ヶ原			66(S41)	「旅」 S41/09
詩	くも	雲と落日	01 樹木	01		

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	くも	雲と落葉	17 同胞			
	くも	雲に寄せることづて	22 視野	06		
詩	くも	雲の歌			42(S17)	「少国民の友」 S17/07
詩	くも	雲の走る夜	36 詩文集 03	03		
	くも	雲の中で刈った草	09 草原/⑦	05	34(S9)	草野心平編『宮沢賢治追悼』(次郎社)S09/01
	くも	雲を見る	09 草原	05		
詩	くも	曇り日の村	10 行人	02	59(S34)	「家の光」 S34/10
詩	くら	暗い源泉から生れて	10 行人	02		
詩	くり	クリスマス<よろこばしい冬編>	04 曠野	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/01
	くり	クリスマスへの道	30 詩文集 07	07		
	くる	クルプとゲルハルト	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/09[音楽と求道 45]
	くる	胡桃の木の下で	30 詩文集 07	07		
詩	くろ	黒つぐみ	26 孤独	03		
	くろ	黒田米子「山の明け暮れ」(書評)			41(S16)	「報知新聞」 S16/10/17
詩	くわ	桑摘む少女のワルツ			36(S11)	「キング」 S11/06
詩	くわ	鋏を持つ男			24(T13)	「少年倶楽部」 T13/10
	ぐう	「寓話」との語らいの末尾 →まえがき(単行本)	50 寓話		73(S48)	「ガーデンライフ」 S48/02<わが庭の寓話 22]
詩	ぐう	偶成			31(S06)	「都新聞」 S06/01/06
	ぐら	グラビアー高原の詩			65(S40)	「婦人之友」 S40/08
	ぐん	群衆中の苦悩・一匹の猫からの教訓・若い病人	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/03<わが庭の寓話 11]
詩	ぐん	軍艦那智	17 同胞	02	43(S18)	「日本読書新聞」 S18/05/22
詩	ぐん	軍国の元旦に			44(S19)	「日本少女」 S19/01
詩	ぐん	軍道	13 高原	02	38(S13)	「山小屋」 S13/05
詩	ぐん	軍神につづけ			43(S18)	『軍神につづけ』(大政翼賛会文化部)S18
詩	けー	K先生 →木暮先生			34(S09)	「山小屋」 S09/04
詩	けあ	毛編みのジャケット<人は生きる編>			23(T12)	「日本詩人」 T12/11
	けい	敬愛の言葉			28(S03)	「詩集」 S03/03(金子光晴特集)
	けい	敬愛の言葉			30(S05)	「南方詩人」 S05/01
詩	けい	溪谷			62(S37)	「いづみ」 S37/07
詩	けい	溪谷 I 暗い日、II 或る結婚、III 村にて	16 歳月の歌	03	58(S33)	「アルプ」 S33/06
	けい	溪流の美魚	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/07/12 夕[自然手帖 28]
	けい	警告	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/05/24 夕[自然手帖 21]
詩	けさ	今朝もまた	10 行人	02		
詩	けだ	けだかい犬			25(T14)	「少女倶楽部」 T14/03

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	けっ	決戦下の女性	17 同胞			
詩	けつ	決意はすでに堅い	14 糧			
詩	けな	けなげなりユセット (童話詩)			29(S04)	「幼年倶楽部」 S04/10
詩	けや	櫓に寄す	01 樹木	01		
詩	けん	巻積雲	26 孤独	03		
詩	けん	健康			21(T10)	「新詩人」 T10/11・12 合、「日本詩人」 T11/10
詩	けん	健康			29(S04)	「キング」 S04/07
詩	けん	健康 (健康は～)	14 糧			
詩	けん	健康 (大空は～)	02 高層雲	01		
詩	けん	健康の朝	01 樹木	01		
詩	けん	建設の歌	14 糧		42(S17)	「日本評論」 S17/04
	けん	権力の哲学・アリスと老人たち・慎重な寄食者	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/12<わが庭の寓話 20]
	けん	賢治を憶う	42 旋律/⑦		68(S43)	「小原流挿花」 S43/1
	けん	賢者の石	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/11/29 夕[自然手帖 48]
詩	げざ	下山	08 滞在	02		
詩	げし	夏至の午後			23(T12)	「詩聖」 T12/08
	げん	「現代ギター」(対談 富永恒雄)	⑥		71(S46)	「現代ギター」 S46/04
詩	げん	元帥追慕	17 同胞			
詩	げん	厳肅なる時局			44(S19)	「読売報知新聞」 S19/06/21
詩	げん	現実			23(T12)	「詩聖」 T12/07
	げん	現代の長詩鑑賞			34/10	山本三生編纂代表『日本文学講座 09』(改造社)S09/10
詩	げん	限界	10 行人	02	28(S03)	「東方」 S03/11
詩	こう	黄道光<詩二篇>	44 空の下	10	70(S45)	「アルプ」 S45/04
	こう	交声曲「英霊讃歌」を聴いて			43(S18)	「レコード文化」 S18/09
	こう	交友抄	41 衆讃歌	09	65/07*	
詩	こう	光明			22(T11)	「詩と版画」 T11/09
詩	こう	工場の山男	17 同胞			
詩	こう	工場の娘等	14 糧	02		
詩	こう	甲州街道の牛	04 曠野	01		
	こう	皇居に残る「江戸」	30 詩文集 07	07	56(S31)	「東京新聞」 S31/10/06
	こう	紅葉美の偲ばれる大屋根			36(S11)	「アサヒグラフ」 S11/09/30※
詩	こう	航海 ←星空の下を	15 二十年			
	こう	荒野に呼ぶ声(野外手帖から)	39 泉		63*	
	こう	荒涼への思慕ーYに	12 風土	05	38(S13)	「山小屋」 S13/11

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	こう	行人俳句・連句三巻・穂屋野歌仙	⑮			
詩	こう	高原			40(S15)	「小学(国民)六年生」S15/07
詩	こう	高原 →大いなる夏	08 滞在	02	41(S16)	「少女倶楽部」S16/08(現代詩人集)
詩	こう	高原 その一	13 高原	02		
詩	こう	高原 その二	13 高原	02		
詩	こう	高原 その三	13 高原	02		
詩	こう	高原 その四	13 高原	02		
詩	こう	高原 その五	13 高原	02		
詩	こう	高原で			71(S46)	「いづみ」S46/11
	こう	高原にて			34(S09)	「登山とスキー」S09/07
	こう	高原にて(私は、長野県諏訪郡～)	④		52(S27)	「新女苑」S27/07
	こう	高原の炎	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」S37/06/14 夕[自然手帖 24]
詩	こう	高原の五つの練習曲 ←高原 その一～五	15 二十年			
	こう	高原の子供の歌	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」S44/10[音楽と求道 22]
	こう	高原の秋の歌			63(S38)	「潮」S38/10
	こう	高原の春と娘たち			51(S26)	「泉」(興文館)S26/04
	こう	高原の朝	12 風土	05	39(S14)	「登山とスキー」S14/04
	こう	高原の冬の思い出	30 詩文集 07	07	58(S33)	「アルプ」S33/03 創刊号
詩	こう	高原の晩夏に寄せる歌	08 滞在	02	36(S11)	「山」S11/07
詩	こう	高原の練習曲 1・2・3			36(S11)	「登山とスキー」S11/08
	こう	高原をわたる笛の音			63(S38)	「日本経済新聞」S38/07/28
	こう	高原初秋	53 魂		46*	
詩	こう	高原浅春(句)			52(S27)	「俳句」S27/06
詩	こう	高原早春			65(S40)	「旅」S40/05
	こう	高山植物雑感	07 絵本	04	34(S09)	「エコー」S09/08
	こう	高山植物写真図聚—武田博士の仕事と人と	②		31(S06)	「霧の旅」S06/09(№37)
	こう	高山植物写真図聚—武田博士の著			31(S06)	「東京日日新聞」S06/06/22
詩	こう	高所の春	40 田舎	10		
詩	こう	高層雲の下	02 高層雲	01	24(T13)	「向日葵」T13/06
詩	こう	高地牧場	40 田舎	10		
	こう	神々しい楽園の歌	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」S45/05[音楽と求道 29]
詩	こう	神津牧場	08 滞在	02	33(S08)	「山小屋」S08/06
	こう	神津牧場の組曲	07 絵本	04	32*	
	こう	神津牧場の淡彩的ノート			31(S06)	「アルピニズム」

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	こう	寇月のなすところ			56(S31)	「詩人連邦」 S31/10
	こえ	故園の歌	37 詩文集 08	08	60(S35)	「小原流挿花」 S35/12[野外と屋内 07]
詩	こえ	故園の歌<早春二題>	40 田舎	10	62(S37)	「無限」 S37/08
	こお	氷の下の歌	30 詩文集 07	07	54(S29)	「山火」 S29/03
詩	こが	古賀提督	17 同胞		44(S19)	「主婦之友」 S19/01
	こが	古楽礼讃	53 魂		73*	
詩	こき	故郷			24(T13)	「新詩壇」 T13/08
詩	こき	故郷にて	04 曠野	01	25(T14)	「抒情詩」 T14/07
詩	こく	告白	21 暦日	03	47(S22)	「歷程」 S22/07[復刊第一号]
詩	こく	国土<秋野歌二篇①> →土地	21 暦日		47(S22)	「蠟人形」 S22/01、「日本山岳会信濃支部報」 S24/12
詩	こく	国土の人に			28(S03)	「東方」 S03/09
	こく	国立自然教育園	30 詩文集 07	07	55(S30)	「東京新聞」 S30/04/28
	こぐ	木暮さんという人			58(S33)	『現代紀行文学全集 6』 附録(修道社)S33/07
	こぐ	木暮先生 ←K 先生	07 絵本	04	34(S09)	「山小屋」 S09/04
	ここ	こころ	09 草原	05	26(T15)	「都新聞」 T15/06/05
	ここ	こころざし	⑤		41?	(原稿ファクシミリ)
詩	ここ	志を言ふ	17 同胞	02		
	ここ	心打つひびき	52 日光		70/09*	
	ここ	心底からの鼓舞を与える			60(S35)	「東京新聞」 S35/01/14 夕
詩	こさ	小作人の墓碑銘 ←小作人の墓銘	15 二十年			
詩	こさ	小作人の墓銘 →小作人の墓碑銘	04 曠野	01	25(T14)	「日本詩人」 T14/01
詩	こじ	こじかものがたり (童話詩)			57(S32)	「こどもクラブ」 S32/07
	こじ	個人雑誌野の花に就て			35(S10)	「日本詩」 S10/01
	こじ	個人誌について			23(T12)	「詩聖」 T12/04
	こじ	古寺を見直す わが鎌倉住い			68(S43)	「旅」 S43/03
詩	こち	故地の花	26 孤独			
詩	こづ	小包			42(S17)	「日本読書新聞」 S17/11/16
詩	こて	古典の空<人は生きる編>	02 高層雲	01	23(T12)	「日本詩人」 T12/11
	こて	小手指ガ原	12 風土	05	41(S16)	「朝日新聞」 S16/05/31
詩	こと	言葉			29(S04)	伊藤信吉監修『新訂学校詩集』 収載は？
詩	こと	言葉 (私は言葉を～)	10 行人	02	31(S06)	「詩人時代」 S06/11
詩	こと	言葉 (彼のつかふ～)	26 孤独	03		
詩	こと	言葉一五才の栄子に			30(S05)	「南方詩人」 S05/02?
	こと	言葉の純粹音楽 (アンケート・余はかく詩を観ず)			27(S02)	「権の木」 S02/05

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	こと	今年の春	17 同胞			
詩	こと	小鳥	04 曠野	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/08
詩	こど	孤独者の春			48(S23)	「詩学」 S23/07
	こど	子供と音楽 (一)	①		30(S05)	「フィルハーモニー」 S05/1
	こど	子供と音楽 (二)	①		30(S05)	「フィルハーモニー」 S05/02
	こど	子供と山と	07 絵本	04	31(S06)	「霧の旅」 S06/05(№36)
詩	こど	子供と大地			31(S06)	「キング」 S06/02
詩	こど	子供に寄す (附写真)			29(S04)	「富士」 S04/10
	こど	子供の朝			29(S04)	「現代」 S04/04
詩	こど	子供等に	14 糧			
	こな	小梨の花咲く上高地	49 詩文集 10	10	69*	
	この	「此の家の以前の子供」	42 旋律			
詩	この	この眼は何を	10 行人	02		
詩	この	この現実を直視せよ			44(S19)	「読売報知新聞」 S19/02/16
詩	この	この世の生命			23(T12)	「詩聖」 T12/07
詩	この	此の糧	14 糧	02	42(S17)	「文学界」 S17/02 (愛国詩特輯)
	こは	湖畔の星	23 遠方	06	49(S24)	「夕刊信州」 S24/11/26,27
詩	こは	湖畔の朝	40 田舎	10		
	こは	湖畔の町の半日	22 視野	06		
詩	こん	こんな処にも			44(S19)	「日本少女」 S19/09
	こん	こんな天気には<欄外小品①>			60(S35)	「アルプ」 S35/02
	こん	今日の雄弁家			30(S05)	「雄弁」 S05/06
詩	こん	昆陽先生の碑前にて → 昆陽先生の墓にて	15 二十年			
詩	こん	昆陽先生の墓にて ← 昆陽先生の碑前にて	02 高層雲	01	23(T12)	「雄弁」 T12/08
	ごか	御荷鉢山			38(S13)	「報知新聞」 S13/02/20,23,24,26
詩	ごか	沍寒の花			47(S22)	「詩人」 S22/04
	ごが	「五月の太陽」読後感			38(S13)	「綴方学校」 S13/08
	ごが	五月のたより	30 詩文集 07	07		
	ごが	五月のメドレイ	⑤		36(S11)	「日本山岳会・会報」 S11/05
	ごが	五月の山にきく野鳥の声			56(S31)	「旅」 S31/05
	ごが	五月の中央線	⑬		55(S30)	「旅」 S30/05
	ごが	五月の峠	39 泉	09	62*	
詩	ごが	五月の牧場で			49(S24)	「サンデー毎日」 S24/05/15
	ごが	五月上旬記			51(S26)	「アルビレオ」 S26/06

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	ごご	午後六時<六月の周囲編>			22(T11)	「日本詩人」T11/07
詩	ごさ	五歳の言葉	33 詩文集 02	02		
詩	ごし	御所平	13 高原	02	35(S10)	「登山とスキー」S10/02
	ごし	御所平と信州峠	07 絵本	04	35(S10)	「都新聞」S10/01/18・雪の甲信国境、01/19・野辺山の原越えて'01/20・信州峠へ、01/21・旅のをはり、
詩	ごぜ	午前の歌<春の詩四つ編>			24(T13)	「婦人公論」T13/05
詩	さい	幸の日	01 樹木	01		
	さい	再生の歌	42 旋律		67(S42)	「朝日新聞」S42/08/08 夕
	さい	再生の頃			40(S15)	『ヘルマン・ヘッセ全集』月報 6(三笠書房)S15/02
	さい	最近の山の本から			39(S14)	「東京堂月報」S14/07
	さい	最近読んだ書物について			30(S05)	「世界文学評論」S05/12
詩	さい	最後の雪に	02 高層雲	01	23(T12)	「読売新聞」T12/03/01
	さい	最後の本を前にして			56(S31)	高村光太郎『アトリエにて』(新潮社)S31/06
	さい	採集行	22 視野	06		
詩	さい	歳月	40 田舎	10		
詩	さい	菜園 ←隣組菜園	25 新潮詩集			
詩	さか	盛んな初夏			28(S03)	「雄弁」S03/06
	さき	砂丘にて	37 詩文集 08	08		
詩	さき	砂丘にて<「日々の歌」から①>			62(S37)	「アルプ」S37/02
	さく	桜に対する感想(アンケート)			23(T12)	「又新公論」T12/04
	ささ	ささやかな報償・寓話の愛好者・庭の戒め・又の世のための草案・夕べの風のためのコンチェルト	50 寓話		73(S48)	「ガーデンライフ」S48/01<わが庭の寓話 21>
詩	ささ	捧げの歌 [ウェストン祭朗読詩 S46] (原稿ファクシミリ)			71(S46)	『ウェストン祭』(日本山岳会信濃支部)S59
	さす	<さすらひと知見の旅> 春の美ヶ原・初めに驚きありき・心象断片・秋山川上流への小さい旅				高橋・黒田・角田編『山岳講座 6』(共立社)S11/04
	さと	佐藤惣之助について一座談会・伊藤信吉・金子光晴・城左門・草野心平・村野四郎			63(S38)	「無限」S38/10
	さと	砂糖大根の反逆・英国式教育の危険・ひるがお(一名昼間の麗人)	50 寓話		71(S46)	「ガーデンライフ」S46/10<わが庭の寓話 06>
	さと	里にたなびく煙	52 日光		70/12*	
	さび	寂しさと桜草と<碧い遠方から>	23 遠方	06	51(S26)	「かびれ」S26/01
詩	さめ	覚めている貧 →醒めている貧	08 滞在	02		
詩	さめ	醒めた女性			43(S18)	「婦人公論」S18/11
詩	さめ	醒めている貧 ←覚めている貧	15 二十年			
	さら	皿の上の早春	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」S37/02/22 夕[自然手帖 08]
詩	され	されど同じ安息日の夕暮に	44 空の下	10	66(S41)	「アルプ」S41/05、「歷程」S43/04<尾崎喜八小詩集①>
	さわ	「爽やかな空」の著者に就て			24(T13)	「日本詩人」T13/11

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	さん	<山荘詩篇①>台風季の或る日から、秋の林から、山荘の蝶、山荘をとざす	16 歳月の歌	03	57(S32)	「山と高原」 S32/11
	さん	サン・ベルナルの犬			41(S16)	「小学（国民）六年生」 S16
詩	さん	三月に			26(T15)	「抒情詩」 T15/04
	さん	三光鳥(野外手帖から)	39 泉		63*	
	さん	三人の永遠の音楽家	42 旋律			
詩	さん	三粒の卵―組長手記より	14 糧	02	42(S17)	「文学界」 S17/05
	さん	山岳的シューベルト	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/08[音楽と求道 44]
	さん	山岳文学 →山への断片			34(S09)	「国民新聞」 S09/07/31
	さん	山間の朝			32(S07)	「雄弁」 S07/ 07
	さん	山峡の春	⑤		39(S14)	「報知新聞」 S14/2/21
詩	さん	山上の朝			63(S38)	「新潟日報」 S38/07/01
	さん	山荘の森の灯	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/04/12 夕[自然手帖 15]
詩	さん	山荘の蝶<山荘詩篇③>	16 歳月の歌	03	57(S32)	「山と高原」 S32/11
	さん	山荘の灯	⑬			(原稿ファクシミリ)
詩	さん	山荘をとざす<山荘詩篇④>	16 歳月の歌	03	57(S32)	「山と高原」 S32/11
詩	さん	山村にて ←山村の夕暮	08 滞在	02		
詩	さん	山村の夕暮 →山村にて	13 高原			
詩	さん	山中取材	40 田舎	10		
詩	さん	山中地溝帯 ←山中地溝帯で	13 高原			
詩	さん	山中地溝帯で →山中地溝帯	08 滞在	02		
詩	さん	山頂			37(S12)	「家の光」 S12/07
詩	さん	山頂（一人一人～）[ウェストン祭朗読詩 S43]	25 新潮詩集	03	51(S26)	「つめくさ」 S26/01、「かびれ」 S26/02
詩	さん	山頂のねむり			53(S28)	「旅」 S28/08
詩	さん	山頂の心	16 歳月の歌	03		
	さん	山麓の村	⑤		39(S14)	「報知新聞」 S14/2/19
詩	さん	山麓の町	08 滞在	02		
詩	さん	山麓の町から<春の試みから編>			29(S04)	「詩集」 S04/05
詩	さん	撒水自動車			23(T12)	「東京朝日新聞」 T12/05/07
	さん	散文二つ			26(T15)	「不二」 T15/07
詩	さん	散歩	01 樹木	01		
詩	さん	讃称	44 空の下			
詩	さん	讃美の生活			22(T11)	「日本詩人」 T11/11
	ざっ	雑記			22(T11)	「詩聖」 T11/09
	ざっ	雑草	41 衆讃歌		66(S41)	「毎日新聞」 S41/05/26 夕、「アルプ」 S41/08<清閑記>

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	シー	シー、ロイファー			30(S05)	「詩洋」S05/11、「アルピニズム」S06/03
詩	しい	飼育場風景	40 田舎	10	60(S35)	「放送文化」S35/03
詩	しが	四月の詩	36 詩文集 03	03	56(S31)	「東京新聞」S31/04/01
詩	しが	志賀高原	08 滞在	02	36(S11)	「帝国大学新聞」S11/12/07
詩	しき	指揮官機先頭			44(S19)	「少国民の友」S19/02
詩	しぎ	詩業			48(S23)	「青年演劇」S23/05・06 合
	しく	詩句の解釈と朗読について			42(S17)	「文化日本」S17/07
	しぐ	しぐれ	30 詩文集 07	07	54(S29)	「信濃毎日新聞」S29/11/15 夕
詩	しこ	詩－此の心もて			45(S20)	「家の光」S20/01
	しこ	詩－木暮先生			62(S37)	『日本山岳名著全集』月報 I (あかね書房)S37/05
	しご	仕事と友情			24(T13)	「雄弁」T13/06
	しさ	「思索する心」<清閑記>	41 衆讃歌		66(S41)	「アルプ」S41/08
詩	しさ	<詩三篇編>八ヶ岳裾野(茅野口)、八ヶ岳裾野(小海口)、一年後			31(S06)	「霧の旅」S06/09(№37)
詩	しし	詩－神機の曙紅			45(S20)	「読売報知新聞」S20/04/19
	しし	詩集「意欲の糧」(上沼利三)について			41(S16)	「日本文芸」S16/06
	しし	詩集「夏草」を読んで	⑭		26(T15)	「都新聞」T15/08/22・23
	しし	詩集「我が手を見よ」を読んで			23(T12)	「時事新報」T12/06/02,03,05
	しし	詩集「我が手を見よ」を読んで－ヨネ野口氏の芸術の一特色			23(T12)	「詩と音楽(アルス出版月報)」T12/07
	しし	詩集「風の中の家」読後			31(S06)	「社会詩人」S06/02
	しし	詩集『貧しき信徒』評			71(S46)	田中・八木編『八木重吉未発表遺稿と回想』(表書房)S46/09
	しし	詩集に思う			59(S34)	「詩人連邦」S34/01
	しし	詩集の自費出版(‘時評’編)			28(S03)	「都新聞」S03/09/15
詩	しし	詩心	21 暦日	03	47(S22)	「歷程」S22/07[復刊第一号]
詩	しし	猪茸	08 滞在	02		
詩	しじ	四十雀	01 樹木	01		
詩	しじ	詩術	26 孤独	03		
	しじ	詩人	30 詩文集 07	07	51(S26)	「新潮」S26/07
	しじ	詩人と音楽	⑥		59(S34)	『世界名詩集大成』月報 7(平凡社)S34/08?
	しじ	詩人と窮乏(‘時評’編)			28(S03)	「都新聞」S03/09/13
詩	しじ	詩人と笛 その一、その二	44 空の下	10	66(S41)	「文芸春秋」S41/09
詩	しじ	詩人と農夫	26 孤独	03		
	しじ	詩人の印象・千家元麿—感じの表現者			24(T13)	「日本詩人」T13/07
	しじ	詩人の帰京			53(S28)	「新潮」S28/01

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	しじ	詩人の朝	41 衆讃歌		64/10*	
	しじ	詩人ヴェルドラック			27(S02)	「平原」 S02/10
	しじ	詩人言			44(S19)	「詩研究」 S19/07
詩	しず	静かなる朝の歌	17 同胞	02	24(T13)	「雄弁」 T13/08
詩	しず	静かな夏	02 高層雲	01		
詩	しず	沈みゆく星に寄せて	44 空の下	10		
詩	しぜ	自然			25(T14)	「少年倶楽部」 T14/12
	しぜ	自然・音楽・祈り	49 詩文集 10	10		
	しぜ	自然と共にある故に	37 詩文集 08	08	62(S37)	「放送文化」 S37/01
	しぜ	自然と心	52 日光		71/07*	
	しぜ	自然と旅	52 日光		71/06*	
	しぜ	自然の音	42 旋律			
	しぜ	自然の中	⑤		24(T13)	「雄弁」 T13/09
	しぜ	自然の中の春の歌	30 詩文集 07	07		
	しぜ	自然を愛するということ	39 泉		62*	
	しぜ	自然観察の悦び	12 風土		39(S14)	「婦人画報」 S14/01
	しぜ	自然詩人の花	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/05/31 夕[自然手帖 22]
	しだ	詩壇からみた文壇			26(T15)	「近代風景」 T15/11
	しだ	詩壇をめぐる曇天			23(T12)	「都新聞」 T12/02/11,13,14
	しだ	詩壇時事			27(S02)	「近代風景」 S02/02
詩	しち	七月の地誌	40 田舎	10	61(S36)	「アルプ」 S36/09
詩	しち	七月の夕暮			22(T11)	「感触」 T11/08
詩	しち	七丈ノ小屋（東駒ガ岳）<遠い日の山小屋③>	49 詩文集 10	10	71(S46)	「アルプ」 S46/11
	しと	「詩と農夫」への願い	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」 S43/01[音楽と求道 01]
	しと	死と乙女			68(S43)	「朝日新聞」 S43/08/11
	しと	詩とローマ字に就て（ノートから）			22(T11)	「ローマ字」 T11/10
	しと	詩と音楽	37 詩文集 08	08	60(S35)	「暮しの手帖」 S35/09
	しと	詩と言葉	39 泉	09	63(S38)	「学鑑」 S38/04
詩	しど	祠堂のまはり			25(T14)	「現代」 T14/05
	しな	信濃の春			47(S22)	「夕刊信州」 S22/05/20
詩	しな	信濃の新春			49(S24)	「読売新聞（長野）」 S24/01/01
	しな	信濃の人たちと共に	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/11[音楽と求道 23]
詩	しな	信濃を想ふ（文化の日に）			55(S30)	「信濃毎日新聞」 S30/11/03 夕
	しな	信濃乙女	09 草原	05		

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	しな	信濃乙女（車中偶感）			35(S10)	「登山とスキー」 S10/07
詩	しな	信濃住み（句）			46(S21)	「かびれ」 S21/11
	しな	信濃路の秋	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/11/01 夕[自然手帖 44]
詩	しに	<詩二題>秋、鴨			65(S40)	「アルプ」 S40/01
詩	しに	<詩二篇>黄道光、孫らを遣りて			70(S45)	「アルプ」 S45/04
詩	しに	<詩二篇>音楽に寄せて、詩を書く	49 詩文集 10	10	73(S48)	「アルプ」 S48/01
	しに	詩に於ける現実（アンケート）				百田宗治編『今日の詩』（金星堂）S07/02
	しに	詩に関する一断片			33(S08)	「音楽評論」 S08/07
	しに	詩に就て（或る講演の草稿）			22(T11)	「日本勸業銀行月報」 T11/07
	しに	詩に添えて一秋の歌（「曠野の火」）			58(S33)	「山と高原」 S33/09
	しの	「詩のこころ」	⑬		70(S45)	NHK 教育テレビ「現代国語」 S45/3/23 放送
	しの	詩のある旅路・途上のまなざし			64(S39)	「旅」 S39
	しの	詩の会のこと			23(T12)	「白樺」 T12/01
	しの	詩の鑑賞			42(S17)	「雑誌日本」 S17/10
	しの	詩の鑑賞			42(S17)	「日本」 S17/08
	しの	詩の鑑賞（御一緒に羽田空港に～）	37 詩文集 08	08	60(S35)	「小原流挿花」 S35/10[野外と屋内 05]
	しの	詩の国土に立って			23(T12)	「読売新聞」 T12/07/25～28
	しの	詩の選をして			22(T11)	「詩聖」 T11/06
	しの	詩の朗読			44(S19)	「読売報知新聞」 S19/08/04,05
	しの	詩の朗読について			42(S17)	「青少年之友」 S17/04
詩	しば	芝生	01 樹木	01		
	しば	芝生の中の宝石	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/01/04 夕[自然手帖 01]
詩	しひ	詩一人の母の歌			45(S20)	「新太陽」 S20/01
	しひ	詩評に就ての断片			23(T12)	「東京日日新聞」 T12/08/29
	しべ	シベリウス『交響曲第六番・七番』	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/09[音楽と求道 33]
	しば	思慕の旅	52 日光		69/10*	
	しま	島崎さんの為に			25(T14)	「日本詩人」 T14/06
詩	しむ	詩「無常」の作者に	44 空の下		70(S45)	「アルプ」 S45/10
詩	しめ	四面これ海	17 同胞		43(S18)	「海の村」 S18/01
	しめ	締切日雑記			22(T11)	「詩聖」 T11/08
詩	しも	霜と頬白くよろこばしい冬編>			24(T13)	「日本詩人」 T13/01
詩	しも	霜どけ道 →霜どけ路	10 行人	02	23(T12)	「日本詩人」 T12/01
	しゃ	<写真に寄せて>青木湖畔、亡びゆく昔の美、荒川岳と雷鳥、穂高のわさび田、 諏訪湖、白馬大池あたり、姫川峡谷地帯、木曽路、夜叉神峠	52 日光		70(S45)	「小原流挿花」 S45～46

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	しゃ	しゃしん (童話詩)			33(S08)	「幼年倶楽部」 S08/10
詩	しゃ	シャルル・ヴィルドラックにく或る朝のおもひ編>			27(S02)	「抒情詩」 S02/06
	しゃ	シャロンの野花	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/07/19 夕[自然手帖 29]
詩	しゃ	軍鶏			22(T11)	「極光」 T11/09
	しゃ	写真と歌と ←ニュース写真と時局下の歌	09 草原		38(S13)	「フィルハーモニー」 S13/01
	しゃ	写真機と奥武蔵	49 詩文集 10	10	71*	
詩	しゃ	車窓	36 詩文集 03	03	59(S34)	「いづみ」 S34/09
	しゃ	車窓からの眺め	52 日光		69/04*	
詩	しゃ	車窓のまごころ			42(S17)	「大和」 S17/10/14
詩	しゃ	車窓のフーガ (串田孫一君に)	40 田舎⑨	10	60(S35)	「アルプ」 S35/09
	しゃ	車窓の妙音(野外手帖から)	39 泉		63*	
詩	しゃ	車中の隣人	14 糧			
	しゃ	車内の偶会			58(S33)	『世界文学大系』月報 2(筑摩書房)S33/04
詩	しゅ	Shukyo=Teki na Yoi			22(T11)	「ローマ字」 T11/12
	しゅ	シューベルトの歌			63(S38)	「東京新聞」 S38/02/04
詩	しゅ	シューマンと草取り	44 空の下	10		
	しゅ	シュッツに打ち込む人たち	54 風光		72(S47)	「芸術新潮」 S47/10[音楽と求道 58]
	しゅ	シュッツ礼賛			72(S47)	「受難楽の夕べ」(プログラム)ハインリッヒ・シュッツ合唱団
詩	しゅ	シュナイダー	10 行人	02		
詩	しゅ	シュプール	10 行人	02		
詩	しゅ	収穫	01 樹木	01		
	しゅ	周はじめ「牧人小屋だより」(書評)			63(S38)	「婦人之友」 S38/02
詩	しゅ	修練農場			39(S14)	「キング」 S14/05
	しゅ	秋光さんさん	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/10/07 夕[自然手帖 40]
	しゅ	秋桜子俳句鑑賞－磐梯			52(S27)	「俳句」 S27/09
	しゅ	秋日雑記			24(T13)	「大街道」 T13/10
	しゅ	秋嶺氏を送る			24(T13)	「東京朝日新聞」 T13/09/30
	しゅ	祝詞に代えて	41 衆讃歌/⑮		64(S39)	「馬酔木」 S39/07
詩	しゅ	祝詩			43(S18)	「日本読書新聞」 S18/10/16
	しゅ	祝辞	①		29(S04)	「フィルハーモニー」 S04/04
詩	しゅ	春雲の巻 (連句)			43(S18)	「かびれ」 S18/06
詩	しゅ	春興	40 田舎	10	62(S37)	「文芸春秋」 S37/02
詩	しゅ	春愁 (高村智恵子～) <旅情三篇②>	44 空の下		70(S45)	「アルプ」 S45/01
詩	しゅ	春愁 (静かに賢く～)	36 詩文集 03	03		

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	しゅ	春信	42 旋律			
詩	しよ	「所有の歌」から			27(S02)	「炬火」 S02/08、「詩神」 S02/08、「詩集」 S02/11
詩	しよ	「諸国のの人々」	44 空の下			
詩	しよ	<カテージ メイド編>田舎の夕暮、カテージメード、少女			21(T10)	「新詩人」 T10/08
	しよ	処女詩集の思い出	37 詩文集 08	08		
詩	しよ	初夏			28(S03)	「東方」 S03/06
	しよ	初夏の京城			23(T12)	「都新聞」 T12/05/18~20
詩	しよ	初夏の工場から			42(S17)	「日本女性」 S17/06
	しよ	初夏の高原			49(S24)	「信陽新聞」 S24/05/31
詩	しよ	初夏の山(尾竹国観筆)			29(S04)	「富士」 S04/05
詩	しよ	初夏の小屋	04 曠野	01	25(T14)	「明星」 T14/05・06 合
	しよ	初夏の乗鞍岳	52 日光		71/02*	
詩	しよ	初夏の村			25(T14)	「少年倶楽部」 T14/07
詩	しよ	初夏の昼<生活のよろこび①>			24(T13)	「婦人之友」 T13/06
詩	しよ	初夏の庭			22(T11)	「途上に現はれるもの」 T11/06
	しよ	初夏の田園	12 風土		40/06*	AK より放送 S15/06/23
	しよ	初夏の日に			28(S03)	「都新聞」 S03/05/10~13
	しよ	初夏を彩る	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/05/03 夕[自然手帖 18]
詩	しよ	初秋			30(S05)	「令女界」 S05/09
	しよ	初秋<折々の記>	46 鎌倉	09		
	しよ	初秋の湖	23 遠方	06	49*	
詩	しよ	初秋の讃歌			22(T11)	「詩聖」 T11/10
	しよ	初秋の数日	23 遠方	06	48(S23)	「旅」 S23/10
詩	しよ	初秋の朝			24(T13)	「日本詩人」 T13/10
詩	しよ	初秋の武蔵野風景			28(S03)	「東方」 S03/10
	しよ	初秋の輪唱	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/09/06 夕[自然手帖 36]
詩	しよ	初秋午前十六ミリ			30(S05)	「週刊朝日」 S05/10/01
	しよ	初心時代	09 草原	05		
	しよ	初心者	23 遠方	06	48*	
	しよ	初心者を山へ	⑤		40(S15)	「帝国大学新聞」 S15/04/29
詩	しよ	初冬に	08 滞在	02		
	しよ	初冬に思う			53(S28)	「東京新聞」 S28/12/08
	しよ	初冬の客	23 遠方	06	49*	
	しよ	初冬の心	30 詩文集 07	07		

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	しよ	初冬の田園詩			29(S04)	「現代」S04/11
	しよ	初冬の別れ	52 日光		52(S27)	「信濃毎日新聞」S27/11/25
詩	しよ	所有の歌 (旧作)			28(S03)	「詩集」S03/04
詩	しよ	曙紅の歌 (附写真)			29(S04)	「キング」S04/01
	しよ	書棚の一角	52 日光		69/02*	
	しよ	諸家回答—最も印象に残っている紀行・随筆 (アンケート)			37(S12)	「山小屋」S12/08
詩	しよ	将棋頭ノ小屋 (木曾駒ガ岳) <遠い日の山小屋④>	49 詩文集 10	10	71(S46)	「アルプ」S46/11
詩	しよ	小景	01 樹木	01		
詩	しよ	少国民の秋	14 糧	02		
詩	しよ	少女<カテゴリー メイド編>			21(T10)	「新詩人」T10/08
	しよ	少女の日	09 草原	05		
詩	しよ	少年におくる言葉			27(S02)	「少年倶楽部」S02/04
詩	しよ	少年航空兵	14 糧	02	42(S17)	「報知新聞」S17/01/06、「文庫」S17/03、 『愛国詩集 大詔奉戴』17/10
	しよ	少年詩・選評			28(S03)	「少年倶楽部」S03/01~12
詩	しよ	少年戦車兵	17 同胞			
	しよ	庄野英二「愛のくさり」(書評)			72(S47)	「週刊読書人」S47/05/01
	しよ	昭和現代詩の鑑賞 (抄)	⑩		34(S09)	『日本文学講座 9 新詩文学編』(改造社)S09
詩	しよ	消息	17 同胞	02		
	しよ	消息			35(S10)	「動物文学」S10/05
詩	しよ	消防自動車	01 樹木			
詩	しよ	肖像に思ふ			43(S18)	「オール読物」S18/05
	しよ	植物採集会 →洞乱下げて	07 絵本	04	30(S05)	「報知新聞」S05/10/01~03
	しよ	職員文芸・随筆選評			62(S37)	「関東信越国税旬報」S37/05/11,05/21
	しよ	職員文芸・随筆選評			63(S38)	「関東信越国税旬報」 S38/01/21,02/01,03/11,03/21,04/01,06/11
	しよ	職員文芸・随筆選評			64(S39)	「関東信越国税旬報」S39/04/11,04/21,05/21
	しよ	職員文芸・随筆選評			66(S41)	「関東信越国税旬報」S41/04/01,05/21
	しよ	職員文芸・随筆選評			67(S42)	「関東信越国税旬報」S42/04/21,05/01,05/11,06/21
	しよ	職場の文芸・詩選評			44(S19)	「ちから」S19/10/11,11/21,12/01
	しよ	職場の文芸・詩選評			45(S20)	「ちから」S20/02/01,04/11,06/01,11/21
詩	しよ	正月のたより			57(S32)	「信濃毎日新聞」S32/01/
	しよ	生涯の太陽			62(S37)	『ベートーヴェン選集』第11巻附録(筑摩書房)S37/04
	しよ	背負子	22 視野	06	48(S23)	「日本山岳会信濃支部報」S23/06
	しら	「白樺」とベルリオーズ	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」S43/06[音楽と求道 06]

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	しら	白鳥の陵にて →白鳥陵にて	33 詩文集 02	02	44(S19)	「日本詩」 S19/07
詩	しろ	しろうり			22(T11)	「詩聖」 T11/09
	しろ	白馬大池あたり<写真に寄せて>	52 日光		71(S46)	「小原流挿花」 S46/08[表紙によせて 07]
詩	しわ	師走午前			23(T12)	「日本詩人」 T12/01
	しわ	詩話会解散後一年			27(S02)	「都新聞」 S02/10/14,15
	しを	詩をつくる用意 (アンケート)			22(T11)	「文章倶楽部」 T11/08
詩	しを	詩を書く<詩二篇②>	49 詩文集 10	10	73(S48)	「アルプ」 S48/01
	しを	詩を書く若い友人に			43(S18)	「文庫」 S18/05
	しを	詩を生活する喜び			25(T14)	「婦人世界」 T14/01
詩	しん	Shinda kotori ni			23(T12)	「ローマ字」 T12/06
詩	しん	<親密な詩四つ(現代詩壇鳥瞰)編>裏道、日の暮、若い主婦、我家の台所	02 高層雲	01	23(T12)	「改造」 T12/08
詩	しん	シンガポール陥落	14 糧			
	しん	信州の高原三景	④		56(S31)	「旅」 S31/09?
	しん	信州の酒に寄せて	42 旋律		68(S43)	「日本の屋根」 S43/01
	しん	信州の正月			52(S27)	「読売新聞 (南信読売)」 S27/01/01
詩	しん	信州追分 ←追分宿	13 高原			
	しん	信州峠	12 風土	05	38(S13)	「登山とスキー」 S13/11
	しん	信州峠へ →御所平と信州峠			35(S10)	「都新聞」 S10/01/20
	しん	心境			58(S33)	「アルビレオ」 S33/01
	しん	心象断片				高橋・黒田・角田編『山岳講座 6』(共立社)S11/04 <さすらひと知見の旅>
	しん	心平さんの鎌倉来訪<折々の記>	46 鎌倉	09		
	しん	新アスレチック	12 風土/⑬		28(S03)	「東方」 S03/05
	しん	新アスレチック (二)	⑥		28(S03)	「東方」 S03/07
詩	しん	新学期			27(S02)	「少年世界」 S02/09
	しん	新刊詩書紹介			29(S04)	「現代詩評」 S04/04
詩	しん	新居元旦			67(S42)	「自由民主新聞」 S42/01/05
詩	しん	新詩抄			52(S27)	「歷程」 S27/01
詩	しん	新春の山村にて			31(S06)	「現代」 S06/01
詩	しん	新春の信濃に寄せて			59(S34)	「信濃毎日新聞」 S34/01/01
詩	しん	新春述志			51(S26)	「南信日日新聞」 S26/01/01
詩	しん	新生イタリヤ	17 同胞		43(S18)	「毎日新聞」 S18/09/28
詩	しん	新戦場		02	32(S07)	「詩人時代」 S07/07,『南有集』(東北書院)S07/09
詩	しん	新東京都に寄す			43(S18)	「読売報知新聞」 S18/07/01

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	しん	新同人の言			25(T14)	「詩と版画」 T14/09
詩	しん	新年の丘にたちて			63(S38)	「自由民主新聞」 S38/01/08
	しん	新年の御岳・大岳	07 絵本	04	30(S05)	「報知新聞」 S05/01/14~18
詩	しん	新年偶成			52(S27)	「南信日日新聞」 S27/01/01
詩	しん	新年言志	10 行人	02		
	しん	新緑の山の朝 (附写真)			41(S16)	「婦人公論」 S16/06
詩	しん	新緑の表参道	14 糧	02	42(S17)	「時局雑誌」 S17/06
	しん	森林について ←森林美観	12 風土		38(S13)	「旅」 S13/09
詩	しん	森林限界	44 空の下	10	66(S41)	「小説新潮」 S41/08
	しん	森林美観 →森林について			38(S13)	「旅」 S13/09
	しん	深夜の小屋で			31(S06)	「都新聞」 S06/08/24
	しん	親切の角度			44(S19)	「週刊毎日」 S19/04/02
詩	しん	親那の友を迎ふ			43(S18)	「文学報国」 S18/08/20
	しん	震災詩集「災禍の上に」 瞥見			24(T13)	「日本詩人」 T13/01
	じえ	JONK と小鳥の森			35(S10)	「野鳥」 S10/12
	じか	自戒(野外手帖から)	39 泉		63*	
詩	じが	自我の讚美	02 高層雲	01	22(T11)	「詩聖」 T11/06
	じつ	実例の力・主人の耳・蜜蜂と蜘蛛	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/02<わが庭の寓話 10]
	じで	自伝 (詩以前のもの)			54(S29)	『全詩集大成現代日本詩人全集 7』(創元社)S29/03
	じゃ	ジャック・ティボーの「ヴァイオリンは語る」	53 魂		70(S45)	「芸術新潮」 S45/02[音楽と求道 26]
	じゃ	ジャム	49 詩文集 10	10		
	じゅ	ジュール・ルナール「素朴な風景」(書評)			57(S32)	「日本読書新聞」 S32/02/18
詩	じゅ	受苦の金曜日			59(S34)	「東京新聞」 S34/04/01 夕
	じゅ	受胎告知	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/03/01 夕[自然手帖 09]
詩	じゅ	受胎告知<早春二題>	40 田舎	10	62(S37)	「無限」 S37/08
詩	じゅ	受難の金曜日	36 詩文集 03	03		
	じゅ	受難楽の夕べ	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/06[音楽と求道 42]
詩	じゅ	樹蔭に			22(T11)	「白樺」 T11/09
	じゅ	樹下の小屋にて	12 風土		24(T13)	「東京朝日新聞」 T13/05/20,21
詩	じゅ	樹木賛仰	02 高層雲	01	23(T12)	「白樺」 T12/02
詩	じゅ	充実しきって			23(T12)	「東京日日新聞」 T12/08/25
詩	じゅ	充実した秋	36 詩文集 03	03		
	じゅ	充実と落下	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/10/18 夕[自然手帖 42]
詩	じゅ	十一月			24(T13)	「少年倶楽部」 T13/11

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	じゅ	十一月			28(S03)	「民謡詩人」S03/01(現代詩人自選号)
詩	じゅ	十一月			50(S25)	「高原文学」S25/01
詩	じゅ	十一月			56(S31)	「婦人之友」S31/11
詩	じゅ	十一月(十一月が～)	10 行人	02		
詩	じゅ	十一月(濃い褐色に～)	36 詩文集 03	03		
詩	じゅ	十一月(北のはう～)	26 孤独	03		
	じゅ	十一月の詩壇月評			21(T10)	「日本詩人」T10/12
詩	じゅ	十二月			33(S08)	「報国」S08/12
詩	じゅ	十年後	40 田舎	10	63(S38)	「山と高原」S38/07
詩	じゅ	十勇士に学ぶ			43(S18)	「週刊婦人朝日」S18/04/14
詩	じゅ	猷王無聊(附写真)			30(S05)	「富士」S05/09
詩	じゅ	銃後の気魄			42(S17)	「東京日日新聞」S17/12/09
詩	じゅ	銃獵家に與ふ	10 行人	02		
詩	じゅ	上越線にて	40 田舎	10	63(S38)	「山と高原」S38/09・10(合)
	じゅ	自由詩型の詩と作曲の問題			31(S06)	「音楽世界」S06/04
詩	じょ	序詩 →回顧	37 詩文集 08	08		
	じょ	序文に代へる手紙 →「山に憩ふ」友に	07 絵本	04	31(S06)	河田楨著『山に憩ふ』山と溪谷社 S06/04
	じょ	上演したい戯曲			27(S02)	「都新聞」S02/12/29
詩	じょ	浄土平(妻に代りて) <旅情三篇①>	44 空の下		70(S45)	「アルプ」S45/01
	じん	「人類の星の時間」	37 詩文集 08	08		
詩	すい	スイートピー<風景編>	01 樹木	01	21(T10)	「新詩人」T10/07
	すい	推薦書(美術)			27(S02)	「都新聞」S02/12/23
	すい	水車小屋へ	18 麦刈	05		
	すい	水上の夏の歌	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」S37/06/28 夕[自然手帖 26]
詩	すい	西瓜<悦ばしき夏編③>	04 曠野	01	23(T12)	「婦人之友」T12/09
	すえ	末消ゆるこころの波	30 詩文集 07	07	54(S29)	「馬酔木」S29/04
	すか	スカララッティ	42 旋律		68(S43)	「ピアノ通信」S43/06
	すき	好きな山小屋(アンケート)			38(S13)	「山小屋」S13/08
	すぎ	過ぎし日の山の旅	52 日光		71/03*	
	すぎ	過ぎゆく時間の中で	37 詩文集 08	08	62(S37)	「みずず」S37/01(片山敏彦追悼号)
詩	すく	救の細指			27(S02)	「キング」S02/10
詩	すこ	スコットランドの娘	01 樹木	01		
	すす	進みゆく少数者の為に			26(T15)	「都新聞」T15/09/20,21
詩	すず	鈴	44 空の下		69(S44)	「いづみ」S44/2

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	すば	須走	09 草原	05		
詩	すば	スポーツの歌			27(S02)	「キング」 S02/03
詩	すみ	堇くよるこぼしい冬編>	04 曠野	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/01
	すろ	裾野日記(一)ーイチキの実・秋の路傍・雨量計・或る日の観測から			47(S22)	「歷程」 S22/09
	すわ	諏訪湖<写真に寄せて>	52 日光		71(S46)	「小原流挿花」 S46/06[表紙によせて 05]
	ずか	凶鑑について	41 衆讃歌		65/05*	
	せい	<清閑記>雑草・「思索する心」・新しい印章・たまたまの余暇	41 衆讃歌		66(S41)	「アルプ」 S41/08
詩	せい	<生活のよろこび>初夏の昼、輝やく昼過			24(T13)	「婦人之友」 T13/06
詩	せい	<生活三態>オルガンのしらべ、浜辺で、朝のコーヒーを前に	49 詩文集 10	10	73(S48)	「歷程大冊」 S48/06
詩	せい	<生活二編>ひとり者の最後の春、想ふこと			24(T13)	「日本詩人」 T13/03
詩	せい	制作			22(T11)	「詩聖」 T11/08
	せい	成功の苦味・祈っている牝山羊・現世的な富の軽蔑・三つの格言	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/09<わが庭の寓話 17]
詩	せい	星座	①		22(T11)	「詩聖」 T11/09
	せい	星座早見	42 旋律			
詩	せい	清福ー木暮理太郎翁に	10 行人	02	40(S15)	「歷程」 S15/01
	せい	生への飾り	52 日光		70/09*	
詩	せい	生活	01 樹木	01	22(T11)	「詩聖」 T11/02
	せい	生活の中のバッハ			64(S39)	「アルプ」 S39/04
	せい	生活の中の音楽				『生活の本 10 生活の中の美』(文芸春秋)S43/08
	せい	生態写真作品集ー冬のハコベ・晩秋の崖端 (写真と解説)			41(S16)	「アサヒカメラ」 S16/11
詩	せい	盛夏の午後	26 孤独	03		
	せい	盛夏雑信			23(T12)	「都新聞」 T12/08/14~19
	せい	盛夏白昼	23 遠方	06	49*	
詩	せい	精神	10 行人	02		
詩	せい	精神的寂靜	04 曠野	01		
詩	せい	聖戦一周年の暁に立ちて			42(S17)	「週刊朝日」 S17/12/06
	せい	聖母マリアの嘆きの歌	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/12[音楽と求道 24]
詩	せい	西北風	08 滞在	02	26(T15)	「日本詩人」 T15/11
	せい	誠実な訪問者	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/09/27 夕[自然手帖 39]
詩	せい	青年の決意ー紀元二千六百年の記念祭に当りて			40(S15)	「青年」 S15/11
詩	せい	青年日本に寄す			32(S07)	「現代」 S07/02
	せか	世界の音楽・打ち捨てられた墓・丘と川	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/10<わが庭の寓話 18]
詩	せか	世界の詩人にールネ・アルコスに			26(T15)	「近代風景」 T15/11
詩	せが	セガンティニーニ	08 滞在	02	33(S08)	「日本詩壇」 S08/09

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	せき	石上樹下			25(T14)	「抒情詩」 T14/05
詩	せき	積雲の歌	08 滞在	02		
詩	せき	積乱雲	04 曠野	01		
	せだ	世代の移り	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/04/26 夕[自然手帖 17]
詩	せつ	雪原の朝			53(S28)	「旅」 S28/02
	せみ	「蟬を彫る－高村光太郎」	42 旋律			串田孫一編『私の中の一つの詩』 (文理書院トリーム出版)S42/06
詩	せみ	蟬(蟬) (生いしげる木立に～)	40 田舎	10		
詩	せみ	蟬 (二つの高台に～)	01 樹木	01		
	せれ	セレナーデ	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/06/07 夕[自然手帖 23]
	せん	『千家元麿』人と作品/解説	42 旋律/⑭		69(S44)	尾崎喜八編『日本詩人全集 12・千家元麿』 (新潮社)S44/01
	せん	『千家元麿詩集』解説	⑭		53(S28)	尾崎喜八編『千家元麿詩集』 (新潮文庫)S28/11
	せん	先輩高村さん			72(S47)	『日本文学全集』月報 13(集英社)S47/05
	せん	千家元麿君の芸術に就て	⑭		23(T12)	「日本詩人」 T12/08
	せん	千家元麿全集・上巻 (書評)			64(S39)	「日本読書新聞」 S39/06/01
詩	せん	千古の処女峰 (附写真)			30(S05)	「キング」 S05/07
詩	せん	戦線為に明激なり	17 同胞		43(S18)	「読売報知新聞」 S18/09/11
詩	せん	洗濯			22(T11)	「詩聖」 T11/05
詩	せん	船長			28(S03)	「東方」 S03/09、「詩神」 S03/10<海で編>
	せん	選を終って			34(S09)	「日本詩」 S09/12[新鋭詩人号]
	ぜん	善に通ずる美	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/06[音楽と求道 30]
詩	ぜん	全国民結集の秋			44(S19)	「週刊朝日」 S19/02/13
	そう	『莊巖ミサ』をきく	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/01[音楽と求道 13]
詩	そう	<早春の歌編>幼い眼、妻に			28(S03)	「生活者」 S03/02
詩	そう	<早春の詩帖から>春の前夜、眠られぬ夜に	36 詩文集 03	03	59(S34)	「アルプ」 S34/05
詩	そう	<早春二題>故園の歌、受胎告知	40 田舎	10	62(S37)	「無限」 S37/08
	そう	曾宮一念「東京回顧」(書評)			67(S42)	「週刊読書人」 S42/05/22
	そう	早春(この冬の終わりには～)	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」 S36/04[野外と屋内 11]
	そう	早春(戦後の七年間を～)	42 旋律			
詩	そう	早春 (もうなんとなく～)	10 行人	02		
	そう	早春の雨の夜	12 風土	05	39(S14)	「文体」 S14/04
詩	そう	早春の歌	10 行人	02	28(S03)	「生活者」 S03/02
詩	そう	早春の山にて ←春の山にて	13 高原	02		
	そう	早春の山郷	⑤		37(S12)	「旅」 S12/3

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	そう	早春の田園	⑤		39(S14)	「アサヒカメラ」 S14/3
詩	そう	早春の道	26 孤独	03		
詩	そう	窓前臨書	13 高原		42(S17)	「文芸春秋」 S17/05
詩	そう	草上の郵便	02 高層雲	01	23(T12)	「東京日日新聞」 T12/07/14
	そう	雙眼鏡	30 詩文集 07	07		
詩	せせ	蘇生の時<人は生きる編>			23(T12)	「日本詩人」 T12/11
詩	そな	備へあれば			44(S19)	「東京新聞」 S19/11/03
	その	そのおもかげ			65(S40)	『現代文学大系』 月報 31(筑摩書房)S40/11
	その	そのおもかげ			73(S48)	坂本波之『表明』 附録・回想波之(現代書房新社)S48/09
詩	その	その顔			30(S05)	「詩集」 S05/01
詩	その	その空の下で (妻に代りて) <旅情三篇③>	44 空の下	10	70(S45)	「アルプ」 S45/01
	その	その頃の孫	41 衆讃歌		66/01*	
	その	その詩の一面	30 詩文集 07	07		
	その	その時々ノバツハ	49 詩文集 10	10		
	その	その人の俳	52 日光		71(S46)	『手塚富雄全訳詩集』 月報 2(角川書店)S46/11
	その	その土地への愛の序曲	46 鎌倉	09	71(S46)	大佛次郎編『素顔の鎌倉』(実業之日本社) S46・10
詩	その	その母	17 同胞			
詩	その	その名			31(S06)	「詩神」 S06/02
	その	菌部澄「写真・中仙道」(書評)			62(S37)	「週刊読書人」 S37/11/05
詩	その	其の手 →その手	33 詩文集 02	02	44(S19)	「日本詩」 S19/09
詩	その	其の地図	14 糧		42(S17)	「文芸春秋」 S17/10
	その	其頃 ←其頃を語る	12 風土		31(S06)	「詩人時代」 S06/11
	その	其頃を語る →其頃			31(S06)	「詩人時代」 S06/11
	そふ	祖父の日	30 詩文集 07	07	51(S26)	「展望」 S26/08
	そぼ	祖母の回想 (小説)			16(T05)	「生命の川」 T05/10
詩	そぼ	素朴な愛<悦びの時編>			23(T12)	「詩聖」 T12/06
詩	そら	<空と樹木編>台所、東京へ、雪どけの日から	01 樹木	01	22(T11)	「詩聖」 T11/03
	そら	空と樹木	52 日光		72/12*	
詩	そら	空の恩寵			27(S02)	「炬火」 S02/05
	そら	空の黒片	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/08/16 夕[自然手帖 33]
詩	そん	存在	21 暦日	03		
詩	ぞう	<彫刻二題>首[造型篇の一]、トルソ[造形編の二]	21 暦日	03	47(S22)	「青年演劇」 S22/12
	ぞう	蔵書と読書	39 泉	09	62(S37)	「創文」 S37/10, 11
詩	たい	太陽にぬかづく (附写真)			29(S04)	「富士」 S04/12

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	たい	体験			64(S39)	「アルプ」 S39/08
	たい	対照的な二つの生命	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」 S47/09[音楽と求道 57]
詩	たい	待春抄(句)			49(S24)	「かびれ」 S24/05
	たい	態勢すでに成る一隣組長は語る			43(S18)	「週刊毎日」 S18/04/25
詩	たい	台風季の或る日から<山荘詩篇①>	16 歳月の歌	03	57(S32)	「山と高原」 S32/11
詩	たい	大詔奉載	14 糧		42(S17)	「文化日本」 S17/07
詩	たい	大詔奉載日の歌	14 糧			
	たい	大正十五年の作と人(アンケート)			26(T15)	「近代風景」 T15/12
	たい	大正十四年度作品批評(アンケート)			25(T14)	「日本詩人」 T14/12
詩	たい	大正池の朝			63(S38)	「旅」 S38/08
	たい	大陸をこえて	③		35(S10)	「書窓」 S10/06
	たか	『高村光太郎詩集』編纂者の後記			63(S38)	尾崎喜八編『世界の詩3・高村光太郎詩集』(弥生書房)S38/07
	たか	『高村光太郎全詩稿』のために	42 旋律			
	たか	高き潮のごとく	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/07[音楽と求道 43]
詩	たか	高井戸にて			26(T15)	「太平洋詩人」 T15/12
	たか	高村さんとの出会いの初め			66(S41)	「春秋」 S41/10
	たか	高村さんとの旅	41 衆讃歌	09	56(S31)	「文芸(臨時増刊号)」 S31/06
	たか	高村光太郎の手紙			57(S32)	「婦人朝日」 S32/07
	たか	高村光太郎恭敬	⑩		29(S04)	『現代詩人全集』月報4(新潮社)S04/10
	たか	高村光太郎訳『ロダンの言葉』解説			59(S34)	高村光太郎訳『ロダンの言葉』(平凡社)S34/08
	たか	高村光太郎論(島津謙太郎名義)	⑩		23(T12)	「詩聖」 T12/05
	たか	高田博厚『思い出と人々』(書評)			59(S34)	「東京新聞」 S34/08/24 夕
	たか	高田博厚との出会い	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」 S43/09[音楽と求道 09]
	たか	高田博厚君に就て	01 空と樹木			
	たき	焚火	30 詩文集 07	07	52(S27)	「新詩人」(戦後)S27/02
	たき	焚火と霜	30 詩文集 07	07		
	たけ	武田久吉『明治の山旅』(書評)			71(S46)	「週刊読書人」 S46/07/26
	たご	タゴールについて求められて	37 詩文集 08	08		
	たし	たしなみの美	41 衆讃歌		65/02*	
	たそ	たそがれの夢	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/09/13 夕[自然手帖 37]
	たそ	黄昏の飛行家	23 遠方	06	48*	
詩	たた	讃ふべきかな			43(S18)	「週刊少国民」 S18/12/12
	たて	「たてしなの歌」拾遺			34(S09)	「山小屋」 S09/10

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	たて	たてしなの歌	07 絵本	04	34(S09)	「山」S09/10
	たて	たてしなの歌 付記				串田孫一編『忘れえぬ山2』S47/05
	たて	蓼科高原			49(S24)	「月刊信毎」S24/04
	たに	他人のみ知る真の顔			51(S26)	「信濃毎日新聞」S26/10/29
	たに	谷間の憩い			63(S38)	「郵政」S38/09
	たの	楽しい家よいお国			44(S19)	「良い子の友」S19/08
詩	たの	楽しき登山(童話詩)			41(S16)	「小学(国民)四年生」S16/07
	たの	頼もしい人々			43(S18)	「朝日新聞」S18/01/07
	たび	「旅の写真帖からの写真と文」(附)写真			61(S36)	「小原流挿花」S36/09[野外と屋内16]
詩	たび	<旅二篇編>赤城展望、旅の友			29(S04)	「詩集」S04/07
詩	たび	旅	10 行人	02		
	たび	旅で知る妻	37 詩文集 08	08	62(S37)	「旅」S37/04
詩	たび	旅にて	16 組長			
	たび	旅に生きる	②		36(S11)	「文学案内」S11/12
	たび	旅のおはり →御所平と信州峠			35(S10)	「都新聞」S10/01/21
	たび	旅のたより	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」S36/09[野外と屋内16]
詩	たび	旅のめざめ	10 行人	02		
	たび	旅の宿	41 衆讃歌		63/02*	
	たび	旅の小鳥と庭のツグミ	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」S36/02[野外と屋内09]
詩	たび	旅の友<奥上州詩抄編>			31(S06)	「霧の旅」S06/05(№36)
詩	たび	旅の友<旅二篇編>			29(S04)	「詩集」S04/07
	たび	旅への祈り	12 風土	05	39(S14)	「山と高原」S14/10
	たま	「多摩川の尾崎先生を訪ねる」(附)写真			61(S36)	「小原流挿花」S36/10[野外と屋内17]
	たま	たまたまの余暇<清閑記>	41 衆讃歌		66(S41)	「アルプ」S41/08
詩	たま	玉のような時間	36 詩文集 03	03		
	たま	魂,そのめぐりあいの幸福	53 魂		71(S46)	「芸術新潮」S46/04[音楽と求道40]
	たま	多摩河原	22 視野	05		瀧井孝作編『文学に見る日本の川—多摩川—』(日本週報社)S35/
	たん	タンポポ(野外手帖から)	39 泉		63*	
詩	たん	単独行	26 孤独	03		
	たん	単独登撃のよろこび →単独登山			39(S14)	「書物展望」S14/07
	たん	単独登山 ←単独登撃のよろこび	12 風土	05	39(S14)	「書物展望」S14/07「単独登撃のよろこび」
詩	たん	単独飛行第一日			44(S19)	「詩研究」S19/08
詩	たん	旦暮孤啼(句)			49(S24)	「かびれ」S24/08

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	たん	淡烟草舎（句）			53(S28)	「俳句」 S28/05
詩	たん	短日	26 孤独	03		
	だい	「大街道」の初めて迎へる新年に際して			25(T14)	「大街道」 T14/02
	だい	「第九」の初演当時を顧みて	①		36(S11)	「フィルハーモニー」 S11/02
詩	だい	『第二の所有の歌』から			28(S03)	「近代風景」 S03/08
詩	だい	台所<空と樹木編>	01 樹木	01	22(T11)	「詩聖」 T11/03
詩	だい	大煙突	④		17(T06)	「生命の川」 T06/06
詩	だい	大号令下るの日	17 同胞			
詩	だい	大根	04 曠野	01		
詩	だい	大日小屋（金峰山）<遠い日の山小屋①>	49 詩文集 10	10	71(S46)	「アルプ」 S46/11
詩	だい	大飛行艇			43(S18)	「週刊少国民」 S18/02/28
	だい	大平原	22 視野	05	46(S21)	「文華」 S21/09
	だい	大菩薩嶺<大菩薩峠で>	12 風土	05	39(S14)	「東京朝日新聞」 S14/09/19
	だい	第一詩集の頃			54(S29)	『全詩集大成現代日本詩人全集 7』 月報「詩人と詩集」 4(創元社)S29/03
詩	だい	第三年を迎ふ	17 同胞			
	だい	第二の故郷	52 日光		69/05*	
詩	だい	第二次特別攻撃隊	17 同胞	02		
詩	だい	第二十回ウエストン祭[ウエストン祭朗読詩 S41]			66(S41)	『ウエストン祭』（日本山岳会信濃支部）S59
詩	だり	ダリヤ<日常生活編>			22(T11)	「白樺」 T11/08
詩	だる	達磨無用			44(S19)	「ちから」 S19/09/01
	ちい	ちいさい物	53 魂		46*	
	ちい	小さい傑作への讃歌（新春随想）	37 詩文集 08	08	62(S37)	「国立博物館ニュース」 S37/01
詩	ちい	小さい散歩から			69(S44)	「歷程」 S44/03
詩	ちい	小さい墓地	01 樹木	01		
	ちい	小さい旅(1)	37 詩文集 08	08	60(S35)	「小原流挿花」 S35/08[野外と屋内 03]
	ちい	小さい旅(2)	37 詩文集 08	08	60(S35)	「小原流挿花」 S35/09[野外と屋内 04]
	ちい	小さい旅人	23 遠方	06	50*	
	ちい	小さな美しい集まり	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/03[音楽と求道 15]
詩	ちい	地衣と星	25 新潮詩集	03	51(S26)	「アルビレオ」 S26/04
	ちえ	智恵子さんの思い出（一）	41 衆讃歌	09	65/03*	
	ちえ	智恵子さんの思い出（二）	41 衆讃歌	09	65/10*	
詩	ちか	ちかひの日			43(S18)	「少国民の友」 S18/12
詩	ちか	誓いの歩み			71(S46)	「文芸春秋」 S46/01

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	ちか	誓の日	16 組長		42(S17)	「東京新聞」 S17/12/08
詩	ちき	知己			23(T12)	「東京日日新聞」 T12/07/04
	ちた	知多半島の一角	41 衆讃歌	09	66/02*	
	ちち	秩父の王子	07 絵本	04	35(S10)	原全教著『奥秩父 続編』 朋文堂 S10/07
	ちち	秩父の牽く力	07 絵本	04	33(S08)	「山小屋」 S08/10
詩	ちち	秩父の早春	08 滞在	02	34(S09)	「山」 S09/02
詩	ちち	父の名	14 糧	02	42(S17)	「文芸春秋」 S17/06
詩	ちて	地底の戦士に寄す			44(S19)	「新太陽」 S19/02
	ちゆ	中世の秋とルネサンスの春	49 詩文集 10	10		
	ちゆ	中年のおもかげ	⑩(抄)		59(S34)	草野心平編『高村光太郎と智恵子』 S34/04 筑摩書房
詩	ちゆ	忠義な犬 (童話詩)			26(T15)	「幼年倶楽部」 T15/04
詩	ちゆ	忠魂に祈る	17 同胞			
詩	ちゆ	忠実な少年			25(T14)	「少年倶楽部」 T14/10
	ちゆ	忠霊塔建設勤労奉仕感想 (諸氏) (アンケート)			42(S17)	「日本学芸新聞」 S17/08/01
詩	ちよ	<朝鮮詩三つ編>帰路、朝丘の上、春が来る			20(T09)	「白樺」 T09/04
	ちよ	弔文・哀悼 (井上英子夫人追悼)			29(S04)	「詩集」 S04/06
詩	ちよ	彫刻 (ロワール河の～)	⑭		22(T11)	「日本詩人」 T11/04
詩	ちよ	彫刻 (鋳銅に～)			24(T13)	「日本詩人」 T13/08
詩	ちよ	朝丘の上<朝鮮詩三つ編>			20(T09)	「白樺」 T09/04
	ちよ	朝鮮より (手紙、赤羽王郎宛 1920.4.6)			20(T09)	「地上」 T09/09
詩	ちよ	朝鮮同胞に寄す	17 同胞			
詩	ちよ	朝鮮同胞の召さるゝを祝す			43(S18)	「新太陽」 S18/11
	ちよ	蝶によせる童心			56(S31)	「家の光」 S31/04
	ちよ	蝶の思ひ出とヘルマン・ヘッセ			38(S13)	「帝国大学新聞」 S13/03/21
	ちよ	蝶の渡海	22 視野	05		
	ちよ	蝶の標本とヘルマン・ヘッセ	09 草原	05		
	ちよ	頂上・雷雲・堰 (せんぎ)			69(S44)	串田孫一編集代表『山の ABC 3』 (創文社)S44/12
	ちよ	ちよっとひとこと (談)			52(S27)	「信濃毎日新聞」 S27/09/03
	つい	ついに聴いたフィガロ	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/11[音楽と求道 47]
詩	つい	追憶 (故木村泰雄に)	10 行人	02	27(S02)	「待望」 S02/01
詩	つい	追慕 (写真:大正天皇崩御,宮城前に泣く赤子の群れ)	17 同胞		27(S02)	「キング」 S02/03
	つう	ツヴァイク,片山敏彦訳『人類の星の時間』 (書評)			61(S36)	「みずず」 S36/07
	つう	通過列車	12 風土	05	40(S15)	「工業大学蔵前新聞」 S15/05
	つう	通信講座と自然番組と			70(S45)	「朝日新聞」 S45/01

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	つえ	杖突峠	25 新潮詩集	03	51(S26)	「詩学」 S26/06
詩	つき	月<日常生活編>	01 樹木		22(T11)	「白樺」 T11/08
詩	つき	月の宵 (田中頼璋筆)			29(S04)	「富士」 S04/08
詩	つき	月夜			23(T12)	「東京日日新聞」 T12/08/08
詩	つく	机の上	01 樹木			
	つじ	辻村太郎氏と近著「山」			40(S15)	「山小屋」 S15/07
詩	つち	土と落葉と水溜まり	04 曠野	01		
詩	つち	土に帰る	17 同胞			
詩	つづ	続けかしの歌	44 空の下	10		
	つま	妻とゆくウェストン祭			58(S33)	「旅」 S33/08
	つま	妻に (私の家の横手の～)	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」 S47/01[音楽と求道 49]
詩	つま	妻に (晚い午後のひとときを～)	40 田舎	10		
詩	つま	妻に<早春の歌編>			28(S03)	「生活者」 S03/02
	つま	妻への話	52 日光		70/01*	
	つめ	つめくさ色の空	18 麦刈			
詩	つゆ	梅雨の野川			24(T13)	「向日葵」 T13/07
詩	つゆ	梅雨晴れの日まで<風景編>			21(T10)	「新詩人」 T10/07
詩	つる	鶴来る			42(S17)	「読売報知新聞」 S17/09/08
詩	つわ	つはものの母の夢の歌 →つわものの母の歌	14 糧	02	42(S17)	「文芸春秋」 S17/07
詩	つわ	つわものの父の歌		02	44(S19)	「知性」 S19/04
詩	つわ	つわものの母の歌 ←つはものの母の夢の歌	25 新潮詩集			
	てー	T子の死 →愛人の死	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」 S43/07[音楽と求道 07]
	てい	停留所の自然界 ←日常の自然観察	12 風土		38(S13)	「いのち」 S13/07
詩	てい	帝国海軍への感謝			43(S18)	「大洋」 S18/05
詩	てい	帝国海軍を讃嘆す			43(S18)	「新若人」 S18/05
詩	てい	帝國海軍	17 同胞			
詩	てい	庭訓	14 糧	02	42(S17)	「婦人朝日」 S17/05
	てい	蹄鉄工	23 遠方	06	48*	
詩	てい	蹄鉄工<暦日抄>			48(S23)	「至上律」 S23/08
詩	てい	蹄鐵打ち	02 高層雲	01	23(T12)	「日本詩人」 T12/02
	てが	手紙	⑩		34(S09)	「詩精神」 S09/02
	てが	手紙 (百田宗治)			23(T12)	「日本詩人」 T12/11
詩	てき	敵前上陸成る	17 同胞			
詩	てに	テニスの試合	01 樹木	01	22(T11)	「詩聖」 T11/04

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	てん	天気と家庭生活			42(S17)	「日本女性」S17/05
詩	てん	天才偉人の頌			30(S05)	「現代」S05/12
詩	てん	天上沢	08 滞在	02		
詩	てん	天然の一日	04 曠野	01	25(T14)	「明星」T14/04
詩	てん	天地黎明（附口絵）			31(S06)	「キング」S06/01
	てん	天気圖放送	12 風土		40(S15)	「政界往来」S15/07
詩	てん	展望	26 孤独	03		
	てん	店頭の青げら	23 遠方	06	48*	
詩	てん	転調＜六月の詩から③＞	36 詩文集 03	03	59(S34)	「アルプ」S34/08
	であ	出会いのよろこび			62(S37)	「大法輪」S37/01
詩	であ	出合い	40 田舎	10	63(S38)	「山と高原」S38/08
	でゅ	デュアメルのかたみ	41 衆讃歌	09	66(S41)	「東京新聞」S41/04/16 夕
	でゅ	デュアメルの一訳者として			27(S02)	「バリゲート」S02/10
	でゅ	デュアメル訳書に添えて	42 旋律			
	でゅ	デュアメル追悼	41 衆讃歌	09	66/04*	
	でん	電話寸感	42 旋律		67(S42)	「ダイヤル」S42/03
	とう	「東京回顧」	42 旋律			
	とう	「東方」の創刊について			28(S03)	「東方」S03/05
詩	とう	凍死	13 高原	02		
詩	とう	東亜回天の大機			44(S19)	「読売報知新聞」S19/10/01
詩	とう	東京の秋	10 行人	02	26(T15)	「日本詩人」T15/10、
詩	とう	東京の秋			27(S02)	「若草」S02/10（現代詩人選集）
詩	とう	東京の秋（一九二七年詩集抄）＜或る朝のおもひ編＞			27(S02)	「抒情詩」S02/06
詩	とう	東京へ＜空と樹木編＞	01 樹木	01	22(T11)	「詩聖」T11/03
	とう	到着	21 暦日	06		
	とう	陶山篤太郎論（現代詩人小論一）			25(T14)	「日本詩人」T14/05
詩	とう	闘魂いよいよ熾烈			43(S18)	「読売報知新聞」S18/05/22
詩	とう	峠	16 歳月の歌	03	58(S33)	「アルプ」S33/04
詩	とう	峠の試作（押韻一四行詩）一馬籠峠・和田峠			63(S38)	「アルプ」S38/11
	とう	峠の早春	⑤		39(S14)	「報知新聞」S14/2/17
	とう	峠への道			62(S37)	「婦人之友」S37/05
詩	とう	峠路で →峠路（なんとなく春めいた～）	14 糧		42(S17)	「婦人公論」S17/03
詩	とお	＜遠い日の山小屋＞大日小屋、行者小屋、七丈ノ小屋、将棋頭ノ小屋	49 詩文集 10	10	71(S46)	「アルプ」S46/11
詩	とお	遠い空			24(T13)	「向日葵」T13/10

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	とお	遠い国での話	09 草原	05		
詩	とお	遠い分身	16 歳月の歌	03	55(S30)	「岳人」 S30/01
	とか	都会の冬と山野の冬			54(S29)	「旅」 S29/01
詩	とか	都会の黎明の雲に			28(S03)	「東方」 S03/05
詩	とか	都會にて	10 行人	02		
	とが	戸隠と妙高	09 草原	05	35(S10)	「都新聞」 S10/11/02～05
	とが	戸隠への思い			60(S35)	「日本の屋根」 S35/09
詩	とぎ	屠牛			25(T14)	「抒情詩」 T14/09
	とく	徳の曲折・繁栄の法則・天使の喇叭・八月四日の夜	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/08<わが庭の寓話 16]
詩	とく	特別攻撃隊	14 糧	02	42(S17)	「都新聞」 S17/03/08
詩	とぎ	<登山行三篇編> 途上、八ヶ岳横岳、輪鋒菊	08 滞在	02	29(S04)	「生活者」 S04/10
詩	とぎ	登山服	13 高原			
詩	とじ	途上<登山行三篇編>			29(S04)	「生活者」 S04/10
	とじ	途上のまなざし	39 泉		63*	
詩	とち	土地 ←国土	24 創元詩集			
	とち	橡の実	09 草原	05		
詩	とな	隣組菜園 →菜園	16 組長	02		
詩	とな	隣組常会を歌ふ			41(S16)	「キング」 S16/06
詩	とも	友			26(T15)	「生命」 T15/05
詩	とも	友（わたしは君と～）	08 滞在	02		
詩	とも	友（君の朝の～）	08 滞在	02		
詩	とも	友だちが帰つたあと	01 樹木	01		
	とも	友への手紙	37 詩文集 08	08		
詩	とも	友を待つ			26(T15)	「生命」 T15/05
詩	とり	「木曾の歌」から 鳥居峠<木曾の歌②>	16 歳月の歌	03	58(S33)	「アルプ」 S33/07
	とり	トリオ・ソナタの夕べ	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/01[音楽と求道 37]
	とり	鳥を見る二人の男	30 詩文集 07	07	53(S28)	「東京新聞」 S28/05/14
	とり	鳥居峠	37 詩文集 08	08	61(S36)	串田孫一編『峠』（有紀書房）S36/05
詩	とる	トルソ[造形編の二] <彫刻二題>	21 暦日	03	47(S22)	「青年演劇」 S22/12
詩	とる	トルソ（旧稿）			51(S26)	「アルビレオ」 S26/05
詩	とん	トンボの谷	44 空の下			
	どう	「道程」との出会い	42 旋律			
	どう	同族の魂	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/10[音楽と求道 34]
詩	どう	同族供木のすすめ	17 同胞			

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	どう	同胞と共にあり	17 同胞	02		
	どう	童話	22 視野	06	47(S22)	「高原」 S22/12
	どう	胴乱下げて ←植物採集会	07 絵本	04	30(S05)	「報知新聞」 S05/10/01～03
詩	どう	道義八紘に洽し	17 同胞		43(S18)	「中央公論」 S18/12
	どく	読者の作品・詩・選者の言葉			42(S17)	「日本文芸」 S17/11
	どく	読者文芸・詩選評			31(S06)	「若草」 S06/01～12
	どく	読者文芸・詩選評			42(S17)	「文庫」 S17/05～12
	どく	読者文芸・詩選評			43(S18)	「文庫」 S18/01～12
	どく	読者文芸・詩選評			44(S19)	「文庫」 S19/01～02?
	どく	読書余録			27(S02)	「都新聞」 S02/01/29～02/02
	どび	ドビュッシーのバガテル	39 泉	09	62(S37)	「同時代」 S37/09
詩	どよ	土曜日の夜の帰宅			26(T15)	「日本詩人」 T15/06
詩	どよ	土用の入	02 高層雲	01		
	なか	中西悟堂論（現代詩人小論第三）			26(T15)	「日本詩人」 T15/01
詩	なか	中野秀人の首	10 行人	02	28(S03)	「詩集」 S03/01
詩	なか	仲間				伊藤信吉監修『新訂学校詩集』 S04/
詩	なか	仲間			59(S34)	「山と高原」 S34/01
詩	なぐ	慰め	10 行人	02		
詩	なこ	勿来（なこそ）関趾吟行（俳句）			43(S18)	「かびれ」 S18/06
	なす	那須高原と久慈溪谷	39 泉	09	63*	
	なつ	夏	12 風土		26/07*	
	なつ	夏・山・高山植物－山日記から →「山日記」から	07 絵本		34(S09)	「蠟人形」 S09/08
詩	なつ	夏から秋へ			28(S03)	「現代」 S03/09
	なつ	夏から秋への一日	37 詩文集 08	08	60(S35)	「小原流挿花」 S35/11[野外と屋内 06]
	なつ	夏が又来た	12 風土	05	39(S14)	「アサヒカメラ」 S14/07
	なつ	夏の花	49 詩文集 10	10	71(S46)	「植物と文化 1971・夏」 S46/08
詩	なつ	夏の最後の薔薇	26 孤独	03		
詩	なつ	夏の小鳥が…	26 孤独	03	49(S24)	「つめくさ」 S24/10、「星雲」 S26/02
	なつ	夏の焦燥	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/08/02 夕[自然手帖 31]
詩	なつ	夏の村落			49(S24)	「つめくさ」 S24/01
	なつ	夏の武蔵野で	12 風土		26(T15)	「現代」 T15/07,08
詩	なつ	夏への準備	36 詩文集 03	03	63(S38)	「歷程」 S38/03
詩	なつ	夏雲			22(T11)	「途上に現はれるもの」 T11/07
詩	なつ	夏雲（雷雨の雲が～）	26 孤独	03	49(S24)	「山と溪谷」 S24/07

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	なつ	夏雲の下を(附写真)			30(S05)	「富士」S05/07
詩	なつ	夏霞の巻(歌仙-行人・波之)			49(S24)	「かびれ」S24/10
詩	なつ	夏休みを待ちつつ(夏休みを待ちながら?)			30(S05)	「少年倶楽部」S05/08
詩	なつ	夏行	44 空の下	10		
	なつ	夏山はあなたを魅惑する			55(S30)	「旅」S30/03
	なつ	夏山へ			57(S32)	「信濃毎日新聞」S32/07/03
	なつ	夏山讃歌—上高地			68(S43)	「東京新聞」S43/07/02 夕
詩	なつ	夏山思慕	13 高原	02		
詩	なつ	夏野	08 滞在	02	28(S03)	「東方」S03/07
詩	なつ	夏野のトラジック			31(S06)	「若草」S06/07
詩	なつ	夏野の花(ヘッセの或る詩へのヴァリアチオン)	24 創元詩集	03	48(S23)	「蠟人形」S23/09
詩	なつ	懐かしの信州元旦			56(S31)	「SBCニュース」S31/01/01
	なみ	波のように	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」S37/02/15 夕[自然手帖 07]
詩	なら	「木曾の歌」から 奈良井<木曾の歌①>	16 歳月の歌	03	58(S33)	「アルプ」S33/07
詩	なん	南信元旦			49(S24)	「信陽新聞」S24/01/01
	にが	二月の周囲			53(S28)	「創元」S28/03
詩	にが	二月の春			59(S34)	「東京新聞」S34/02/01 夕
	にが	二月の春<碧い遠方から>	23 遠方	06	51(S26)	「かびれ」S26/01
詩	にし	<『西風の歌』から>女と葡萄園、目木	16 歳月の歌	03	55(S30)	「詩学」S30/11
	にし	西伊豆の海と丘	39 泉	09	62*	
	にし	西穂高	23 遠方	06	48(S23)	「信州自治」S23/08
	にじ	二十回目のウェストン祭			69(S44)	「旅」S44/08
詩	にじ	二十五年	36 詩文集 03	03	55(S30)	「山と溪谷」S30/04
	にじ	虹	23 遠方/⑨	06	50*	
詩	にじ	虹鱒養魚場風景・訪問			34(S09)	「日本詩」S09/09
詩	にち	<日常生活編>ダリヤ、月、遙かに私の村が、貧しき漁夫			22(T11)	「白樺」T11/08
	にち	日常の自然観察 (一)停留所の自然界・(二)雲の観測 →停留所の自然界			38(S13)	「いのち」S13/07
詩	にち	日常臣道			41(S16)	「キング」S16/04
詩	にち	日没の時	02 高層雲	01		
詩	にち	日没時の蝶	26 孤独	03		
	にっ	Nikki kara			23(T12)	「ローマ字」T12/08
	にっ	日記			25(T14)	「純文学」T14/09
	にっ	日記から (一)	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」S36/05[野外と屋内 12]
	にっ	日記から (二)	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」S36/08[野外と屋内 15]

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	にっ	日記の断片(一)			22(T11)	「日本勸業銀行月報」 T11/10
	にっ	日記の断片(二)			22(T11)	「日本勸業銀行月報」 T11/11
	にっ	日記収録其他			25(T14)	「純文学」 T14/10
	にほ	「日本鳥学会編・日本鳥類生態写真図集」を見て			36(S11)	「野鳥」 S11/01
詩	にほ	日本の歌			27(S02)	「キング」 S02/01
詩	にほ	日本の眼	10 行人	02	28(S03)	「魁火」 S03/02
	にほ	日本の山おとこ	12 風土		39(S14)	「知性」 S14/08
詩	にほ	日本の自然と少女			25(T14)	「少女倶楽部」 T14/12
詩	にほ	日本の初秋			27(S02)	「雄弁」 S02/09
詩	にほ	日本の朝			26(T15)	「少年倶楽部」 T15/05
	にほ	日本の母—島根県・岡村トキさん			42(S17)	「読売報知新聞」 S17/10/03
	にほ	日本昆虫記(書評)			59(S34)	「読売新聞」 S34/08/02
	にゅ	ニュース写真と時局下の歌 →写真と歌と	09 草原①		38(S13)	「フィルハーモニー」 S13/01
	にゅ	入笠山	23 遠方	06	49*	
	にゅ	入笠山 私の好きな十月の山			49(S24)	「山」 S24/10
	にゅ	入笠山にて	22 視野	06		
	にゅ	入笠小屋	23 遠方	06	51(S26)	「新ハイキング」 S26/01
詩	にわ	鶏			21(T10)	「時事新報」 T10/11/13
	にわ	庭の裁断師	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/06/21 夕[自然手帖 25]
	にん	人間の情の映り →人間の絆	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/04[音楽と求道 28]
	ねこ	ネコヤナギ(野外手帖から)	39 泉		63*	
詩	ねざ	寝覚(木曾の歌から)	16 歳月の歌	03	58(S33)	「アルビレオ」 S33/07
	ねず	鼠狩・更に大いなる力の場合・哲学者の夢	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/01<わが庭の寓話 09]
詩	ねっ	熱狂	10 行人	02	26(T15)	「詩歌時代」 T15/07、「日本詩人」 T15/08
詩	ねっ	熱望			22(T11)	「生長する星の群」 T11/07
詩	ねむ	ねむの花			22(T11)	「嵐」 T11/09
詩	ねむ	眠られぬ夜に(安川定男君夫妻に) <早春の詩帖から②>	36 詩文集 03	03	59(S34)	「アルプ」 S34/05
詩	ねむ	眠られぬ夜のために<一月編>	02 高層雲	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/02
	ねん	年輪の含蓄	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/12/26 夕[自然手帖 52]
	ねん	念場原・野辺山原	07 絵本	04	32(S07)	「山小屋」 S07/12
	ねん	念場ヶ原・野辺山原(承前)			33(S08)	「山小屋」 S08/01
	ねん	念場ヶ原・野辺山原(三)			33(S08)	「山小屋」 S08/02
詩	のあ	野薊の娘	01 樹木	01	21(T10)	「新詩人」 T10/10
	のう	能力についての短い問答・流寓の苦しみ・使者・しあわせな道路・路上の話題	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/07<わが庭の寓話 15]

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	のう	農場の夫人	26 孤独		51(S26)	「装苑」 S26/11
	のう	農村に感謝す			31(S06)	「雄弁」 S06/12
詩	のう	農村に期待す	17 同胞		43(S18)	「青年」 S18/10
	のう	農村の事				木村荘太『林園賦―新農場生活記』(建設社)S10/04
	のう	農村の手(‘時評’編)			28(S03)	「都新聞」 S03/09/14
詩	のう	農村新年			43(S18)	「同盟グラフ」 S18/01
詩	のう	農夫の歌			28(S03)	「現代」 S03/12
詩	のう	野梅(田中頼璋筆)			29(S04)	「富士」 S04/02
詩	のと	能登吟行(句)			46(S21)	「かびれ」 S21/09
	のの	野のキリスト者	49 詩文集 10	10	69*	
詩	のの	野の搾乳場	02 高層雲	01	23(T12)	「詩聖」 T12/01 (日本現代詩十人集)
詩	のの	野の小川	02 高層雲	01		
詩	のの	野の仏	40 田舎			
	のの	野の夢想			23(T12)	「日本詩人」 T12/11
	のば	野薔薇	21 暦日	06		
詩	のべ	野辺山にて			52(S27)	「新女苑」 S27/08
	のべ	野辺山の原越えて →御所平と信州峠			35(S10)	「都新聞」 S10/01/19
	のべ	野辺山の思い出			69(S44)	『旅情 3 高原』(主婦と生活社)S44/03
詩	のべ	野辺山ノ原	13 高原	02		
詩	のら	野良の初冬	10 行人	02	37(S12)	「山小屋」 S12/01
	のる	ノルウェイ・バンド	09 草原	05	36(S11)	「歷程」 S11/11
	はい	ハイキング私見	07 絵本	04	34(S09)	「文芸春秋」 S09/06
詩	はい	ハインリッヒ・シュッツ	40 田舎	10		
	はい	灰のクリスマス	09 草原	05	37(S12)	「ケルン」 S12/02
詩	はい	背囊			43(S18)	「週刊婦人朝日」 S18/04/28
詩	はえ	蠅			22(T11)	「読売新聞」 T11/09/19
	はが	葉書	④		50(S25)	「富士見日記から」の前後(S25)、妻・娘 宛
	はく	白山小桜の歌(おりおりの日記から)	42 旋律		69(S44)	「アルプ」 S44/01
	はぐ	育くまれゆく荒鷺			43(S18)	「オール読物」 S18/12
詩	はし	橋			22(T11)	「嵐」 T11/05
	はじ	初めて「郷愁」を読んだころ	42 旋律			
	はじ	初めて会った日の高村さん			56(S31)	「新女苑」 S31/06
	はじ	初めて見たアトリエ	41 衆讃歌	09	56*	
	はじ	初めに驚きありき	09 草原	05	35(S10)	「登山とはいきんぐ」 S10/12

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
						高橋・黒田・角田編『山岳講座 6』(共立社)S11/04 <さすらひと知見の旅>
詩	はた	旗	25 新潮詩集	03		
詩	はた	働く女性	17 同胞			
詩	はた	働ケ働ケヨイ子供 (童話詩)			45(S20)	「良い子の友」 S20/01”
	はた	畑中の小さい巢	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」 S43/12[音楽と求道 12]
詩	はだ	はだら雪の頃			35(S10)	「山」 S10/05
詩	はち	八月			57(S32)	「産経時事新聞」 S32/08/01
詩	はち	八月の花畠	26 孤独	03		
	はつ	はつなつの歌 →初夏の歌	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/05/10 夕[自然手帖 19]
詩	はつ	初蝶	26 孤独	03		
	はと	「葉と風との世界」の詩人へ			56(S31)	「同時代」 S31/10
	はど	ハドス的な冬の日	23 遠方	06	49*	
詩	はな	花に包まれた田舎家			49(S24)	「つめくさ」 S24/08
	はな	花の写生(野外手帖から)	39 泉		63*	
	はな	花の生態 (写真と解説)			44(S19)	「写真科学」 S19/03
	はな	花の電話 尾崎喜八十串田孫一			71(S46)	「ガーデンライフ」 S46/04
詩	はな	花環			44(S19)	「日本少女」 S19/04
詩	はな	花咲く頃 (北原節子さんに)			62(S37)	「アルビレオ」 S37/12
詩	はは	母<人は生きる編>	02 高層雲	01	23(T12)	「日本詩人」 T12/11
詩	はは	母さま			32(S07)	「婦人倶楽部」 S07/02
詩	はは	母と子	17 同胞			
詩	はは	母の愛			30(S05)	「富士」 S05/10
詩	はは	母の幸			43(S18)	「主婦之友」 S18/02
詩	はま	浜辺で<生活三態②> →浜辺	49 詩文集 10	10	73(S48)	「歷程大冊」 S48/06
詩	はや	隼	04 曠野	01	25(T14)	「詩と版画」 T14/01
詩	はや	林のプロブレム			24(T13)	「日本詩人」 T13/10
詩	はや	林をぬけて			27(S02)	「待望」 S02/01
	はや	林町のアトリエ	⑩		66(S41)	『日本詩人全集』月報 9(新潮社)S41/11
	はら	腹黒・ジャム・墓所の選定	50 寓話		71(S46)	「ガーデンライフ」 S46/06<わが庭の寓話 02]
詩	はり	針の木にて			56(S31)	「旅」 S31/08
詩	はる	『春の試み』から			29(S04)	「詩集」 S04/04
詩	はる	<春の詩四つ編>朝の我家、午前の歌、麦畑の落日、眼			24(T13)	「婦人公論」 T13/05
詩	はる	<春の試みから編>いぬのふぐり、山麓の町から			29(S04)	「詩集」 S04/05

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	はる	はるかな泉			68(S43)	「いづみ」 S43/02
	はる	春	09 草原	05		
詩	はる	春			43(S18)	「週刊婦人朝日」 S18/04/21
詩	はる	春が来る<朝鮮詩三つ編>			20(T09)	「白樺」 T09/04
	はる	春の雲	23 遠方	06	49(S24)	「山」 S24/04
	はる	春の帰途 ←夕日の時	12 風土	05	39(S14)	「アサヒスポーツ」 S14/05/15
	はる	春の丘陵 ←春の山あるき	07 絵本	04	34(S09)	「都新聞」 S09/03/11~14
	はる	春の告知	30 詩文集 07	07	55(S30)	「東京新聞」 S30/03/09
	はる	春の山あるき →春の丘陵	07 絵本	04	34(S09)	「都新聞」 S09/03/11~14
詩	はる	春の山にて →早春の山にて？	13 高原？		38(S13)	「山小屋」 S13/05
	はる	春の思ひ出 (その一節)			57(S32)	「山と高原」 S32/05
詩	はる	春の食事			23(T12)	「新詩潮」 T12/06
詩	はる	春の前夜 (藤木九三君に)	36 詩文集 03	03	59(S34)	「東京新聞」 S34/03/01 夕、 「アルプ」 S34/05 <早春の詩帖から①>
詩	はる	春の谷間	17 同胞	02		
	はる	春の田園詩	30 詩文集 07	07		
詩	はる	春の徒歩旅行			34(S09)	「雄弁」 S09/05
詩	はる	春の彼岸	26 孤独	03		
	はる	春の美ヶ原				高橋・黒田・角田編『山岳講座 6』(共立社)S11/04 <さすらひと知見の旅>
	はる	春の美ヶ原 (旧作)			50(S25)	「旅と信濃」 S25/07
詩	はる	春の葡萄山 (甲州勝沼所見)	40 田舎	10	63(S38)	「山と高原」 S38/06、「歷程」 S40/06<春二篇②>
詩	はる	春の牧場で →春の牧場？	13 創元詩集?		51(S26)	「歷程」 S26/02
	はる	春の夕暮から夜へ (片山敏彦に)			29(S04)	「詩集」S04/05
	はる	春はふたたび	53 魂		47*	
	はる	春を呼ぶ (野外手帖から)	39 泉		63*	
	はる	春を待ちつつ (野外手帖から)	39 泉		63*	
詩	はる	春を待つ間	04 曠野	01		
	はる	春を待つ山	39 泉	09	64*	
	はる	春浅き海と山	37 詩文集 08	08		
詩	はる	春浅き	13 高原	02	40(S15)	「キング」 S15/03
詩	はる	遙かに私の村が<日常生活編>			22(T11)	「白樺」 T11/08
	はる	遙かな空の下から	12 風土		24(T13)	「東京朝日新聞」 T13/04/05,06
詩	はん	はんの木の花			25(T14)	「抒情詩」 T14/05

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	はん	反響	26 孤独	03		
詩	ばー	バー・モウ長官一行を迎ふ	17 同胞			
詩	ばー	バーモ氏一行に贈る			43(S18)	「東京新聞」 S18/03/19
	ばっ	バッハとシュツ	⑥		64(S39)	「レコード芸術」 S39/3
詩	ばっ	バッハの「復活オラトリオ」から	44 空の下			
	ばっ	バッハのオルガン音楽	49 詩文集 10	10		
	ばっ	バッハの音楽			71(S46)	「アルヒーフ」 S46/02
	ばっ	バッハの感動			63(S38)	「東京新聞」 S38/12/16 夕
詩	ばっ	バッハの夕空	10 行人	02		
	ばっ	バッハへの思い (この幾年～)	⑥		63(S38)	「音楽之友」 S38/4
	ばっ	バッハへの思い (バッハが私に与えるものは～)	39 泉	09	63-64*	
	ばっ	バッハへ傾く心	42 旋律			
	ばっ	バッハをめぐって (一)	41 衆讃歌		65/03*	
	ばっ	バッハをめぐって (二)	41 衆讃歌		65/09*	
	ばっ	バッハ音楽への感謝	49 詩文集 10	10		
詩	ばっ	バッハ的な夕暮 →バッハの夕空?			26(T15)	「日本詩人」 T15/11
	ばろ	バロック音楽と私	53 魂		72(S47)	「芸術新潮」 S47/08[音楽と求道 56]
詩	ばん	挽歌－亡き友,画家木村泰雄に	10 行人	02	26(T15)	「日本詩人」 T15/04
詩	ばん	晩夏	02 高層雲	01	23(T12)	「読売新聞」 T12/08/30
	ばん	晩夏 (九州北西部から～)	30 詩文集 07	07		
	ばん	晩夏 (八月末の～)	21 暦日	06		
	ばん	晩夏の詩の花	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/08/30 夕[自然手帖 35]
詩	ばん	晩夏初秋 (句)			51(S26)	「アルビレオ」 S26/10
詩	ばん	晩餐			23(T12)	「読売新聞」 T12/12/05
詩	ばん	晩秋			30(S05)	「婦人倶楽部」 S05/11
詩	ばん	晩秋			51(S26)	「アルビレオ」 S26/12
詩	ばん	晩秋 (つめたい池に～)	25 新潮詩集	03		
	ばん	晩秋 (十月なかばから～)	30 詩文集 07	07	58(S33)	「季節 詩の手帖」 S33/01
詩	ばん	晩秋の雲雀ヶ岡 (附写真)			31(S06)	「キング」 S06/10
	ばん	晩秋の午後の夢想	41 衆讃歌	09	66(S41)	『高村光太郎全詩集』附録(新潮社)S41/01
詩	ばん	晩秋の高原にて			44(S19)	「日本詩」 S19/12
詩	ばん	晩秋の庭で	26 孤独	03		
	ばん	晩秋の日記から－11・5,11・6,11・8,11・13,11・15			57(S32)	「季節 詩の手帖」 S32/02
	ばん	晩秋初冬の高原にて			52(S27)	「旅」 S27/12

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	ばん	晩春の或る午後	37 詩文集 08	08		
	ばん	晩春の午後 →晩春の或る午後？			60(S35)	「読売新聞」 S35/05/02 夕
	ばん	晩春の山旅			31(S06)	「若草」 S06/04
詩	ばん	晩年のベルリオーズ	44 空の下		66(S41)	「世界像」 S41/10、「アルプ」 S42/04 <去年の春に書いた詩二題②>
	ばん	晩年のベルリオーズ	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」 S47/04[音楽と求道 52]
詩	ばん	番所の原	49 詩文集 10	10		
	ばん	磐梯	⑮		52(S27)	「俳句」 S27/09
	ばい	パイヤールと今日	54 風光		72(S47)	「芸術新潮」 S47/07[音楽と求道 55]
	ばい	パイヤールの印象	42 旋律			
詩	ばす	Pastoral Scolastique	26 孤独	03		
詩	ひか	光を浴びて・春の旅牧場（附写真）			35(S10)	「雄弁」 S10/03
	ひか	日掛貯金箱			43(S18)	「オール読物」 S18/08
詩	ひか	日川 ←日川の谷	08 滞在	02		
詩	ひか	日川の谷 →日川	13 高原			
詩	ひが	彼岸			50(S25)	「つめくさ」 S25/04
	ひき	ヒキガエルの春（野外手帖から）	39 泉		63*	
詩	ひき	曳船の舵手	04 曠野	01	24(T13)	「向日葵」 T13/11・12 合、「日本詩人」 T14/01
詩	ひさ	久方の山	36 詩文集 03	03	58(S33)	「山と高原」 S33/01
詩	ひぜ	碑前にて[ウエストン祭朗読詩 S40]			65(S40)	『ウエストン祭』（日本山岳会信濃支部）S59
詩	ひそ	ひそかな春	49 詩文集 10	10		
詩	ひた	日立の巻（連句—行人・孤悠・爽青）			50(S25)	「かびれ」 S25/04
詩	ひと	<人は生きる編> 音楽、毛編みのジャケット、古典の空、蘇生の時、母、再び芸術に帰る、もず			23(T12)	「日本詩人」 T12/11
	ひと	ひとりの山	42 旋律			
詩	ひと	ひとりの山<「日々の歌」から②>	40 田舎	10	62(S37)	「アルプ」 S37/02
詩	ひと	ひとり者の最後の春<生活二編①>	04 曠野		24(T13)	「日本詩人」 T13/03
詩	ひと	一つのイメージ	44 空の下	10		
詩	ひと	一つの想像			69(S44)?	『人類ついに月に立つ』 (日本ビクター EPレコード) S44
詩	ひと	一つの望みくよるこばしい冬編>			24(T13)	「日本詩人」 T13/01
詩	ひと	人に			22(T11)	「詩聖」 T11/02
詩	ひと	人のいない牧場	26 孤独	03		
詩	ひと	人のなさけ			38(S13)	「キング」 S13/10
詩	ひと	独り山に登る時			62(S37)	「毎日新聞」 S37/01/05 夕

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	ひな	雛祭 (附写真)			30(S05)	「富士」 S05/03
	ひな	雛鳥記	23 遠方	06	48*	
詩	ひの	日の哀歌	10 行人	02		
詩	ひの	日の暮<親密な詩四つ (現代詩壇鳥瞰) 編>	02 高層雲	01	23(T12)	「改造」 T12/08
詩	ひば	雲雀	01 樹木	01		
詩	ひば	火花散る北門の春			43(S18)	「読売報知新聞」 S18/05/15
詩	ひび	<「日々の歌」から>砂丘にて、ひとりの山、いたるところに			62(S37)	「アルプ」 S37/02
詩	ひぼ	非凡の力は高原より (附写真)			29(S04)	「キング」 S04/03
詩	ひま	ヒマラヤの空に思う			64(S39)	「信濃毎日新聞」 S39/04/19
	ひめ	姫川峡谷地帯<写真に寄せて>	52 日光		71(S46)	「小原流挿花」 S46/09[表紙によせて 08]
詩	ひも	紐	49 詩文集 10	10		
	ひゅ	ヒューマニズムの詩と詩人―座談会・伊藤信吉・山室静			66(S41)	「文学」 S41/08
	ひら	開かざりし花			50(S25)	「日本山岳会信濃支部報」 S25/07
詩	ひら	平戸島への消息	04 曠野	01	25(T14)	「日本詩人」 T14/07
	ひろ	「広重・英泉木曾海道六十九次 (世界名画全集別巻)」 (書評)			61(S36)	「週刊読書人」 S36/04/24
詩	びし	美酒のやうな幸福 (附写真)			40(S15)	「婦人公論」 S15/07
	びせ	微生物に思う	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/12/13 夕[自然手帖 50]
	びの	美の哀愁	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/04/19 夕[自然手帖 16]
	びよ	病院にて<折々の記>	46 鎌倉	09		
詩	びよ	病院船の山本提督	17 同胞			
	びあ	ピアノに寄せて	⑥		71(S46)	「ピアノ通信」 S46/1
	びあ	ピアノ三重奏の夕べ	54 風光		71(S46)	「芸術新潮」 S46/12[音楽と求道 48]
	ふー	Who's who (本人回答) (アンケート)			32(S07)	「読売新聞」 S07/02/09
	ふー	フーゴー・ヴォルフの歌	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/08[音楽と求道 20]
	ふー	フルニエの演奏	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」 S47/11[音楽と求道 59]
詩	ふい	比律賓建國への祝詞	17 同胞			
詩	ふう	風景			55(S30)	「近代詩獵」 S30/07
詩	ふう	風景			58(S33)	「山と高原」 S33/07
詩	ふう	風景 (太陽と紫外線と～)	16 歳月の歌	03		
詩	ふう	風景<風景編>			21(T10)	「新詩人」 T10/07
詩	ふう	風景<風景編>スイートピー、梅雨晴れの日まで、風景			21(T10)	「新詩人」 T10/07
詩	ふう	風景画家			26(T15)	「抒情詩」 T15/04
詩	ふう	風月無為 (附絵)			35(S10)	「雄弁」 S10/08
詩	ふえ	フェノコドモ (童話詩)			39(S14)	「コドモノクニ」 S14/02

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	ふえ	笛			52(S27)	「新しい学校」 S27/08
	ふえ	笛（四月のなかば〜）	30 詩文集 07	07	52*	NHK 編『第二放送随筆』（日本出版共同）S28/11
	ふえ	笛とレコード	42 旋律		67(S42)	「FMfan」 S42/05
	ふお	フォッサマグナ			71(S46)	「小原流挿花」 S46/02[表紙によせて 01]
	ふか	深田久弥『わが愛する山々』（書評）			61(S36)	「週刊読書人」 S36/06/19
詩	ふざ	不在	40 田舎	10		
詩	ふじ	藤の花房ージャン・ジオノに			38(S13)	「三十日」 S13/05
詩	ふじ	富士と戦車と少年兵			43(S18)	「新太陽」 S18/06
	ふじ	富士見・霧氷・ウェストン祭			62(S37)	串田孫一編集代表『山の ABC 2』（創文社）S37/12
詩	ふじ	富士見に生きて				『高原の自然と文化』第 4 号 (富士見の自然と文化を守る会)S55
	ふじ	富士見の夏草の果てに	④		60(S35)	「東京新聞」 S35/06/18
	ふじ	富士見紀行	39 泉	09	62*	
	ふじ	富士見高原に想う	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/09[音楽と求道 21]
	ふじ	富士見時代の「天気図リーフ」	⑨			
	ふじ	富士見日記（昭和 21/08/15〜12/1）	⑩		46(S21)	尾崎喜八遺稿より
	ふじ	富士見日記から（昭和 25/1/31〜）	④		59(S34)	「歷程」 S34/03（尾崎喜八特集）
	ふた	<二つの歌>秋の歌、冬の歌	22 視野	05		
	ふた	ふたたびの春ー光太郎氏の一周忌を迎えて	41 衆議歌	09	57(S32)	「東京新聞」 S32/03/30 夕
詩	ふた	再び芸術に帰る<人は生きる編>			23(T12)	「日本詩人」 T12/11
	ふた	二つの『マタイ受難曲』	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/05[音楽と求道 17]
詩	ふた	二つの現実	44 空の下			
	ふた	二つの星ーロランと高村光太郎	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」 S43/04[音楽と求道 04]
	ふた	二つの朝			36(S11)	「歷程」 S11/10
詩	ふた	二つの美			57(S32)	「家の光」 S32/07
	ふた	二人の女友達とモーツァルト	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」 S47/02[音楽と求道 50]
詩	ふっ	『復活祭オラトリオ』から			69(S44)	「歷程」 S44/03
	ふっ	復活祭	30 詩文集 07	07	54(S29)	「学鑑」 S29/04
詩	ふっ	復活祭（天は笑い〜）	44 空の下	10	67?	不明、「アルプ」 S42/04<去年の春に書いた詩二題①>
詩	ふっ	復活祭（木々を〜）	25 新潮詩集	03	51(S26)	「新女苑」 S26/05
詩	ふっ	復活祭の高原	40 田舎	10		
	ふっ	復活祭の日に	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/04[音楽と求道 16]
詩	ふね	船をつくれ	17 同胞			
	ふふ	不服			18(T07)	「読売新聞」 T07/05/07

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	ふみ	踏み止まる一群の者 (ルネ アルコスに)			27(S02)	「バリケード」 S02/09
詩	ふも	フモレスケ	26 孤独	03		
	ふゆ	「冬花帖」と其境地			29(S04)	「現代詩評」 S04/03
詩	ふゆ	冬	04 曠野	01	25(T14)	「大街道」 T14/02
	ふゆ	冬と音楽の思い出から			66(S41)	「アルプ」 S41/01
	ふゆ	冬にもなお緑	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/12/20 夕[自然手帖 51]
詩	ふゆ	冬のころ	26 孤独	03	54(S29)	「いづみ」 S29/01
詩	ふゆ	冬のはじめ	25 新潮詩集	03		
	ふゆ	冬の或る日	41 衆讃歌		65/11*	
	ふゆ	冬の歌<二つの歌>	22 視野	05		
詩	ふゆ	冬の花抄 (句)			47(S22)	「かびれ」 S22/04
詩	ふゆ	冬の雅歌	40 田舎	10	65(S40)	「文芸春秋」 S40/02、 「アルプ」 S40/07<三つの歌>
	ふゆ	冬の雅歌			68(S43)	「芸術新潮」 S43/03[音楽と求道 03]
詩	ふゆ	冬の宵			21(T10)	「時事新報」 T10/12/25
	ふゆ	冬の庭	30 詩文集 07	07	56(S31)	日本放送協会編『随筆春秋』(東西文明社)S31/08
詩	ふゆ	冬の田舎	01 樹木	01	22(T11)	「読売新聞」 T11/02/21
	ふゆ	冬の途上	18 麦刈	05		
詩	ふゆ	冬の檜林<よろこばしい冬編>			24(T13)	「日本詩人」 T13/01
	ふゆ	冬の日記から	39 泉	09	63*	
詩	ふゆ	冬の木立	02 高層雲	01		
	ふゆ	冬の旅の思ひ出・好きな冬の旅行地 (諸氏) (アンケート)			37(S12)	「アサヒカメラ」 S12/02
詩	ふゆ	冬の林	04 曠野	01		
詩	ふゆ	冬の蠅 →秋の蠅	04 曠野	01	25(T14)	「明星」 T14/02
	ふゆ	冬空の下	21 暦日	06		
詩	ふゆ	冬空を称ふ	01 樹木	01	22(T11)	「日本詩人」 T11/02
	ふゆ	冬晴れ	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」 S36/03[野外と屋内 10]
詩	ふゆ	冬物語 - 吾家族に			34(S09)	「山小屋」 S09/02
	ふゆ	冬物語の一幕			56(S31)	日本放送協会編『随筆春秋』(東西文明社)S31/08
詩	ふゆ	冬暮の歌			23(T12)	「東京朝日新聞」 T12/12/13
詩	ふゆ	冬木立			23(T12)	「極光」 T12/01
	ふゆ	冬木立			28(S03)	「雄弁」 S03/12
詩	ふゆ	冬夜			63(S38)	「山と高原」 S38/02
詩	ふゆ	冬野	21 暦日	03	56(S31)	「詩学」 S31/01 (55年度代表作品集)

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	ふら	フランスの話			34(S09)	「日本詩」 S09/09
詩	ふる	ふるさと (附写真)			30(S05)	「富士」 S05/12?
	ふる	ふるさとの一角	41 衆讃歌		65/09*	
	ふる	ふるさとの水の上に	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/02/08 夕[自然手帖 06]
	ふる	フルートの音色			65(S40)	「日本経済新聞」 S40/07/21 夕
詩	ふる	古い山の地図を前に →古い山の地図を前にして	44 空の下	10	68(S43)	「アルプ」 S43/08
	ふる	古い手箱と「別れの曲」	42 旋律			
	ふる	古い友に (陶山篤太郎特集)			28(S03)	「詩集」 S03/07
詩	ふる	古い来し方 →古いこしかた	02 高層雲	01	23(T12)	「日本詩人」 T12/08
	ふる	古沢淑子さんのスタディオで	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/02[音楽と求道 38]
詩	ふん	噴水ーガブリエル・フォーレのピアノ夜曲に寄せて	20 残花		46(S21)	「蠟人形」 S21/09
	ぶく	ブクステフーデ	41 衆讃歌		65/11*	
	ぶさ	無作法者・詩人と獅子・利口な花売り娘	50 寓話		72(S47)	「ガーデンライフ」 S47/11<わが庭の寓話 19]
詩	ぶし	武州烏山 (散文詩) →或友に			27(S02)	「待望」 S02/01
詩	ぶど	葡萄の秋			55(S30)	「旅」 S30/11
詩	ぶど	葡萄の國	26 孤独	03		
詩	ぶど	葡萄園にて	26 孤独	03		
	ぶら	ブランデンブルク・コンチェルト (第三)	①		30(S05)	「フィルハーモニー」 S05/07
詩	ぶら	ブランデンブルク司伴奏 →ブランデンブルク協奏曲	12 風土		27(S02)	「待望」 S02/01
	ぶる	ブルーノ・ワルター	42 旋律			
	ぶん	文化映画雑感 海洋を拓く、秋吉台	12 風土		41(S16)	「日本映画」 S16/07
	ぶん	文化映画雑感 嶋 (理研科学映画)、村の小学校 (横浜シネマ)	12 風土		41(S16)	「日本映画」 S16/10
	ぶん	文化映画雑感 道場永平寺、ほか	12 風土		40(S15)	「日本映画」 S15/07
	ぶん	文芸家思想家はどふ音楽を観るか			30(S05)	「音楽世界」 S05/03
	ぶれ	ブレンネル峠			40(S15)	「山小屋」 S15/03
	へい	平安と喜びとをもて			64(S39)	「読売新聞」 S39/01/06 夕
詩	へい	平野の雲			24(T13)	「日本詩人」 T13/08
	へき	碧落荘私記	⑭		22(T11)	「詩聖」 T11/06
	へっ	ヘッセ	49 詩文集 10	10		
	へっ	ヘッセ、高橋健二訳『人生の歌 回想の手記』(書評)			63(S38)	「週刊読書人」 S38/05/13
	へっ	ヘッセとの出会い			73(S48)	『ヘッセへの道ー高橋健二古稀記念論文集』(新潮社)S48/10
	へっ	ヘッセの詩とその翻訳について			67(S42)	『世界詩大全集』附録 3(新潮社)S42/?
詩	へび	蛇			58(S33)	「山と高原」 S33/05

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	へび	蛇（君たち、私に～）	16 歳月の歌	03	55(S30)	「歷程」 S30/06
	へび	蛇窟から	⑭		22(T11)	「嵐」 T11/06
詩	へび	蛇窟に別れるくよるこばしい冬編>	02 高層雲	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/01
	へる	ヘルマン・ヘッセと共に	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」 S47/03[音楽と求道 51]
詩	へる	ヘルマン・ヘッセに			28(S03)	「詩神」 S03/06
詩	へる	ヘルマン・ヘッセを読む夕暮 →夕べの泉			28(S03)	「東方」 S03/06、「読売新聞」 S03/08/22
	へる	ヘルマン・ヘッセと『ヴァンデルング』	52 日光		74(S49)	「レジャーアサヒ」 S49/02/20
	へる	ヘルマン・ヘッセと自然	30 詩文集 07	07	58(S33)	『ヘルマン・ヘッセ全集別巻・ヘッセ研究』 (三笠書房)S33/04
	へん	ヘンデルの『メサイア』	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/01[音楽と求道 25]
	へん	編集室にて 同人			19(T08)	「白樺」 T08/11・12 合
	へん	編集余録			25(T14)	「詩と版画」 T14/09
	べー	「ベートーヴェンの生涯」（ロラン）－熱烈に生きた青春の宝	41 衆讃歌		66(S41)	「音楽之友」 S41/3
	べー	「ベートーヴェンの生涯」ある文庫版のために	42 旋律		69(S44)	ロラン、蛭川譲訳『ベートーヴェンの生涯』 (旺文社文庫)S44/04
詩	べー	ベートーフェン			22(T11)	「詩聖」 T11/11
	べー	ベートーフェンの少年時代			24(T13)	「少年倶楽部」 T13/08
	べー	ベートーベン民謡集			64(S39)	「朝日新聞」 S39/06/23 夕
	べー	ベートーヴェンと自然	39 泉	09	62(S37)	『ベートーヴェン選集 6』（筑摩書房）S37/08
	べー	ベートーヴェンの時間<欄外小品②>			60(S35)	「アルプ」 S35/02
	べー	ベートーヴェンの小さい花園	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/11[音楽と求道 35]
	べー	ベートーヴェンの誕生日に	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」 S44/02[音楽と求道 14]
	べー	ベートーヴェンを歌う	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」 S43/08[音楽と求道 08]
	べあ	ベアルの歌	22 視野	06	47(S22)	「蠟人形」 S21/08
	べに	べにばないちご	09 草原	05	38(S13)	「東京朝日新聞」 S13/06/22
詩	べん	勉学篇	44 空の下		69(S44)	「歷程」 S44/03
	べる	ペルシャ遺宝展をみて			59(S34)	「東京新聞」 S34/11/11 夕
詩	ほう	訪問	15 二十年	02		
	ほお	ホオジロの歌	53 魂		46*	
	ほお	朴の杖	23 遠方	06	50(S25)	「新女苑」 S25/07
	ほし	乾草刈の頃	23 遠方	06	48(S23)	「山」 S23/11
詩	ほし	星空の下を →航海	08 滞在	02	28(S03)	「東方」 S03/09、「詩神」 S03/10<海で編>
詩	ほし	星空の歌			29(S04)	「少年倶楽部」 S04/09
詩	ほし	欲しがりません勝つまでは			43(S18)	「少国民の友」 S18/03
	ほた	穂高のわさび田<写真に寄せて>	52 日光		71(S46)	「小原流挿花」 S46/05[表紙によせて 04]

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	ほっ	北方の天			31(S06)	「詩人時代」 S06/11
	ほと	ホトトギス	22 視野	06		
詩	ほほ	ほほえましいたより ←或るたよりから				
	ほろ	亡びゆく昔の美く写真に寄せて>	52 日光		71(S46)	「小原流挿花」 S46/03[表紙によせて 02]
	ほろ	滅びかけた武蔵野の姿			57(S32)	「東京新聞」 S32/10/24 夕
	ほん	Hon'yaku=Sha To Gen=choshu			23(T12)	「ローマ字」 T12/01
	ほん	本気であれー第七日本詩集を読んで			25(T14)	「都新聞」 T14/05/24,26
詩	ほん	本国	21 暦日	03	47(S22)	「歷程」 S22/07[復刊第一号]
詩	ほん	本村<暦日抄>	26 孤独	03	48(S23)	「至上律」 S23/08
詩	ぼう	忙中閑	17 同胞	02		
詩	ぼう	望郷の歌			33(S08)	「詩洋」 S08/11
詩	ぼう	望郷の歌			37(S12)	「世代」 S12/08
詩	ぼく	僕がまた武蔵野に…			29(S04)	「詩集」 S04/10
詩	ぼく	僕等の夏			44(S19)	「中学生」 S19/08
詩	ぼく	牧場	13 高原	02	23(T12)	「読売新聞」 T12/08/23
詩	ぼく	牧場の思い出			63(S38)	「優駿」 S38/05
詩	ぼせ	母性	10 行人	02	27(S02)	「詩集」 S02/12
	ぼろ	「ぼろぼろな駝鳥」について	42 旋律		69(S44)	北川太一編『高村光太郎詩集』(旺文社文庫)S44/03
詩	ぼん	ボンボック	01 樹木	01		
詩	まえ	前橋市遠望<奥上州詩抄編>	08 滞在	02	31(S06)	「霧の旅」 S06/05(№36)
	まが	まがきのほとり	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/03/22 夕[自然手帖 12]
	まき	牧場の変奏曲—Thema・I・II・III・IV・V	37 詩文集 08	08	61(S36)	「アルプ」 S36/11
	まき	牧場へ			35(S10)	「帝国大学新聞」 S10/04/15
	まご	孫	37 詩文集 08	08	60(S35)	「小原流挿花」 S35/07[野外と屋内 02]
詩	まご	孫らを遣りて<詩二篇>			70(S45)	「アルプ」 S45/04
詩	まご	馬籠峠	40 田舎	10		
詩	まづ	貧しき漁夫<日常生活編>			22(T11)	「白樺」 T11/08
詩	また	待たれる者	14 糧			
	まち	町に耕しつつ			44(S19)	「読売報知新聞」 S19/05/19
	まち	町をゆく牧歌	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/03/08 夕[自然手帖 10]
	まつ	思ひ出 →松井幹雄君の思い出	07 絵本	04	33(S08)	「霧の旅」 S08/10[№42]
	まつ	松井幹雄君の思い出 ←思ひ出・霧の旅会吊辞	07 絵本	04	33(S08)	「霧の旅」 S08/10[№42]
詩	まつ	松本の春 →松本の春の朝	13 高原	02		
詩	まつ	松本の春の朝 ←松本の春	16 歳月の歌			

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	まど	マドレーヌ・ロランのこと	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」 S36/06[野外と屋内 13]
詩	まど	窓	14 糧		42(S17)	「新女苑」 S17/07
詩	まど	窓から	01 樹木	01		
	まど	窓を叩く鳥	⑤		35(S10)	「野鳥」 S10/04
	まな	真夏の散歩	21 暦日	06		
	まふ	真冬のヒバリ	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/02/01 夕[自然手帖 05]
	まめ	豆島にて	23 遠方	06		
詩	まも	守られた約束			25(T14)	「少女倶楽部」 T14/10
	まる	Marcel Martinet			26(T15)	「築地小劇場」 T15/11
	まろ	まろく,重たく	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/07/05 夕[自然手帖 27]
詩	みく	三国峠	08 滞在	02		
詩	みし	見知らぬ知己			22(T11)	「時事新報」 T11/03/01
詩	みず	Mizu To Sora			22(T11)	「ローマ字」 T11/09
	みず	水を運ぶ母	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/08/25 夕[自然手帖 34]
	みず	水原秋桜子『薩摩山菊』(書評)	⑮		53(S28)	「日本経済新聞」 S28/08/24
詩	みず	水際	02 高層雲	01	22(T11)	「新家庭」 T11/09
	みず	水辺の一風景	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/01/18 夕[自然手帖 03]
	みち	道<折々の記>	46 鎌倉	09		
詩	みち	道づれ	10 行人	02		
	みち	道にて	41 衆讃歌		64/09*	
	みち	道二題	41 衆讃歌		66(S41)	「アルプ」 S41/11
詩	みつ	<三つの歌>モーツァルトの午後、ロケーション、冬の雅歌			65(S40)	「アルプ」 S40/07
	みつ	三つの詩とその思い出				伊藤信吉編『近代文学鑑賞講座 16』(角川書店)S34/06
	みつ	三つの詩集			22(T11)	「詩聖」 T11/12
	みつ	三ツ葉ツツジ	49 詩文集 10	10		
	みつ	三城牧場 ←三城牧場の春	12 風土	05	40(S15)	「東京朝日新聞」 S15/05/03
	みど	「緑の斜面」に寄せて	49 詩文集 10	10	71*	
詩	みど	緑の朝<六月の周囲編>			22(T11)	「日本詩人」 T11/07
	みど	緑色の服	①		30(S05)	「フィルハーモニー」 S05/04
	みな	港での難破・霞む眼をした馬・節制の法則・果実の神	50 寓話		71(S46)	「ガーデンライフ」 S46/09<わが庭の寓話 05]
詩	みや	都の父母に			24(T13)	「少年倶楽部」 T13/05
	みよ	妙高山	52 日光		70/08*	
詩	みよ	妙齢に輝く	17 同胞			
詩	みよ	明星と花	17 同胞	02		

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	みり	魅力ある山々・好きな山小屋（諸家）（アンケート）			39(S14)	「旅」S14/08
詩	むい	無為の時			23(T12)	「詩と版画」T12/03
詩	むい	無為の日の獣王（附写真）			29(S04)	「富士」S04/09
詩	むか	昔と今	10 行人	02		
	むか	昔の仲間	49 詩文集 10	10	71(S46)	「アルプ」S46/03
詩	むぎ	麦	04 曠野	01		
	むぎ	麦刈の月	18 麦刈	05		
詩	むぎ	麦畑での無言の返事	⑩		27(S02)	「詩文学」S02/10
詩	むぎ	麦畑の落日<春の詩四つ編>			24(T13)	「婦人公論」T13/05
	むさ	武蔵野に光る秋	⑤		34(S09)	「帝国大学新聞」S9/10/22
	むさ	武蔵野の夏			24(T13)	「婦人之友」T13/08
	むさ	武蔵野の早春賦	39 泉	09	63*	
	むさ	武蔵野の鳥	41 衆讃歌	09	65/11*	
	むさ	武蔵野晩秋	30 詩文集 07	07	55(S30)	「東京新聞」S30/11/17
	むさ	武蔵野の路			44(S19)	岩田九郎編『戦ふ文章 解釈と作法』（研究社）S19/
	むし	無心の庭・ポアズの目ざめ・放棄された蟻塚	50 寓話		71(S46)	「ガーデンライフ」S46/05<わが庭の寓話 01>
	むじ	無上の喜び			67/10*	北川太一編『高村光太郎全詩稿内容見本』（二玄社）S42/10
詩	むす	結びの詩 →桃咲く春	37 詩文集 08	08		
詩	むだ	無題			32(S07)	「蠟人形」S07/06
	むだ	無題（ノートより）	⑨			
詩	むて	無敵海軍			42(S17)	「青年」S17/05
詩	むね	胸の松明	01 樹木	01		
詩	むめ	無名の冬	49 詩文集 10	10	60(S35)	「日本美術」S35/01
	むら	紫つめくさ	23 遠方	06	48(S23)	「読売新聞（長野）」S23/08/04
詩	むら	村の盃蘭盆	02 高層雲	01	22(T11)	「詩聖」T11/09
詩	むら	村路			23(T12)	「日本詩人」T12/05
詩	め	眼<春の詩四つ編>			24(T13)	「婦人公論」T13/05
詩	めい	明月谷	44 空の下		68(S43)	「ハイカー」S43/02
詩	めい	明治節			42(S17)	「少国民の友」S17/
詩	めい	銘酒花霞の披露			24(T13)	「読売新聞」T13/02/26
詩	めき	目木<『西風の歌』から②>	16 歳月の歌	03	55(S30)	「詩学」S30/11
	めざ	「目ざめよと呼ばわる声す」	42 旋律			
	めず	珍しい雲	⑦		28(S03)	「天気と気候」S13/09

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	もー	モーツァルト	42 旋律		68(S43)	「フィルハーモニー」 S43/01
詩	もー	モーツァルトの午後<三つの歌>	40 田舎	10	65(S40)	「アルプ」 S40/07
詩	もず	もず<人は生きる編>	02 高層雲	01	23(T12)	「日本詩人」 T12/11、「少年倶楽部」 T13/10
詩	もっ	Motto fukai Shizen no naka e			23(T12)	「ローマ字」 T12/03
詩	もっ	もっと深い自然の中へ	⑭		23(T12)	「白樺」 T12/04
詩	もの	喪の春	10 行人	02		
	もの	物を書く楽しみ			71(S46)	「朝日新聞」 S46/05/17
詩	もみ	縦の樹の歌 (私はやはり自分が~)	10 行人	02		
詩	もみ	縦の木の歌			32(S07)	「詩集」 S07/04
詩	もみ	縦の木の歌			39(S14)	「山小屋」 S14/01
詩	もも	桃咲く春 ←結びの詩	40 田舎	10		
詩	もも	桃林			56(S31)	「文芸春秋」 S31/04
詩	もも	桃林にて(I) (II) (III)	16 歳月の歌	03	58(S33)	「山と高原」 S33/03
詩	もや	靄くよろこばしい冬編>	04 曠野	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/01
	もり	森のオルフォイス	21 暦日	06		
	もり	森の歌	41 衆讃歌		66(S41)	「アルプ」 S41/04
	もり	森の子供たち	22 視野	06		
詩	やが	やがて寒さが			26(T15)	「読売新聞」 T15/08/30
詩	やが	野外で			23(T12)	「読売新聞」 T12/02/17
	やが	野外手帖から	39 泉		63*	
	やく	訳詩の思い出	30 詩文集 07	07	55(S30)	「窓」 S30/05
	やし	夜叉神峠<写真に寄せて>	52 日光		71(S46)	「小原流挿花」 S46/12[表紙によせて 11]
	やす	安らかなる眠りのために	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/12[音楽と求道 36]
詩	やす	安らぎと広がりの中で	44 空の下		70(S45)	「アルプ」 S45/10
詩	やす	靖國の神の歌	17 同胞			
詩	やせ	野性			28(S03)	「詩集」 S03/02
	やせ	野性を恋う	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/12/06 夕[自然手帖 49]
	やち	『野鳥ガイド』(中西悟堂)を読んで			38(S13)	「野鳥」 S13/04
	やち	野鳥と風景	21 暦日	06		
	やち	野鳥閑談ー尾崎喜八氏に聞く			60(S35)	「東京新聞」 S35/05/15 夕
	やつ	八が岳山麓			63(S38)	「NHK」 S38/05/01
	やつ	八ヶ岳を思う	30 詩文集 07	07		
	やつ	八ヶ岳と周辺の山一座談会			48(S23)	「南信日日新聞」 S23/07/31~08/03
詩	やつ	八ヶ岳横岳<登山行三篇編>	08 滞在	02	29(S04)	「生活者」 S04/10

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	やつ	八ヶ岳裾野(茅野口)＜詩三篇編＞			31(S06)	「霧の旅」S06/09(№37)
詩	やつ	八ヶ岳裾野(小海口)＜詩三篇編＞			31(S06)	「霧の旅」S06/09(№37)
	やど	ヤドカリ	49 詩文集 10	10		
	やは	やはり野に置け	12 風土		26(T15)	「太平洋詩人」T15/06・07
詩	やぶ	藪鶯	01 樹木	01		
	やま	「山日記」から ←夏・山・高山植物－山日記から	07 絵本	04		「蠟人形」S09/08
	やま	『山に憩ふ』友に ←序文に代へる手紙	07 絵本	04	31(S06)	河田楨著『山に憩ふ』山と溪谷社 S06/04
	やま	『山の絵本』の思い出			62(S37)	『日本山岳名著全集』月報 2(あかね書房)S37/06
	やま	『山の絵本』再版に際して			42(S17)	朋文堂普及版の再版 S17/07
	やま	『山の絵本』自序			57(S32)	新潮社(新潮文庫)S32/10
	やま	『山の絵本』普及版のために			38(S13)	朋文堂普及版 S13/05
	やま	『山の絵本』文庫版のためのあとがき			51(S26)	角川書店(角川文庫)S26/10
詩	やま	山			26(T15)	「現代」T15/05
詩	やま	山(昭8/3)(詩二篇－武田久吉氏に)			33(S08)	「霧の旅」S08/05[№41]
	やま	山あるき－学生の‘冬季’のために	⑤		38(S13)	「帝国大学新聞」S13/12/05
詩	やま	山が待っている[ウェストン祭朗読詩 S44] →命あって			69(S44)	「毎日新聞」S44/06/02 夕、 『ウェストン祭』(日本山岳会信濃支部)S59
	やま	山すべて善し	52 日光		69/04*	
詩	やま	山で			28(S03)	「港街」S03/02
	やま	山で会った花の思ひ出			35(S10)	「旅」S10/09
	やま	山とロマンス－座談会			47(S22)	「夕刊信州」S22/07/31～08/04
	やま	山と音楽(一概に～)	07 絵本	04	34(S09)	「山」S09/09
	やま	山と音楽(随分おせっかいな～)	42 旋律		68(S43)	「本の手帖」S43/10
	やま	山と芸術(8・21霧ヶ峰山の会講演)	34 詩文集 04	04	35(S10)	「山」S10/09
	やま	山と自然と子の心	52 日光		73/06*	
	やま	山と心	52 日光		72(S47)	
	やま	山と文学(アルプ教室講演 S45/11/01)			71(S46)	「アルプ」S46/08
	やま	山にちなむ心象の断片			35(S10)	「山小屋」S10/04
	やま	山にゆかりの先輩	41 衆議歌		66/04*	
	やま	山に向ふ心	12 風土		39(S14)	「北海道帝大新聞」S14/01/27
	やま	山に思ひ出す人々 →浮ぶおもかげ	12 風土		40(S15)	「婦人公論」S15/06
詩	やま	山に来て			64(S39)	「いづみ」S39/07・08 合
	やま	山の一つ一つに	52 日光		72/07*	
詩	やま	山の湖	49 詩文集 10	10		

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等	
	やま	山の詩			42(S17)	「文芸」 S17/08	
	やま	山の詩と山の詩人	37 詩文集 08	08	62(S37)	「本の手帖」 S37/02	
	やま	山の春			36(S11)	「東陽」 S11/05	
詩	やま	山の新雪			70(S45)	「旅」 S45/10	
	やま	山の朝夕			40(S15)	「山小屋」 S15/06	
	やま	山の霧 (附写真)			36(S11)	「婦人之友」 S11/08	
	やま	山は離れど	49 詩文集 10	10	69(S44)	「アルプ」 S44/06	
	やま	山への断片	07 絵本	04	34(S09)	「山小屋」 S09/05・06 合併号・『私の山』の組曲・ 「大阪朝日新聞」 S09/06/28～29・山日記から～富士山問 答・蝶の採集・「国民新聞」 S09/07/31・山岳文学	
	やま	山へ行くまで	②		30(S05)	「詩文学」 S5/08	
	やま	山へ持ってゆく図鑑			58(S33)	「週刊読書人」 S33/07/14	
	やま	山を想う	④		49(S24)	「信濃毎日新聞」 S24/08/07 (高橋達郎編『高原のエッセイ』)	
詩	やま	山を描く木暮先生	20 残花	02	44(S19)	「霧の旅」 S19/10[№54] [木暮先生追悼号]	
	やま	山を歩いて草花を写す	⑦		37(S12)	「アサヒカメラ」 S12/05	
詩	やま	山間の歌			29(S04)	「現代」 S04/06	
	やま	山口耀久君のこと →山口耀久?	37 詩文集 08	08	61(S36)	「山と高原」 S36/04	
	やま	山住みのたのしさ (談)			52(S27)	「毎日新聞(長野)」 S27/02/27	
	やま	山小屋からの電話	41 衆讃歌		65/09*		
詩	やま	山小屋の朝 →伊那小屋の朝	13 高原	02	34(S09)	「日本詩」 S09/10	
	やま	山小屋への思い →山小屋への想い	37 詩文集 08	08	62(S37)	「アルプ」 S37/04	
	やま	山日記から I 富士山問答・蝶の採集 →山への断片			34(S09)	「大阪朝日新聞」 S09/06/28,29	
詩	やま	山本元帥を悼む			43(S18)	「日本学芸新聞」 S18/06/01	
詩	やま	山本司令長官戦死	17 同胞		43(S18)	「少国民文化」 S18/07	
詩	やま	山旅の朝			30(S05)	「詩文学」 S05/12	
	やめ	病めるマルチネ			28(S03)	「東方」 S03/06	
詩	やり	槍沢の朝	13 高原	02			
詩	ゆう	ユーロップに寄す			24(T13)	「日本詩人」 T13/04	
詩	ゆう	<友情の詩二篇編>或朝のおもひ、慰籍			02	26(T15)	「生命」 T15/07
	ゆう	友情	22 視野	06			
詩	ゆう	友情			24(T13)	「大街道」 T13/09、「抒情詩」 T14/03 (現代自選詩集)	
詩	ゆう	友情讃歌			29(S04)	「雄弁」 S04/07	
	ゆう	友人<折々の記>	46 鎌倉	09			
詩	ゆう	夕がた	01 樹木				

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	ゆう	夕ばえに向つて	02 高層雲	01	23(T12)	「詩聖」 T12/07
詩	ゆう	夕べの泉 ←ヘルマン・ヘッセを読む夕暮	08 滞在	02		
	ゆう	夕日とデュパルク	30 詩文集 07	07		
詩	ゆう	夕日の歌	21 暦日	03	52(S27)	「つめくさ」 S27/08
	ゆう	夕日の時 →春の帰途			39(S14)	「アサヒスポーツ」 S14/05/15
詩	ゆう	夕日の中の樹	26 孤独	03		
詩	ゆう	夕暮の歌	04 曠野	01		
詩	ゆう	夕陽哀歌	10 行人	02		
詩	ゆか	床しき世界			30(S05)	「キング」 S05/01
詩	ゆか	愉快的兵卒			25(T14)	「キング」 T14/12
詩	ゆき	雪			25(T14)	「少年倶楽部」 T14/02
詩	ゆき	雪 (急に冷えこんで～)	26 孤独	03		
詩	ゆき	雪 (雪の賓客が～)	01 樹木	01		
詩	ゆき	雪どけ			22(T11)	「帆船」 T11/03
詩	ゆき	雪どけの日から<空と樹木編>	01 樹木		22(T11)	「詩聖」 T11/03
詩	ゆき	雪に輝く南大門			22(T11)	「詩聖」 T11/01
詩	ゆき	雪に立つ	26 孤独	03		
	ゆき	雪のしたの歌			53(S28)	「山と溪谷」 S28/02
	ゆき	雪の甲信国境 →御所平と信州峠			35(S10)	「都新聞」 S10/01/18
	ゆき	雪の高原で	④		51(S26)	「山」 S26/04
詩	ゆき	雪の高原で			52(S27)	「岳人」 S27/01
詩	ゆき	雪の星月夜	16 歳月の歌	03	54(S29)	「日本山岳会信濃支部報」 S29/12
詩	ゆき	雪の浅間			52(S27)	「信濃毎日新聞」 S27/01/01
詩	ゆき	雪の谷間			50(S25)	「岳人」 S25/03
詩	ゆき	雪の峠路	16 組長	02	43(S18)	「文芸」 S18/01
詩	ゆき	雪の夕暮	26 孤独	03		
詩	ゆき	雪の林で			31(S06)	「婦人画報」 S06/12
詩	ゆき	雪を浴びて			52(S27)	「新女苑」 S27/02
詩	ゆき	雪解けの日から ←雪どけの日から				
詩	ゆき	雪割草			23(T12)	「日本詩人」 T12/01
詩	ゆき	雪月夜 (信濃大町)			57(S32)	「山と高原」 S32/12
詩	ゆき	雪山の朝	26 孤独	03		
詩	ゆき	雪消の頃	08 滞在	02	37(S12)	「大阪朝日新聞」 S12/03/19
詩	ゆき	雪消頃			42(S17)	大政翼賛会文化部編『地理の書』(翼賛図書刊行会)S17

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	ゆく	行く先々の富士の山	52 日光		70/02*	
詩	ゆた	豊のみのり	16 組長			
	ゆな	ユナニシズムの詩人				百田宗治編『現代詩講座 3・世界新興詩派研究』 (金星堂)S04/12
	ゆり	百合の木の歌	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/11/08 夕[自然手帖 45]
詩	よあ	夜あけの嵐	04 曠野	01		
	よあ	夜明けの山の写真に添えて	42 旋律			
詩	よい	宵の明星と蠟梅			43(S18)	「オール読物」 S18/03
	よう	幼者の道づれ			55(S30)	「朝日新聞」 S30/07/19 夕
詩	よう	幼女	26 孤独	03		
詩	よか	予感	40 田舎		53(S28)	「岳人」 S28/03
	よき	善き音ずれ	48 音楽		71(S46)	「芸術新潮」 S46/05[音楽と求道 41]
	よは	「ヨハネ受難曲」について	42 旋律			
詩	よふ	夜更けの郊外にて	01 樹木			
詩	よふ	夜更けの電車	01 樹木			
詩	よみ	<春の詩篇>アイヘンドルフ再読、よみがえる春の歌	44 空の下		66(S41)	「山と溪谷」 S41/05、 「歷程」 S43/04 尾崎喜八小詩集③>
	よみ	よみがえった句	30 詩文集 07	07		
詩	よみ	よみがえる春の歌<春の詩篇②>	44 空の下		66(S41)	「山と溪谷」 S41/05、 「歷程」 S43/04 尾崎喜八小詩集③>
詩	よる	夜 マルセル・マルチネに・・・	10 行人	02	27(S02)	「待望」 S02/01
詩	よる	夜の我家			23(T12)	「白樺」 T12/01
詩	よる	夜の樹々と星と私と	01 樹木	01		
詩	よる	夜の大都会 (附写真)			29(S04)	「富士」 S04/07
詩	よる	夜の道	10 行人	02		
詩	よる	夜をこめて	10 行人	02		
詩	よろ	<よろこばしい冬編> クリスマス、霜と頬白、堇、一つの望み、冬の檜林、蛇窪に別れる、霧	04 曠野	01	24(T13)	「日本詩人」 T13/01
詩	よろ	<悦ばしき夏編>朝、烏瓜の花、西瓜、丘の家			23(T12)	「婦人之友」 T12/09
詩	よろ	<悦びの時編>明るい窓、エルハアラン読書、素朴な愛			23(T12)	「詩聖」 T12/06
詩	よろ	悦ばしい信条	02 高層雲			
詩	よろ	悦び	01 樹木	01	21(T10)	「詩聖」 T10/12
	らい	雷雨の前 (芸術写真に添えて)			28(S03)	「キング」 S03/08
詩	らに	La nuit d'etoile<一月編>			24(T13)	「日本詩人」 T13/02
	らん	<欄外小品>1 こんな天気には・2 ベートーヴェンの時間			60(S35)	「アルプ」 S35/02

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
詩	らん	ランプが微かな音をたてゝ			24(T13)	「向日葵」 T13/07
	らん	ランプに黒光る宿（都新聞所収） ←奥上州の旅から？			32(S07)	『法師温泉』（旅人社） S07/10
詩	りっ	<立春>伊藤海彦君に・眼前の蜜蜂に	36 詩文集 03	03	55(S30)	「アルビレオ」 S30/07
詩	りっ	立秋の朝			22(T11)	「白樺」 T11/09
	りゃ	略年譜	37 詩文集 08	08		
	りゅ	流儀をもってくらそう一座談会・萩原徹・片岡球子・村口昌之			68(S43)	「婦人之友」 S43/10
詩	りよ	<旅情三篇①>浄土平（妻に代りて）、春愁、その空の下で（妻に代りて）	44 空の下		70(S45)	「アルプ」 S45/01
	りよ	旅行の必要・性格の強さ・完全のための弁護	50 寓話		71(S46)	「ガーデンライフ」 S46/07<わが庭の寓話 03]
	りよ	良識の人（川路柳虹の印象）			27(S02)	「魁火」 S02/05
詩	りん	龍胆色			28(S03)	「東方」 S03/06
詩	りん	林間	26 孤独	03	54(S29)	「アルビレオ」 S29/02
詩	りん	林檎の里	26 孤独	03		
詩	りん	輪鋒菊<登山行三篇編>	08 滞在	02	29(S04)	「生活者」 S04/10
詩	れい	靈感	10 行人	02	26(T15)	「生命」 T15/05
	れい	靈感(野外手帖から)	39 泉		63*	
	れお	レオン・パザルジェットの訃報			29(S04)	「読売新聞」 S04/02/13,14,16
詩	れき	<暦日抄>家畜小屋の前で、国境にて、蹄鉄工、本村			48(S23)	「至上律」 S23/08
詩	れつ	烈烈たる元旦			43(S18)	「読売報知新聞」 S18/01/01
詩	れん	連句三題－行人・叡子			54(S29)	「かびれ」 S29/01
詩	れん	連峯雲	13 高原			
詩	ろあ	L'oiseau bleu（偶作）			26(T15)	「築地小劇場」 T15/02
詩	ろう	老教授	04 曠野	01	24(T13)	「樹魂」 T13/12
	ろう	老詩人のみた諏訪の女性と文化（談）			48(S23)	「南信婦人新聞（諏訪版）」 S23/23/05？
詩	ろう	老農	26 孤独	03		
詩	ろう	老木の頌			63(S38)	「産経新聞」 S38/01/03
詩	ろく	<六月の詩から>華麗な片隅・朝のひとつとき・転調			59(S34)	「アルプ」 S34/08
詩	ろく	<六月の周囲編>午後六時、緑の朝			22(T11)	「日本詩人」 T11/07
	ろく	六月の体験から			59(S34)	「早稲田文学」 S34/07
	ろく	六月詩壇月評（抄）	⑩		23(T12)	「日本詩人」 T12/07
	ろく	六号評論－雑感			23(T12)	「詩聖」 T12/06
	ろく	六号評論－早春の田舎から			23(T12)	「詩聖」 T12/04
詩	ろけ	ロケーション<三つの歌>			65(S40)	「アルプ」 S40/07
	ろだ	ロダンの死を悼みて			18(T07)	「白樺」 T07/01
詩	ろぼ	路傍	26 孤独	03		

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	ろぼ	路傍のムクゲ	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/08/09 夕[自然手帖 32]
	ろま	Romain Rolland Shi no Tegami			23(T12)	「ローマ字」 T12/02
	ろま	ロマン・ロランからの消息			28(S03)	「東方」 S03/05
	ろま	ロマン・ロランとの文通			29(S04)	「文学時代」 S04/12
	ろま	ロマン・ロランの近業			30(S05)	「都新聞」 S05/03/25~27
	ろま	ロマン・ロランと自然	37 詩文集 08	08	59(S34)	『ロマン・ロラン全集』 月報 xiv/xv (みすず書房)S34/12
	ろま	ロマン・ロランの声	42 旋律			
	ろま	ロマン・ロランの友等に	③		26(T15)	「都新聞」 T15/04/07・8・9
	ろま	ロマン・ロラン氏からの手紙	③		22(T11)	「詩集」 T11/09
	わい	Wild Life の本	⑤		40(S15)	「学燈」 S15/3、「動物文学」 S15/05
	わか	「別れの曲」をかなでる木の手箱			67(S42)	「朝日新聞」 S42/04/11 夕
詩	わか	若い下婢	14 糧	02		
詩	わか	若い主婦<親密な詩四つ (現代詩壇鳥瞰) 編>	02 高層雲	01	23(T12)	「改造」 T12/08
詩	わか	若い日本			26(T15)	「キング」 T15/10
詩	わか	若い白樺	08 滞在	02	33(S08)	「東京堂月報」 S08/07、「若草」 S09/01
詩	わか	若き応召者	14 糧	02	42(S17)	「文芸春秋」 S17/09
	わか	若き日の友の姿	41 衆讃歌	09	65(S40)	「本の手帖」 S40/04
詩	わか	若駒 (附口絵)			30(S05)	「キング」 S05/01
詩	わか	若葉の庭			59(S34)	「朝日新聞」 S34/05/17
	わか	別れの曲と到着の歌	22 視野	06		
	わか	別れの笛	39 泉	09	62(S37)	「東京新聞」 S37/04/05 夕[自然手帖 14]
	わが	「わが愛する山々」	37 詩文集 08	08		
	わが	わが『イタリアのハロルド』	48 音楽		70(S45)	「芸術新潮」 S45/08[音楽と求道 32]
	わが	わが愛誦の詩歌-回想 (ヘッセ)			64(S39)	「婦人之友」 S39/08
	わが	わが愛誦の詩歌-女囚と老人 (カロッサ)	41 衆讃歌		64(S39)	「婦人之友」 S39/09
	わが	わが慰めの音楽	48 音楽		72(S47)	「芸術新潮」 S47/05[音楽と求道 53]
詩	わが	わが山々に			58(S33)	「ケルン」 S33/10
	わが	わが師わが友	41 衆讃歌		65/08*	
	わが	わが詩集わが人生			64(S39)	「読売新聞」 S39/08/16
詩	わが	わが心つねに闘いにあり	16 組長			
	わが	わが生の伴侶-歌	49 詩文集 10	10	70(S45)	「現代ギター」 S45/01
	わが	わが青春記-運命を決したもの			52(S27)	「東京新聞」 S27/11/04
詩	わが	わが村落にて			24(T13)	「大街道」 T13/10

	50音	題名	初出書、等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	わが	我が一日			37(S12)	「婦人画報」S12/01
詩	わが	我が家			22(T11)	「詩聖」T11/05
詩	わが	我が家			42(S17)	「青少年之友」S17/12
詩	わが	我が祈	16 組長			
	わが	我が町にて			43(S18)	「読売報知新聞」S18/02/16,17
詩	わが	我家の台所<親密な詩四つ (現代詩壇鳥瞰) 編>	02 高層雲	01	23(T12)	「改造」T12/08
詩	わが	我家遠望			24(T13)	「向日葵」T13/05
詩	わが	我児—その児の母に			27(S02)	「現代文芸」S02/09
	わす	忘れじの富士見高原	52 日光		69/09*	
	わす	忘れ得ぬおもかげ			37(S12)	「野鳥」S12/02
	わす	忘れ得ぬ牧場—戸隠と神津	⑥		57(S32)	「旅」S32/09
	わた	『私の山』の組曲 →山への断片			34(S09)	「山小屋」S09/05・06 合
	わた	わたくし宅に於ける夕暮先生				『近代作家追悼文集 33』(ゆまに書房)97/1
	わた	わたしの心の山			70(S45)	「信濃毎日新聞」S45/07/01
	わた	私とベートーヴェン (もしも私にして～)	49 詩文集 10	10		
	わた	私とベートーヴェン—よみがえる希望			70(S45)	「レコード芸術」S45/07
	わた	私と笛	39 泉	09	63*	
詩	わた	私のかわゆい白頭巾	04 曠野	01	26(T15)	「日本詩人」T15/01
	わた	私のタンドレス・プルミエール	48 音楽		68(S43)	「芸術新潮」S43/02[音楽と求道 02]
	わた	私のバッハ			67(S42)?	『世界の音楽』月報 5(小学館)
	わた	私のヘルマン・ヘッセ (1)	42 旋律		68(S43)	『新潮世界文学』月報 9(新潮社)S43/10
	わた	私のヘルマン・ヘッセ (2)	42 旋律		68(S43)	『新潮世界文学』月報 10(新潮社)S43/11
	わた	私のベルリオーズ	49 詩文集 10	10		
	わた	私の愛鳥週間	37 詩文集 08	08	61(S36)	「小原流挿花」S36/07[野外と屋内 14]
	わた	私の一冊の本	41 衆讃歌		66/08*	
	わた	私の音楽と妻の音楽	48 音楽		69(S44)	「芸術新潮」S44/07[音楽と求道 19]
	わた	私の近況			65(S40)	「小原流挿花」S40/06
詩	わた	私の元旦			66(S41)	「自由民主新聞」S41/01/05
詩	わた	私の古い長靴	04 曠野	01	24(T13)	「雄弁」T13/04
	わた	私の語学独学自習	49 詩文集 10	10	70(S45)	「婦人之友」S45/01
	わた	私の好物—くわいのうまに			63(S38)	「朝日新聞」S38/08/18
詩	わた	私の詩	10 行人	02	22(T11)	「詩聖」T11/03、「若草」S02/01
	わた	私の自然手帳(一)—春を呼ぶ・環境論と履歴説・ネコヤナギ			63(S38)	「創文」S38/04
	わた	私の自然手帳(五)—春を待ちつつ・荒野に呼ぶ声			64(S39)	「創文」S39/04

	50音	題名	初出書,等	集	初出	初出誌・紙、刊本、月日、等
	わた	私の自然手帳(三)ー三光鳥・花の写生			63(S38)	「創文」 S38/06
	わた	私の自然手帳(四)ー靈感・自他・針小棒大			63(S38)	「創文」 S38/07
	わた	私の自然手帳(二)ータンポポーヒキガエルの春・車窓の妙音			63(S38)	「創文」 S38/05
	わた	私の心の山	52 日光		70/06*	
	わた	私の凶鑑			65(S40)	「日本読書新聞」 S40/05/24
詩	わた	私の聖日曜日	02 高層雲	01	23(T12)	「詩聖」 T12/04
	わた	私の青春とともに暮らしたレコード	⑥		72(S47)	「レコード芸術」 S47/1
詩	わた	私の窓の南方の麦畑で			24(T13)	「日本詩人」 T13/07
	わた	私の庭	30 詩文集 07	07	71(S46)	「婦人之友」 S46/10
	わた	私の方法(一)ーわが子の自然研究指導者としての			35(S10)	「野鳥」 S10/07
	わた	私の方法(二)			35(S10)	「野鳥」 S10/08
	わた	私の隣組			42(S17)	『私の隣組』大政翼賛会宣伝部編 (翼賛図書刊行会)S17/10
詩	わた	私は愛する	10 行人	02		
	わた	私は見た,彼ら二本の実桜が・ニューヨークの群衆・古い木の柱の歎き	50 寓話		71(S46)	「ガーデンライフ」 S46/08<わが庭の寓話 04]
詩	わた	私は承認を要求しない			24(T13)	「向日葵」 T13/07
詩	わた	私は朝鮮の歌つてゐるのを聴く			24(T13)	「日本詩人」 T13/07
	わた	私事雑記			28(S03)	「東方」 S03/09
詩	わだ	和田峠	40 田舎			
詩	わだ	和田峠東餅屋風景	08 滞在	02	36(S11)	「登山とスキー」 S11/05
	わる	悪い先例であるー詩を散文に書換へるとは			22(T11)	「読売新聞」 T11/11/09
詩	われ	われらのみち			44(S19)	「日本少女」 S19/12
詩	われ	我[吾]等の答	16 組長			
	われ	我等かく戦ふー詩壇			43(S18)	「読売報知新聞」 S18/03/16,17
詩	われ	我等の勤労			43(S18)	「青少年之友」 S18/11
	われ	我等の登山			42(S17)	「日本女性」 S17/07
詩	われ	我等の民話ーハンス・カロッサへの追悼詩	16 歳月の歌	03	58(S33)	「詩学」 S33/01 (現代日本詩集)
詩	われ	我等動ぜず			44(S19)	「東京新聞」 S19/06/18

## (附) 翻訳書

- ・単行本化された尾崎による翻訳を、原著者の 50 音順・刊行順で一覧とした。
- ・伊藤海彦氏による資料（「尾崎喜八資料」8）、嘉納忠明氏による資料（「同」10）などを基に整理した。
- ・国立国会図書館等、各種情報源から得たデータを追加している。
- ・尾崎訳の単著のみでなく、編集本も含んでいる。
- ・ごく一部を除き、原本と照合していない。

原著者	書名	発刊年月	出版社、等	収録作品等
ジャム	新訳ジャム詩集 世界の詩 21	65(S40).07	弥生書房	
ジャヴェル	一登山家の思ひ出	37(S12).08	竜星閣	
ジャヴェル	一登山家の思ひ出	52(S27).11	角川書店(角川文庫)	
ジャヴェル	世界山岳名著全集 05	67(S42).02	あかね書房	一登山家の思い出
デュアメル	世界戯曲全集 35 佛蘭西篇(5) 佛蘭西現代劇集	28(S03).01	近代社戯曲全集刊行部	光一四幕
デュアメル	北方の歌	40(S15).03	竜星閣	
デュアメル	阿蘭陀組曲	41(S16).03	竜星閣	
デュアメル	モスクウの旅	41(S16).06	竜星閣	
デュアメル	阿蘭陀組曲・北方の歌	53(S28).05	角川書店(角川文庫)	
デュアメル	わが庭の寓話	53(S28).06	創元社	
デュアメル	わが庭の寓話・動物譚と植物誌	63(S38).09	創文社	
デュアメル	慰めの音楽	63(S38).12	白水社	
ヘッセ	ヴンデルング	39(S14).04	朋文堂	
ヘッセ	ヘルマン・ヘッセ全集 10	40(S15).08	三笠書房	母に帰る・さすらいの記
ヘッセ	畫家の詩	42(S17).03	三笠限定版倶楽部	
ヘッセ	さすらいの記	54(S29).04	三笠書房	さすらいの記、童話
ヘッセ	新譯ヘッセ詩集	55(S30).06	三笠書房	詩集 153 編
ヘッセ	ヘルマン・ヘッセ全集 07	57(S32).06	三笠書房	メールヘン
ヘッセ	ヴンデルング (改訂)	57(S32).10	朋文堂	
ヘッセ	ヘルマン・ヘッセ全集 17	58(S33).10	三笠書房	詩集 299 編
ヘッセ	画と隨想の本	64(S39).09	創文社	
ヘッセ	世界の名詩集 10 ヘッセ	67(S42).04	三笠書房	詩集 115 編
ヘッセ	ヘルマン・ヘッセ著作集 10	67(S42).12	三笠書房	さすらいの記、童話
ヘッセ	ヘッセ詩集	71(S46).07	三笠書房	
ヘッセ	さすらいの記	73(S48).12	講談社(講談社文庫)	碧い遠方、さすらいの記
ヘッセ	世界文学全集 52 ヘッセ	75(S50).01	筑摩書房	詩集

ベルリオ(ーズ)	自傳と書翰	20(T09).12	叢文閣	
ベルリオ(ーズ)	ベエトーゼン交響樂の批判的研究	23(T12).06	仏蘭西書院	
マアテルリンク	悦ばしき時 自然隨筆集	46(S21).10	富岳本社	
リルケ	リルケ詩集	55(S30).12	角川書店	
リルケ	時禱詩集	59(S34).05	弥生書房(弥生選書 1)	
リルケ	リルケ全集 02 詩集(2)	60(S35)	彌生書房	時禱集
リルケ	リルケ全集 09 美術論・エッセイ	60(S35).07	彌生書房	ザムスコーラ
リルケ	世界名詩集 09 リルケ	67(S42).11	平凡社	時禱集第一部
ロマン・ロラン	近代音樂評傳	16(T05).12	洛陽堂	
ロマン・ロラン	花の復活祭	27(S02).05	叢文閣	
ロマン・ロラン	花の復活祭	48(S23).09	あしかび書房	
ヴァッガール	牧場の本	60(S35).05	創文社(アルプ選書)	
ヴィルドラック	ヴィルドラック選詩集	28(S03).03	詩集社	
ヴィルドラック	ヴィルドラック選詩集(改訂増補版)	46(S21).09	寺本書房	